

投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年1月26日(木) 午後1時20分

タイトル: 人類の大量虐殺が始まる恐れがある

イラン政府がホルムズ海峡封鎖を行う姿勢を明確にしている。

イスラエル軍内部に、イラン軍による核先制攻撃を憂慮する声が支配的になっているという。

なぜ「核攻撃」？

たかだか地域紛争である。

核攻撃をしたら、互いに国家が消滅してしまうほどの打撃になるのをわかっている。

一連の流れは、茶番劇である。筋書きが決まっている。

核戦争が現実になることによって、世界の人々の心の中にある「核は使用できない兵器」との一線が破られる。

これこそがイルミナティの願いなのだ。

タブーを破り、核兵器を普通に使えるようにすること。

そうなれば、世界中の戦争で今よりも簡単に人を殺すことができる。

イラン・イスラエル戦争で核兵器が使用されると、人類の大量虐殺が始まる恐れがある。

われわれ庶民の思いとはまったくかけ離れた次元でことが決定されている。

世界がサタンに支配されていることがこれでお分かりだろうか。

サタンの支配の上におられる神に祈るしかない。

629 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年1月27日(金) 午後2時21分

タイトル: シェークスピアに隠されたメッセージ

シェークスピアの正体がフランシス・ベーコンであったことを示す次のページを開くとフラッシュムービーが出てきます。

<http://www.spearshaker.com/>

シェークスピアの二つ折り本が出てきます。これは、1623年発行の初版本だそうです。「テンペスト」の頭字Bの装飾の中に Francis Bacon の文字が隠されています。

おそらくシェークスピアのゴーストライターはフランシス・ベーコンだったのでしょう。

KJVには仕掛けがしてあります。

フリーメイソンの数字46が鍵です。

創世記1:1から数えて46番目の単語がlightです。

ジュネーブ聖書ではGod。

つまり、神から光になった。

ルシファーは、「光を携える者」ですから、神からサタンに強調点が変わった。

詩篇46篇の1節から数えて46番目がShake、後ろから数えて46番目がSpearだ（セラを除く）。

完全に自分の名前を刻んでいる。

そして、シェークスピアという名前も奇妙だ。

「槍をふるう」。

欧米の絵では、サタンは槍を持っている。

シェークスピアとは「槍をふるう者」=サタンということなのか。

フランシス・ベーコンが、薔薇十字団の教祖的存在であり、フリーメイソンの第一代グランドマスターだったことから考えると、これも可能性として否定できない。

KJV全体が、実はサタンの暗号が隠されているのではないかと思えてきた。

630 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年1月27日(金) 午後6時21分

タイトル: 46という数字

フランシス・ベーコンがこだわる 46 という数字は、自分が属していた薔薇十字団の誕生日から来ているのかもしれない。

=====

「金色と薔薇色の十字架」という 18 世紀の秘密結社によれば、薔薇十字団は、アレクサンドリアのグノーシスの賢人オルムスとその従者がイエスの弟子のひとりマルコによって回心した紀元 46 年に誕生した。

この回心によって、初代キリスト教の新しい高度な教えによってエジプトの神秘が浄化さ、薔薇十字団は生まれたと考えられる。彼らは、薔薇をまとった赤い十字架をシンボルとして採用した。

http://www.witchcraftandwitches.com/related_rosicrucianism.html

=====

フリーメイソンは、自らの誕生日が 13 日であるためこの数字にこだわる。

ジョン・J・ロビンソンの *Born in Blood: The Lost Secrets of Freemasonry* によると、1307 年 10 月 13 日の金曜日に、フランスのフィリップ 4 世が Templar 騎士団の逮捕を命じた。それ以来、Templar 騎士団はイギリスの石工たちに紛れ込み、後にフリー・メイソンを組織した。米国の建国の父たちのほとんどがフリー・メイソンであったことから、13 を自らの出発を象徴する数字として記念したと考えることができる。

<http://en.wikipedia.org/wiki/Triskaidekaphobia>

631 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012 年 1 月 28 日(土) 午前 1 時 20 分

タイトル: エラーで送信できません

以下のメールの方にエラーで送信できませんのでお返事お願いします。(x 部分は伏字)

- > 以前 na0hixx@x... にメール送っていただいていたのですが
- > 迷惑メールのためフィルターかけたため届かなくなったのですが
- > 設定変えたので また 上記のアドレスにお願いいたします
- >

632 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012 年 1 月 28 日(土) 午前 1 時 53 分

タイトル: 悪霊を追い出すことについて

- > 地上にある者、地上にいる人、彼らをすべて主の所有と考えれば
- > 全部が全部、私たちにとはおろすがりの人にまで権威があると
- > 考えていいのでしょうか？

そうです。

ただし、私たちの所有権、主権というものは、法的なものです。

イエスは、「全世界は私のものになった」と言われました。「わたしは世に勝った」と言われたのですから。ここで「勝つ」というニカオーという言葉は「征服した」という意味です。イエスは 2000 年前に世界を征服された。完了形が使われていますから、今もその状態が続いているということを強調しています。

イエスにつくわれわれも天のところに座っており、キリストとともに王であり祭司です。

しかし、その権限は、法的なものであり、実際的ではありません。

私たちがアパートを法的に手に入れたとしても、そこに住民が残っていれば、まだ実際の所有者ではありません。

イエス以降の世界は、法的には世界を支配しているが、実際はまだという状況です。

実際に支配するには、労働が必要です。アパートを潰してそこに高層マンションを建てたくても出て行かないならば、なんとか交渉したりいろんなことをして出て行かせるようにします。

この世界は、サタンが「権利もないのに占領している」状況です。彼らには 2000 年前から権利はないのです。

私たちよりも弱い。だから、私たちが労働をして、働きかけをすれば、出ていきます。

私たちの通りすがりの人は、私たちに逆らう権利はありません。しかし、私たちはだからといってその人々を強制し、「主を信じなさい！」と無理強いすることはできません。

私たちの方法は、あくまでも「バプテスマを授け、イエスが教えたすべてのことを守るように教える」ことです。

イエスが示されたように、他人の足を洗うこと。

人に仕えることによって、人を獲得するのです。

それ以外の方法は邪道です。暴力や戦争などによってクリスチャンにするのは間違っています。

> 極端な話、気が向けばいつでも悪霊払いできる状態でしょうか。

> (やたらめったらは、常識としてやりませんが)

いつでもできます。

しかし、効果が出るのが何年も後になるかもしれません。

すぐに効果が出るかもしれません。

それは主の決定によります。

私の知り合いの牧師は、ある女性に取りついた悪霊を除くのに、長い間断食をしながらものすごい祈りをしました。

それでやっと出ていくことができました。

- > 私はずっと、自分のことに直接関係なければ
- > そんな権利はないと思っていました。(今回の友人)

そんなことはありません。

私たちは、遠くの TV で見る外国人の中の悪霊を縛ることすらできます。

- > 戦争が終わったことを知らずに占領している
- > 敵軍の横行を違法ではないかと言って正すようなこと？
- >
- > もしそうだったら・・・？
- > 私は今まで何をしていたのでしょうか・・・弱すぎる。
- >
- > だけど、興奮するのはまだ早くて
- > しっかりと聖書に基づく根拠、知識を得なければ
- > 私はまだこの分野には未熟です。

イエスは、「私はあなたがたに悪霊を追い出す権威を与えます」と言われた。

悪霊を追い出すことなしには、この世界はまともになりません。世界には悪霊に取りつかれて苦しんでいる人々がたくさんいます。

- > それと、福音書でイエス様が
- > 1つの霊を追い出すと、行き場がなく7つの
- > 他の霊を連れて戻る・・・というのがありますが
- > これはどういう場合におこるのでしょうか？

悪霊が狙っているのは、人間に取りつくことです。動物でもいいですが、人間のように知的な生命体に取りつくことによって、被造世界を破壊することがより効果的にできます。

できるだけ多くの仲間の悪霊に取りつかせて、その人の人格を完全に支配し、いろんな人格が一人の人の中にいて、場合場合によって出現するようにしたいのです。

とにかく、取りついた人の人生をめちゃくちゃにしたいのです。

- > イエス様を受け入れるつもりがない人に悪霊払いを
- > やってしまうと、そうなるといえるのでしょうか？

そうですね。

その可能性は高いです。

追い出したあとに聖霊で満たさないと、隙間ができて、入られます。

ノンクリスチャンの場合は、クリスチャンになるまでは安心できません。

クリスチャンになっても、信仰がぐらぐらしているならば、入られて支配されることがあります。

633 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年1月28日(土) 午後9時42分

タイトル: これがわれわれに与えられた使命である

われわれは、周りを見ない。

周囲の勢力が強くても、関係ない。

だからといって、今の現時点でまともに周囲と戦っても無駄だ。

われわれの側にはまだ力はないから。

しかし、神がわれわれを王として任命されているので、いずれ力はわれわれのほうにやってくる。

サタンは必死に妨害するだろう。

まず「信仰的に見る」ということを止めさせようとする。

「ほら、現実を見ろ。未来にクリスチャンが勝つなんて幻想に過ぎない」と。

クリスチャンは、これに騙されてきた。

だから、未来に賭けようとしてこなかった。

いいですか。

未来はわれわれのものだ。

だから、こちらが努力を重ねていけば必ず突破口が開ける。

八方ふさがりでも、小さな穴が開いているはずだ。

何度もチャレンジしてその突破口を見つける。

神はその繰り返しのチャレンジをわれわれに期待しておられる。

簡単に見つかるようなものではない。

神は執拗に努力する人に必ず突破口を見せてくださる。

諦めるような人間には見せない。

諦めないでやっているうちに突然道が開けるだろう。

そうしたら、われわれが地上を支配する道が広がっている。

霊的世界における趨勢が逆転するだろう。

サタンは守勢に回る。

こちらが攻める態勢に入る。

どんどんサタンが作った牙城を破壊する。

進化論とか共産主義とか、フリーメイソンとか、イルミナティとか。

塩をかければ消えてしまうナメクジみたいなやつらだから、消えていく。

教育も政治も全部われわれのイニシアチブでやる。

正義が支配し、戦争を廃絶する。

そのような状態にわれわれは、もっていくことができる。

だから、チャレンジしなければならない。

どんどんと目の前に立ちあがる大きな石の扉をたたけ。

何万回と叩いているうちにひびがはいる。

そのうちに割れる。

そのような時代になれば、われわれは、兆とか京の単位のお金を手にするだろう。

支配者としてわれわれの子孫には巨額の資産を遺すだろう。

われわれが子孫を信仰に基づかずに育てるならば、すぐに神はわれわれからすべてを奪われるだろう。

ヴァン・ティル＝ラッシュドゥーニーのラインから離れるならば、われわれは再度悪魔に主導権を握られるだろう。

だから、どのような組織でも「信仰以外で」人を選んではならない。

能力だけで選ぶと大変なことになる。

契約の範囲内にいる場合にのみ、われわれには力がある。

そこから出てしまえば、ただの人だ。

髪の毛をそられたサムソンのようになる。

信仰の土台である「前提主義」をまず確立し、それを未来永劫にわたって絶対に捨ててはならない。

神の言葉を最高の権威として常に置き、科学に主導権を取らせてはならない。

地上の隅々にいたるまで徹底して支配すること。

これがわれわれに与えられた使命である。

634 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年1月29日(日) 午前3時57分

タイトル: 馬鹿への対処法

あるサイトでむちゃくちゃなことを言う人間に出会った。

多神教は平和主義だが、一神教は戦争主義だという。

一神教は科学の邪魔をしたとも。

史実にまったく反する。

多神教ローマは、戦争によって版図を拡大した。

キリスト教は科学を促進した。無数の証言がある。

そう指摘しても認めようとしない。

つまり馬鹿なのだ。

馬鹿にはどう対処すべきか。

「愚かな者には、その愚かさにしたがって答えよ。そうすれば彼は、自分を知恵のある者と思わないだろう。」(箴言 26・5)

馬鹿な人には馬鹿な言葉で返す。

これは、一つの原則だ。

ある時点までなるべく平和を保つようにするが、しかし、むちゃくちゃなことを言い始めたら、相手が馬鹿であることを指摘する。

馬鹿には馬鹿と言ってあげよう。

そうすれば自分が馬鹿であると悟るかもしれない。

ただし、その前の節には、逆のことが書かれてある。

「愚かな者には、その愚かさにしたがって答えるな。あなたも彼と同じようにならないためだ。」(箴言 26・4)

ある程度まで指摘しても、だめならそれで立ち去ることだ。

むきになって相手のペースに巻き込まれ、罵倒の応酬になったらあなたの負けだ。

自分を失って見苦しいことになるくらいなら、相手に会わないことだ。自分を興奮させる人を避けなさい。

あくまでも馬鹿に対しては、超然としていること。

ある程度まで馬鹿を指摘してあげてだめなら、立ち去ること。

論争とか裁判に巻き込まれるくらいならば、そういった時間をほかのことに有効に使いなさい。

635 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年1月29日(日) 午前4時47分

タイトル: 御言葉は「剣」である

霊的な知識のない人は、御言葉の恐ろしさを知らない。

聖書において、御言葉は「剣」である。

黙示録において現れたイエス・キリストの口からは両刃の剣が出ていた。

イエス・キリストの口から出る御言葉は、両刃の剣、つまり、自分をも傷つける恐れのある攻撃の武器である。

このサイトで語られている事柄、つまり、聖書に基づくメッセージも両刃の剣である。

悪魔を退治するために使うこともできるが、下手をすると、自分をも傷つける。

もしあなたが聖書の言葉を聞いたとする。

それは、あなたの前に置かれた剣である。

それは刃を上に向けて立っている。

向こうに倒れる場合もあれば、こちらに倒れる場合もある。

神は御言葉にしたがって裁かれるので、いったん聞いた御言葉はあなたを裁く剣となる。

従えばあなたの敵であるサタンを倒すだろうが、従わなければ自分を傷つけ倒すこともある。

いつまでも同じメッセージが心に残っているならば、それは、相当まずい状態に至っていることを意味する。

裁きが下るときに「やっぱりあれが原因だったか」と分かる。

知識があればあるほど、祝福も裁きもどちらも大きくなる。

聖書を知って、知識が増せば増すほど、心の中に灰色の領域が少なくなり、白か黒かのいずれかになっていく。

これが「心の開墾」である。

一端開墾された土地に種を蒔いて生産することは容易になる。

異邦人は、知識がないため、開墾されていない。

そのため、なかなか霊的なことが分らない。

つまり、動物に近いのだ。

聖書を学んで知識を蓄え、悟りを増やしたならば、それはますますあるべき人間の姿に近づいていることになる。

しかし、それだけ、神からの取り扱いも厳しくなる。

祝福も大きい代わりに、裁きも大きい。

「神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。」（ヘブル 4・12）

「また、右手に七つの星を持ち、口からは鋭い両刃の剣が出ており、顔は強く照り輝く太陽のようであった。」（黙示録 1・16）

636 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年1月29日(日) 午後3時25分

タイトル: わたしを憎む者はみな、死を愛する

「私たちはみな地に倒れましたが、そのとき声があつて、ヘブル語で私にこう言うのが聞こえました。『サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。とげのついた棒をけるのは、あなたにとって痛いことだ。』」（使徒 26・14）

サウロとは、パウロのこと。

パウロは、はじめクリスチャンを迫害していた。しかし、あるときダマスカスに向かう途上でまばゆい光に出会い、地に倒れ、失明した。

そして主の声を聞いた。それがこの箇所である。

この後、使徒として任命され、弟子の中でもっとも活躍し、新約聖書の4分の1を書いた。

「なぜわたしを迫害するのか。とげのついた棒をけるのは、あなたにとって痛いことだ。」

迫害者は、とげのついた棒をけている。

つまり、自分で自分を傷つけている。

クリスチャンを迫害したり、キリスト教の悪口を言ったり、神の国を妨害したり、主の御名を汚したりすることは、自分を傷つけ、トラウマを与えることを意味する。

「わたしを見失う者は自分自身をそこない、わたしを憎む者はみな、死を愛する。」（箴言 8・36）

ニーチェは牧師の息子だったが、神を憎み、最後には脳梅毒で発狂して死んだ。

ラッシュドゥーニーによると、彼が馬車に乗った女性の手綱をくわえて馬になっている写真がある。

神を憎んだために呪われたのである。

ホモとか SM とかになる人間は、神に捨てられたのである。

脳梅毒になったということは性的に乱れていたことを示しているのだろう。

神を憎むこと、クリスチャンを迫害すること、神の国を妨害することは、自殺である。

「わたしを憎む者はみな、死を愛する」。

637 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012 年 1 月 29 日(日) 午後 3 時 52 分

タイトル: 世界の本質は霊的戦いである

「悪霊を追い出す権利は、弟子たちに与えられたのであって、われわれ 21 世紀のクリスチャンに与えられたのではない」という人がいるかもしれない。

イエスは、「すべての国民を弟子とせよ」と弟子たちにいわれた。

弟子たちによって伝道された人々は弟子である。

だから、われわれクリスチャンも弟子であり、悪霊を追い出す権利を持っている。

近代のキリスト教は、デカルトの機械論的世界観に影響されて、霊の世界を軽視するようになった。

しかし、聖書の主張は最初から最後まで「霊の戦い」である。

「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。」(エペソ 6・12)

われわれは霊的な世界において戦っているのだ。

現象の世界は、仮の姿でしかない。

ロスチャイルドとかロックフェラーは、人形劇の人形である。

それを操っている者がいる。

それがサタンだ。

われわれはロスチャイルドやロックフェラーと戦っているのではない。

その背後のサタンと戦っている。

彼らは「この暗やみの世界の支配者」である。

やくざの写真を見ると、いつも黒いものを感じる。

全体を何か黒いものが覆っているように見える。

これとはちょっと質が違うが、ハリー・ポッターのポスターを見ると、黒いものを感じる。

「暗やみの世界」なのだ。

やくざとか、オカルト映画を作っている人間たちは、単なる人形である。

人形をたたいてもどうしようもない。

別の人形を出してくるから。いたちごっこだ。

背後にいる霊をたたけ。

サタンは、「この暗やみの世界の支配者」であり、自分が選んだ人間を使って悪事を働く。

あわよくば世界征服を狙っている。

われわれは、どちらかに組している。

神かサタンか。

現象の世界とは、代理戦争である。神の代理勢力とサタンの代理勢力の戦いである。

神は最終的に勝利される。

神の代理者は、悪魔の代理者に勝利する。

これが聖書に記された運命である。

イエスが弟子たちに与えられた悪霊を追い出す権威は、われわれに引き継がれている。

われわれが契約の中にとどまる限りにおいて、われわれには悪霊を追い出す権威がある。

もしそこから出るならば、むしろ悪霊によって支配される。

どんなに頭脳明晰でも悪霊の洗脳に抵抗することは不可能である。

どこかで知らず知らずのうちに洗脳され、神の国を破壊する活動に参加する。

契約から出るならば、悪霊の餌食になり滅ぼされる。

霊的戦いを強調しない今の「文化サロン」の教会は、どこかで契約から落ちた。

もとに戻って戦闘に参加しなければならない。

638 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年1月29日(日) 午後4時20分

タイトル: 賢い投資家になろう

「さて、カイザリヤにコルネリオという人がいて、イタリヤ隊という部隊の百人隊長であった。彼は敬虔な人で、全家族とともに神を恐れかしこみ、ユダヤの人々に多くの施しをなし、いつも神に祈りをしていたが、ある日の午後三時ごろ、幻の中で、はっきりと神の御使いを見た。御使いは彼のところに来て、『コルネリオ。』と呼んだ。彼は、御使いを見つめていると、恐ろしくなって、『主よ。何でしょうか。』と答えた。すると御使いはこう言った。『あなたの祈りと施しは神の前に立ち上って、覚えられています。』」（使徒 10・1-4）

ユダヤの人々を助けていたローマ人コルネリオ。

その祈りと施しは「神の前に立ち上って、覚えられています」。

神殿では、香がたかかれていた。

香は、祈りの象徴である。

われわれが祈るときに、香の煙が昇っていくように、天に昇っていく。

施しも上る。

われわれが誰かに施しをした場合、それは消えてしまうのではなく、みな天にまで昇っていく。

そして、神に覚えられる。

神はコンピュータよりも正確にすべてのことを細大もらさず覚えておられるから、われわれが人生の清算をするときに、計算されて戻ってくる。

われわれの祈りとか施しは、投資なのである。

誤解している人が多い。

「報いを期待しながら何かをするって、不純ではないでしょうか」と。

違う。

聖書では、すべての人は投資家である。

神も投資家である。

神が人間を創造し、世界を創造されたのは、投資だからだ。

人間に地上を支配させ、神の国を作らせて投資のリターンを得るためだ。

もし「報いを期待することが不純」であるならば、神の創造は不純だということになる。

「神は報いを期待せずにわれわれを救われた」などという教えが教会ではびこっているが、まったく違う。

神のあらゆる行動はすべてご自分のためである。

究極的にご自身が栄光を受けられるために行動しておられる。

これを不純だというならば、「私よりも純粋だと主張するお前は何者か？」といわれる。

神が投資家である以上、われわれも投資家である。

われわれの人生は、神の投資であり、われわれは投資のお金を用いて神にリターンを返すために働く。

われわれは、すべてのことを費用対効果を最大にするように行わなければならない。

くだらないことに無駄な金を使うのは投資家として失格だ。

投資をするならば、もっとも費用対効果の優れ、株価が上がることを見込めるものに投資しなければならない。

ディスペンセーションナリストに投資してどうするのか？

「われわれは駄目になる！」という教えになぜ投資するのか。

人生の清算のときに、神から「お前は私が預けたお金を無駄にした無能な僕だ」と烙印をおされる。

再建主義に投資しなさい。

聖書啓示に厳密に従い、それを実際世界に適用することによって、世界はわれわれのものになる。

神は御心を行う人々を求めておられる。

そして、それを行う人々に巨額のお金を預けようとしておられるのだ。

だから、われわれのこの世におけるリターンは極大になる。

今のディスペンセーションナリストの教会は、資源の無駄遣いであるから、リターンなど期待できない。何年かたてば、死滅するだろう。

われわれは、「地を従えよ」との命令に従うので、実際に「地を従え」るのだ。

自分の人生を投資と見ることができるかできないかで大きく変わってくる。

賢い投資家になろう。

639 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年1月29日(日) 午後10時49分

タイトル: キリスト教は科学の敵か?

<http://www.youtube.com/watch?v=MRXfXJSqXz4>

640 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年1月30日(月) 午前5時57分

タイトル: 知識教を徹底して捨てよう

<http://www.thinker-japan.com/thinkwar.html>

上記は、非常によくまとまった真の世界史の説明です。

ぜひご一読ください。

私たちは、マスコミや教育機関も支配されていますので、偏った情報によって大なり小なり洗脳されています。

キリスト教界もイルミナティがばらまいたディスペンセーションナリズムによって完全に洗脳状態にあり、われわれだけが正気にいるという恐ろしい状況です。

上記の解説もすばらしいのですが、しかし、本当の陰謀のルーツについては説明していません。近代のロスチャイルドによる世界支配から出発しています。

本当のルーツは、エデンの園です。エデンの園において、悪魔がエバを誘惑して、「知識による救い」を提供し、それに負けてしまったというところにあります。

それ以降、悪魔は、キリストによる贖い以外の方法として、一貫してこの「知識による救い」を提供してきました。

バベルの塔→バビロン→ギリシア→グノーシス→啓蒙主義→共産主義

「知識による救い」の流れはこのようにして発展してきました。

「知識による救い」教（「知識教」と呼ぶ）は、「善悪を自分で決定する」ことを教えます。

ローリングストーンズのミック・ジャガーは、**You Can't Always Get What You Want**の中で「自分のやりたいことをやれ」と歌ったが、これは、悪魔崇拝者アリスター・クロウリーの思想に影響を受けていることを示しています。

クロウリーは、著書の中で次のように述べました。

- ・汝がしようとすることをなせ。これが法のすべてだ。
- ・愛は法である。
- ・すべての男女はスターである。

http://www.popsubculture.com/pop/bio_project/aleister_crowley.html

ロック音楽によってこのクロウリーのメッセージは、われわれの日常生活の中に浸透しています。

われわれは知らず知らずのちに、「知識教」の支配を受けています。

イルミナティがロックを使って、われわれを洗脳してきたのがこれでお分かりでしょうか。

問題の根源に切り込まない限り、本当の解決は得られません。

近代のロスチャイルドは、知識教の一部でしかない。

ロスチャイルドをたたいても、知識教そのものをたたかない限り、解決はない。

私たちは、キリストによる贖いの流れに立つ聖書的キリスト教を信じ、知識教を徹底して捨てましょう。

ここが共通認識になるように祈ります。

641 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年1月30日(月) 午前10時39分

タイトル: キリスト教は因果を説かないか？

http://www.youtube.com/watch?v=yDc0_tZOURI

キリスト教は因果を説かないという誤解があるようですが、聖書は契約の書物ですから、法に対しどのように応答するかによって賞罰があります。

イスラエルは偶像礼拝をしたので、裁かれて散らされました。

人間はすべて神の被造物であり、神との間に宗主契約を結んでいます。

ですから、悪事を行うならば、罰せられ、善を行うならば祝福されるのです。

悪人が栄えているように見える場合、それは「一時的」だと考えるべきです。

「神は侮られるかたではない。人は種を蒔けば、その刈り取りもすることになる」とあります。

人間は神に対する責任から逃れることは絶対にできません。

罪の負債は、必ず支払わねばならない。

それを回避したいならば、イエス・キリストを信じて、身代りに刑罰を受けてくださったと信じるしかない。

それがいやならば、自分で永遠の炎の中で苦しむしかない。

642 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年1月30日(月) 午後3時54分

タイトル: 凶々しくなって、サタンを恫喝するくらいがちょうどいい

クリスチャンは祭司である。

旧約時代において、レビ族しか祭司になれなかったが、新約時代になってからは、クリスチャンならば誰もが祭司である。

祭司は、とりなしをする。

つまり、人の罪の赦しを祈ってあげることができる。

だから、もちろんのこと、自分の罪の赦しを直接神に祈ることができる。

どこかの牧師じゃないとダメとか、神父じゃないとだめとかはない。

カトリックでは、罪の赦しは教会が与えることになっている。

しかし、プロテスタントでは、直接個人が神に祈って赦される。

祈ったならば、それは完全に赦されるのである。

この世界で赦されない罪はない。

なぜならば、イエス・キリストは神であり絶対者であるから、被造物のあらゆる部分も包含しておられるからだ。

イエス・キリストの犠牲はすべてに適用可能である。

ただし、例外がある。

赦されない罪が一つだけある。

それは、聖霊を汚す罪である。

聖霊を汚すとは、聖霊の働きを拒絶して、悔い改めを拒む罪である。

「悔い改めない」ということは、病院に行って、医者に会いたくないといって拒否するようなものである。

医者に会わなければ治療もされない。だから、治らない。

自分が真摯に祈って悔い改めているのに赦されないなどという罪はこの世界には一つもないのだ。

赦されないで地獄に落ちる人間は、「おれは神になんか赦してもらいたくない」と言う傲慢な人間だ。

こういう頑固者には救いはない。

私は、20代に「赦されない罪を犯したのでは」と真剣に悩みノイローゼになったことがある。

何度祈っても、祈った気にならない。次々と罪が思い出されてくる。

これは、サタンの罠にはまったからだ。

サタンは罪を思い出させて後悔させることによって、その人の人生をめちゃくちゃにしようとしているのだ。

私は、今は経験を積んでサタンの策略を見抜くことができるようになったので、かつてのような「際限のない悔い改めの地獄」に陥らない。

「お前の罪は赦されない」「悔い改めが足りないぞ」とサタンが言ってきたら、「うるさい、下がれ。聖書に『悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません。』と書いてある」と怒鳴りつけてやればいい。

いじめられっ子のメンタリティであれば、際限なくサタンに蹴り回される。

図々しくなって、サタンを恫喝するくらいがちょうどいい。

投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年1月30日(月) 午後11時30分

タイトル: プレ・ミレの人々とは会いたくもないし、同じ空気を吸うのもいやだ

イエス・キリストは「天においても地においても一切の権威が私に与えられました」とあります。

私たちは、イエス・キリストの支配下にあるのであって、サタンの支配下にはありません。

「私たちは御使いをも裁く者である」と言われています。

天使のうちにはサタンや悪霊も含まれます。

私たちは、サタンや悪霊よりも高い地位にいます。

「私たちはイエスとともに天のところにいる」とパウロはいいました。

だから、悪霊に命令することができます。

ディスペンセーションナリズムの教えの中にいますと、このことが信じられないので、霊的なダメージを受けます。

つまり、自信を奪われるのです。サタンのほうが強いかなのようなメッセージを聞かされてきたのですから当然です。

ディスペンセーションナリズムの教会で聞いたメッセージを全部忘れてください。

今の教会は敵に魂を売った愚か者です。

ディスペンセーションナリズムのクリスチャンの家で家庭集会を持っていたのですが、ポスト・ミレに執拗に反対するのでやめました。

彼らはこの点以外では一致するし、会話も楽しいのですが、ポスト・ミレについて話し、彼らが「絶対にクリスチャンは勝利できません」と主張するのを聞いていると、周りに悪霊が集まってくるのが分かるので、気分が暗くなりました。

どこの主義主張で「われわれよりも、敵のほうが強い！」と励ますものあるでしょうか。

それは励ましではなく「隠れた自殺宣言」です。

戦争当事国の政府は「厭戦運動家」を厳しく取り締まるのです。

なぜならば、人々に「敗北感」が広がって、戦争できなくなるからです。

戦争をやっている限り、「できる」と信じなければなりません。

「俺たちはもうだめだ」というのは、サタンに送られてきた人間の意見に耳を傾けたからにほかならない。

砂漠で死んだイスラエル人たちは、「カナンの人々は背が高い。ああ、もうだめだ！」といった不信仰な人々の意見に耳を傾けてしまいました。

そのために、神はみ怒りを燃やして彼らを放浪させ、カナンに入れなかった。

「俺たちはサタンよりも弱い」などと教えるディスペンセーションナリズムの教会に加担することは、自ら「砂漠で死のう」と言っているようなものです。

私は、こういった自殺願望の人々から離れます。

会って同じ空気を吸うのもいやです。

644 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年1月30日(月) 午後11時41分

タイトル: 人の気持ちを殺ぐマスコミは敵国に乗っ取られている

今のマスコミを見ると、ディスペンセーションナリズムと同じ空気を感ずる。

「円高でダメだ」。

「少子高齢化が進むから日本はダメになる」。

こんなマイナスなことばかり持ち出すから、本当に暗くなる。

よく「戦時中は大本営発表で国民は騙されていた」というが、戦争をやっている最中に自国の敗退のニュースを出せますか？

戦争とは士気が高くなければ致命的だ。

「もうだめだ」というような意見の人々に耳を傾けることがかきこいというならばどうなるか。

戦争に負けて国土を蹂躪され、暴虐の限りをつくされ、悲惨極まりない状況に落ちるのだ。

戦争に負けるということはそういうことだ。

ならば、最後まで戦い抜くために自分の気持ちを高揚させる以外にはないではないか。

国民にマイナスな情報を意図的に流す今のマスコミが外国勢力によってジャックされていることに気づかないとしたらもう日本人はそれだけで馬鹿との烙印を押されるだろう。

今われわれは戦争をしている。

侵略されるかされないかの瀬戸際だ。

この世界は陣取り合戦であり、気を抜けばすぐに支配される。

このような緊急時に戦闘モードでないマスコミの言うことを聞いてはならない。

645 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年1月31日(火) 午前10時31分

タイトル: 聖書信仰でない人間を経営陣に入れるな

今、いろんな教会や教団の事情を人々から聞いて共通する一つの現象は、「キリスト教は社交団体になった」ということだ。

一番大切なことは、教えではなく、人間関係になっている。

「聖書は何を言っているか」ではなく「教団やキリスト教業界ではどうしているのが流行しているか」にリーダーたちが集中している。

つまり、神様がそっちのけになっているということだ。

ある人が教会における異端的教えについて内部告発しても教団は取り合わない。

牧師同士の人間関係が重要だからと。

日本社会全体に言えることだが、「内部で裁くことができなくなっている」。

となると、残るは「外部からの裁き」である。

内部で裁くことができなければ、外部から裁かれるしかないのだ。

なぜならば、この世界は神が統治しておられるので、罪をそのままにしておくことは絶対に不可能だからだ。

われわれが組織を内部から改革できなければ、神のみ怒りは次第に燃え盛り、ついに裁きの日がやってくる。

神はその組織に大ナタを振るわれる。

その組織は滅亡するか、別の人間が入ってきて古い経営陣は一掃される。

「私は前にあなたがたに送った手紙で、不品行な者たちと交際しないようにと書きました。それは、世の中の不品行な者、貪欲な者、略奪する者、偶像を礼拝する者と全然交際しないようにという意味ではありません。もしそうだとしたら、この世界から出て行かなければならないでしょう。私が書いたことのほんとうの意味は、もし、兄弟と呼ばれる者で、しかも不品行な者、貪欲な者、偶像を礼拝する者、人をそしめる者、酒に酔う者、略奪する者がいたなら、そのような者とはつきあってはいけない、いっしょに食事をしてもいけない、ということです。外部の人たちをさばくことは、私のすべきことでしょうか。あなたがたがさばくべき者は、内部の人たちではありませんか。外部の人たちは、神がおさばきになります。その悪い人をあなたがたの中から除きなさい。」(1コリント 5・9-13)

教会や教団は、「神様第一」でなければ裁かれる。

神様第一ということは、聖書第一であることを意味する。

聖書に違反する組織になっていくなれば、それは存在意味はない。

だから、聖書の一言一句に対するこだわりがないような組織には存在意味がない。

もちろん、キリスト教に似て非なるものということで、サタンからの援助があり、人々を惑わすために残される場合もある。

しかし、それは、最後に地獄に送られる集団であって、内部の人間にとって何も意味がない。

長期的に繁栄し、神の国の拡大に役立ち、祝福されるには、聖書に対するこだわりがなければならない。

御言葉中心であれ。

だから、組織を2重構造にせよ。

一般信徒と経営者を分けるべきだ。

全員に組織の経営権を与えるな。

なぜならば、すべての人が突然に教理に関して厳密には一致することは不可能だから。

私の場合、K氏といっしょにやってきたが、K氏は聖書信仰に難があって、本当の共同経営者にはなれない。

だから実質一人でやってきた。

ウェストミンスター神学校卒業生とともに一時活動もしたが、「再建主義シンパ」の領域を出られないと言い残して途中で消えた。

どこまでも同じ考え方であるということは不可能だが、再建主義5条件に関しては妥協はできない。

教会やキリスト教団体を形成するうえでは、経営陣には教理的に厳しいチェックを行うべきだ。

しかし、今や、そのようなチェックが行われているとは言えない。

そのため、多くの教会が消滅の危機に瀕している。

後継者がいない。

教会成長学で「人が救われるのは神の御心だ。だから、教会成長は神の御心だ」と吹き込まれた。

教会成長はいい。しかし、目的が手段を正当化するような気風が生まれ、次第に「教理にこだわると教会は暗くなる」とか言って、「勉強するな」みたいな雰囲気になり、伝道集会やら賛美集会などで心理作戦に出るようになった。

これによって、教会は、長期的成長を犠牲にしてきたのだ。

「教理」へのこだわりがない集団に神が長期的祝福を与えるわけがないだろう。

本社から派遣された支店長が、自分の会社の商品だと売れ行きが悪いので、勝手に他社製品を売り始めたらどうだろうか。

報告書には「3倍の売り上げ達成」とあっても、その支店長は首だ。

本社の方針に従うことができないならば、その組織で生き残ることはできない。

神様の御心は聖書に記されている。だから、聖書研究をいかげんにして「賛美集会」とか「伝道集会」で盛り上がりながらも何にもならない。

悪魔は、教会成長学を通じて、世界の教会にフラワー神学校の「教理的混沌」を輸出し、「教理にこだわるな」的な風潮を蔓延させた。

そして、徐々に死滅の方向に向かわせたのである。

教会成長学を採用した牧師たち、教団幹部たちは、切腹ものである。

教会の経営陣に人を入れる場合には、厳密な教理チェックを行い、聖書信仰でない人間を絶対に入れてはならない。

教会の運命はほとんどここにかかっている。

646 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月1日(水) 午前0時26分

タイトル: 死者の復活の教理、人間のすべての行動を決定する

「もし、私が人間的な動機から、エペソで獣と戦ったのなら、何の益があるでしょう。もし、死者の復活がないのなら、『あすは死ぬのだ。さあ、飲み食いしようではないか。』ということになるのです。」(1コリント 15・32)

死者の復活の教理は、人間のすべての行動を決定する。

もしこの教理を信じられなければ、われわれは聖書の言葉を「聞き流す」。

「復活などない。この世で終わりだ」と考えているならば、その人は現世を自分の快樂のために使う。「あすは死ぬのだ。さあ、飲み食いしようではないか。」ということになる。

イラクやアフガニスタンに侵略して無数の人々を殺しているアメリカの悪党たち、日本を危険に陥れている売国奴たち、自分の省の利益を国民のそれよりも優先している裏切り者の官僚たちは、みな「復活否定論者」だ。

復活があることを認めているならば、違った生き方はずだ。

たかだか 70 年か 80 年しかない自分の人生を、70 兆年、80 兆年たっても抜け出すことのできない永遠の地獄の苦しみのために使っている馬鹿者たちである。

復活とか地獄とかの教理をバカにするようになったら、人間は化け物になる。

神を恐れなくなるということと同義だから。

もしわれわれが本気でこれらの教理を信じることができれば、われわれの生き方はもっと真剣になるはずだ。

残念ながら、われわれのほとんどはこういった話をおとぎ話として受け取っている。

進化論や現代の唯物論的科学思想によって徹底して洗脳されたのである。

いや、自分で自分を洗脳したといったほうがよいかもしれない。

なぜならば、騙される人は、意識して騙されるからである。

「復活などない。この世が終わればすべて終わる」と考え、現世だけの幸いを追求する人は、臨終の前に自分が空しいことのために時間を使ったことを後悔する。

私は後悔したくないので、復活や死後の生命についてもっと実感したいと思っている。

647 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012 年 2 月 1 日(水) 午前 6 時 05 分

タイトル: もしあなたに知性があるならば、神の創造を受けれるべきだ

一つの形質が進化の過程で発現する。

たとえば、それまで胃液がなかったのに、胃液が分泌されるようになったとか（それまではどうやって消化していたのだろうか）。

この一つの形質がたまたま遺伝子の変異で出現したとしても、異性にもそれが出現していないと遺伝しない。

受精とは、減数分裂して一本ずつになった男女の染色体が結合することである。

その場合に、同じ位置に同じ遺伝子がないとだめなはずだ。

となると、進化の確率はものすごく低くなる。

人間の1つの遺伝子を構成する塩基の数は平均7000個である。

1つの形質を発現させるのに1つの遺伝子だけでは済まないだろうが、まあ百歩譲って、ここは1つだけとする。

さて、7000個の塩基の入る場所にはそれぞれに4通りの塩基が入る可能性がある。なぜならば、塩基は、A、C、T、Gの4種類だから。

だから、AAGCTACGTGGA・・・という並び方もあれば、
GAGGCAACTGAC・・・という並び方もある。

これは、何通りの並び方があるかというと、

4^{7000} (4の7000乗) 通りである。

これは、実質 ∞ である。

男性のDNAに突然変異によって偶然にある遺伝子が生まれたとしても、女性にそれと同じ（厳密に言えば近似した）遺伝子が偶然に生まれる確率は、 4^{7000} 分の1である。

$1/\infty=0$ である。

つまり、人間がDNAの突然変異によって偶然に遺伝子が発現し、それが次世代に遺伝する確率は0である。

だから、あの有名な猿から猿人類、そして現生人類へと変化する図は、デラタメである。

偶然では、何も生まれないのだ。偶然がダメなら、残るは「計画」しかない。人格的存在による意志によって人類は誕生した。

もしあなたに知性があるならば、神の創造を受けれるべきだ。

648 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月1日(水) 午後3時20分

タイトル: 進みつつある人口削減

(1)

20歳くらいの男性は明らかに女性化している。知り合いの息子も女の子と間違える容貌だ。

これは精神的な環境がそうさせているだけではないと感じる。

ベンジャミン・フルフォードによると、食品や洗剤に女性ホルモンが加えられているからという。

そんな馬鹿なという前に調べていただきたい。

オバマ大統領の科学補佐官 J・P・ホールドレンは、人口削減計画を著書において堂々と毒物の水道水混入を提唱する狂人だ。

=====>

ホールドレンは、1977 年出版の自著「エコサイエンス」の中で、水道水に薬物を入れることによって避妊化を図るべきだと述べた。

これは、実際に現在、世界的に、精子数の減少、河川や湖沼の生物の性転換として現れている。

抗アンドロゲンとは、男性の性ホルモンの働きを阻害するため、性転換を希望する男性や、性犯罪者の性欲を抑制するために処方される。

これが水道水や食品、洗剤などに入れていると、男性の女性化が進む。

抗アンドロゲン入りの殺虫剤を食品にかけると、ラットの女性化が誘発されることが実験で証明されている。

避妊薬とホルモン補充療法に使用されるこの新種の毒物は、すべてのイギリスの河川に生息するオスの魚の 3 分の 1 に影響が現れており、メス化が起これ、卵を生むようになり、生殖能力がなくなっている。

<http://thetruthwillrise.wordpress.com/tag/john-holdren/>

<=====<

ホールドレンは、福島原発事故後 4 か月たって視察に現れた。

なぜ？

成果を確認するためでは？

ロックフェラーも視察に来た。

「犯罪者は、犯行現場に必ず現れる」というではないですか。

(2)

アレックス・ジョーンズによると：

=====>

「バートランド・ラッセル」(*) とか「ジュリアン・ハクスリー」や「地球政府の優生学」で検索すれば、「悲しいけれど皆を殺します」

子供税の話ですが、これはアメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ヨーロッパで提唱されています。

中央銀行は優生学者の集団だから中央銀行が支配しているところではほぼそういうことになります。

<http://a-meet.net/MT-5.02/mt-search.cgi?IncludeBlogs=9&tag=%E8%A6AA%E5%88%86%E3%82%B8%E3%83%A7%E3%83%BC%E3%83%B3%E3%83%BB%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%89%E3%83%AC%E3%83%B3&limit=20>

<=====

中央銀行は、優生学者の集団！

やはり、中央銀行の目的は、全世界の人々の財布の中をコントロールすることにあつた。

それは、最終的に貧乏にし、子供を育てるだけの資力を持たせないため。

先日の TV タックルで三橋氏が「今の日本経済の問題はすべてデフレなんです。」と言ったら、周囲のコメンテーターがドン引きし、無視した。

デフレ解消は、人体で言えば貧血のようなものだから、輸血すればいいだけの話。つまりお金を刷ればいい。

経済問題を複雑にしているのは、マスコミで、マスコミは世界政府の連中の出先だから、デフレ解消に触れられると困る。

だけど、あまりにもこういう「出口のない空虚な議論を積み重ねているだけ」だと、TV 視聴率がガタガタになる。

三橋氏を呼ぶようになったのは、視聴率回復のための窮余の策だろう。

本当に視聴率上げたいならば、リチャード・コシミズ氏を出したらいい。

ガンガン「地震・原発は計画だった」と言ってもらったら視聴率は戻るでしょう。

何が視聴率を下げているかという「ヤラセと嘘にうんざりしているから」。

われわれは、本当のことが知りたい。

だから、とても人気があるとは思えないような三流四流の韓流タレントをいくら出しても視聴率は上がらない。

マスコミはいつになったら気づく？

嘘と世論操作を繰り返しているうちに、赤字転落で廃業寸前まで落ちぶれてから？

(*)

ちなみに、バートランド・ラッセルとヘンリー・フォードはどちらも優生学を信奉する悪党だが、不思議と顔や表情が似ている。

<http://tak0719.web.infoseek.co.jp/qanda3/images.jpg>

649 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月1日(水) 午後11時50分

タイトル: 誰も無知のゆえに言い逃れはできない

進化論が嘘であるということはいずれ万人の目に明らかになるだろう。

私がこれまで提示した反論を読んで進化論についてまだ希望を持っているならば、よほどの馬鹿か頑固者だ。

相手にするまでもない人種である。

さて、進化論を受け入れたならば、後は、聖書の神を受け入れるかどうかだ。

これは「受け入れるしかない」のだ。

なぜならば、聖書の神は必ずわれわれの内面に入って、ご自身が神であることを「痛いほど」納得させられるからだ。

この啓示から逃れられる人はいない。

「神の本性は被造物において明らかである。それは、神が示されたのである」とパウロは述べた。

われわれは、神から直接に啓示を受けているので、言い逃れができないのだ。

「私は神を知りません」とは言えない。

「私は神を認めますが、しかし、それが聖書の神かどうかは不明です」とも言えない。

なぜならば、「神が示された」からである。

誰でも神と出会っており、聖書の神だけが神であることを知っている。

ロックフェラーだって、ロスチャイルドだって知っている。

おそらく彼らは自分たちが永遠の地獄に投げ込まれることをやっていることも何度か神に示されたことだろう。

しかし、押し殺した。

すべての人は神を知っているが、その知識を押し殺す者である。

自分で「見なかったことにしよう」としているだけだ。

だから、われわれがノンクリスチャンと議論する場合には、「共通の基盤、つまり、『神はいるかいないかわからない』に立って議論しましょう」と相手が申し出ても無視することだ。

聖書啓示によれば、全員が「神を知っている」のだ。

だから、われわれは、「聖書の神が存在し、彼だけが神である」という点から出発すべきだ。

共通基盤を不可知論に置く方法は、フリーメイソンが世界を「中立化」するために使ってきた方法である。

クリスチャンは騙されて、相手に合わせた。

そして、「そうですね、神がいるかいないかは理性では証明できないから、『いない』という前提で政治や学問をやりましょう。」と言ってしまった。

公立学校において祈りが禁止され、十戒の朗読が禁止された。

どんどん世俗化が進展し、そして、ついに今日の悪魔的世界が出現した。

私は、クジラ反対をやる馬鹿な白人に対しては、聖書から議論する。

「聖書では、動物はすべて人間に食用として与えられているので食べてよいのです」という。

それに対して「そんなのはクリスチャンの考えだ」と言ったならば、「じゃあ、あなたはなぜ大変苦しいときに『神様、助けてください!』と叫んだのですか」と尋ねることにしている。

「いや、そんな助けを求めたことはない」といったら、「嘘つき」という。

万人は神を知っているし、神に助けを求めたことがある。

だから、無知のゆえに言い逃れはできない。

650 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月2日(木) 午前8時33分

タイトル: 断食について

- > 断食についてかなり前にネットで見たのですが、
- > ある写本は断食のことは後からつけ加えられたようで、
- > 信頼できるかどうかわからないと見たことがあります。
- > (マルコ 9 : 29 の言葉)

<http://www.greeknewtestament.com/B41C009.htm#V29>

を見ますと、「そして断食」(kai nhsteia) が追加されているのは、前の 3 つ (Stephens 1550 Textus Receptus、Scrivener 1894 Textus Receptus、Byzantine Majority) で、後の 2 つ (Alexandrian、Hort and Westcott) は省略されています。

これについては、

<http://tak0719.web.infoseek.co.jp/qanda3/westcohort.htm>

をご覧ください。分かるとおり、ウェストコットとホートが採用した写本は、ずっと当時まで人々が知らないものであり、教会は 1900 年の間ビザンチン写本を使ってきました。神が 1900 年もの長い間、ご自身の愛する御民から真理を隠し続けられるでしょうか。クリスチャンがそのほとんどの時期使用し、写本の大部分が共通しているマジョリティ本文を採用すべきであると思います。

しかも、ウェストコットとホートは、オカルトをやり、同性愛者や社会主義者と秘密結社を作り、しかも、その秘密結社は、後にニューエイジ運動の母体となったということになれば、ウェストコットとホート及び彼らが採用したアレキサンドリア系写本にどうして信頼できるのでしょうか。

今の学界はビザンチンよりもアレキサンドリアをとり、学界に弱いキリスト教の神学校はそれがリベラルの意見であろうが何であろうが採用してしまいました。その結果、1900 年もの間クリスチャンが使っていたのとまったく違う聖書をわれわれは手にしています。

この箇所「断食」が消されたのは、サタンが断食祈禱を恐れていることの何よりの証拠でしょう。

- > 私がプレ・ミレしか知らなかった時期には断食すると効果があると教わり、
- > ア・ミレのネットで知った先生は断食すると神様がよりはたらいてくださる
- > というのは違うと言ったと記憶しています。
- >
- > ですが、「自分の願い」にではなく「悪霊に関する場合」に
- > 断食が何か特別なものという可能性はあり得ると思っています。
- > 断食に何の意味もないなら、40日も断食された
- > イエス様のなさっていることがわかりません。
- >
- > 富井様のお考えを教えてください。

聖書にそう書いてあるならば、それで議論は終わるのです。「聖書はそういうかもしれないが、私は…」なんて

いう牧師は信用できません。

神の言葉とは、神の言葉なのです。

神が語られたということは、それが最終結論だということです。

神が聖書において「断食によって」と言われている以上、断食に効果があると信じる以外にはわれわれには選択はありません。

>> 悪霊を追い出すことなしには、この世界はまともになりません。世界には悪霊に取りつかれて苦しんでいる人々がたくさんいます。

>

> それは、私にもわかりようになるのでしょうか？

> また、それはウツとか精神病の人などを指すのでしょうか？

悪霊の働きは、随所に見られます。

まず今精神を病んでいる人が非常に多いです。

精神病学は薬を与えてぼーっとさせるだけで解決を提供できません。

問題は、悪霊だからです。

それから、悪霊に取りつかれているといえば、たとえば、ロックとかを通じて心にサタンが入って占領され、幻覚や幻聴に悩まされている人も無数にいると思います。

このようなものだけではなく、広義で言えば、進化論や共産主義、社会主義、フロイト心理学、ケインズ経済学など、非聖書的の学問を信じている人々、教育者、大学教授なども悪霊にやられているのです。

騙されて洗脳され、神を否定し、キリストを否定しているのですから、彼らは悪霊の餌食になっています。そして彼らに導かれている社会全体も悪霊に憑依されているとってよいでしょう。

> 例えば、その人の人生をめっちゃめっちゃにしたいのであれば、

> 生まれ持った性格のような部分にも関係ありますか？

それは関係あるでしょう。

個性において悪霊に入れやすい人はいます。

> 対人関係なども、そういう関係があるのでしょうか？

> 例えば、性格上、もめても当然と考えるのか、

> 霊的な障害がそうさせると見るのか・・・

霊というのは人格を持っており、聖霊も天使も悪霊も、陣取り合戦をしています。

つまり、悪霊は、隙を見ては人に入って支配しようとしています。

ですから、人々の間に争いを起こし、不和にして、被造世界が破壊されるのを楽しんでいるのです。

悪霊たちがやりたいことは、神の秩序や平和を破壊し、人々を悲惨のどん底に落として、ついには殺害し、地獄に道連れにすることです。

651 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月2日(木) 午後3時49分

タイトル: 教会はクロウリーのヒューマニズムに毒された

既出だが、悪魔教教祖アレスター・クロウリーは、著書の中でこう述べたという。

- ・汝がしようとすることをなせ。これが法のすべてだ。
- ・愛は法である。
- ・すべての男女はスターである。

http://www.popsubculture.com/pop/bio_project/aleister_crowley.html

このメッセージはロック音楽を通じてわれわれの心の中に入っている。

しかし、驚くべきことに、これは、次のディスペンセーションリズムの教えと一致する。

- ・クリスチャンはもはや律法には支配されない。つまり、われわれは規則にとらわれない。自分のやりたいことができる。
- ・法じゃなくて愛だ。法にこだわると律法主義になる。イエスは律法を超越し、愛を実践された。
- ・あなたはスターだ。あなたは愛されている。あなたは愛されるために生まれてきた。

実質、教会はディスペンセーションリズムを通じてクロウリーの悪魔教と同じ教えになった。

聖書の教えは次のとおり。

- ・クリスチャンは神の国の住民であるから、神の法を守るべし。守れなくても、悔い改めて努力するなら留まることができ、永遠の命を相続するが、悔い改めないなら永遠の刑罰を受ける。
- ・法と愛は両立する。どちらも中心でありどちらかが他方を犠牲にすることはない。イエスは律法を超越して愛されたのではなく、愛のために律法を守られた。もし律法を守る必要がないならば、十字架にはつかれなかっただろう。
- ・クリスチャンは王である。しかし、同時に神のしもべである。「死に至るまで忠実であれ」と言われた。あく

までも神が中心である。われわれが何かを行ったとしても「なすべきことをしたまでにすぎません。ご主人さま。」と神に申し上げるべきだ。

教会は、クロウリーのヒューマニズムに毒された。

聖めを行うべきだ。

652 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012 年 2 月 2 日(木) 午後 11 時 42 分

タイトル: 早く洗脳から脱出しないと

ポスト・ミレが勝つか、プレ・ミレが勝つか、もうすぐ目撃するだろうとかいう人がいるが、絶対に結着はつかない。

なぜならば、終末のようなものは何も起こらないから。

これまでプレ・ミレは終末と思えるものに全部「ほら予言が成就した」と叫んで全部やり過ごしてきた。

ヒトラーや毛沢東が現れると反キリストだといい、911 が起こると、いよいよ再臨だ、という。

みんなが忘れるころになると、また新しいネタを探して、「さあ、これこそ終末の証拠だ」という。

こんなことを 1830 年代からずっとやってきたのだ。

予言がこれだけ外れたら、もう自分が間違っているのではないかと反省するべきときだが、できない。

なぜならば、洗脳されているから。

もうこのシステムの外には出ることができない。

あらゆる新興宗教がそうであるのと同じように、プレ・ミレは、自分のたてた前提のもとで出来事をすべてそれに合わせて解釈するが、矛盾したものを切り捨てる。

聖書解釈における矛盾を真剣に扱わない。

たとえば、イエスはマタイ 24 章で「これらの前兆はこの時代のうちに起きる」と明言されたのに、絶対に無視する。

そして、この前兆がこれから未来に起きると勝手に解釈する。

黙示録は未来の出来事だという。

だから、666 もこれから起きると。

しかし、ヨハネは読者に対して「読者よ、悟れ。」と警告している。

読者とは紀元一世紀に小アジア半島に住んでいたクリスチャンである。

彼らにとって悟ることができないような人物であればなぜ「悟れ！」と警告したのか。

つじつまが合わない。

進化論もプレ・ミレも、ロスチャイルドの仕掛けである。

洗脳である。

どちらの歴史もよく調べなさい。

誰が作ったか。

早く洗脳から脱出しないと、本当に自分の人生を棒に振ることになる。

653 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012 年 2 月 3 日(金) 午前 0 時 20 分

タイトル: ビル・ゲイツが精子を破壊する研究に補助金

以下、

http://www.naturalnews.com/034834_Bill_Gates_sperm_infertility.html

の抜粋翻訳。

ビル・メリンダ・ゲイツ財団は、大衆ワクチンによって人口削減する戦略を採用しているが、それだけではなく、超音波技術を使って精子を破壊する計画を開発中である。この新しい避妊法を開発中の北カロライナ大学の研究者に研究奨励金を与えた。

ラットに対して 15 分の超音波の照射を 2 回行うだけで精子の数をかなり減らし、機能を損なうことに成功した。

超音波によってラットの精子は 1 ミリリットル当たり 1000 万未満に減少した。これは「準繁殖性」の範囲から

5 百万少ない。6 か月間この状態が維持された。

報告書によると、これは避妊専用であり、断種目的ではない。しかし、この調査を行ったジェームズ・ツルタ博士によると、この技術が長期的なダメージを与えるかどうかは定かではない。超音波が恒久的なダメージを与えるかどうかを判断するにはさらなる研究が必要だ。

ゲイツ財団は、78 の様々な研究プロジェクトに「地球健康大チャレンジ計画」の一環として 10 万ドルの奨励金を与えている。…

報告者は「超音波一回の照射によって最長 6 か月間信頼でき、安価で、ホルモン不要の避妊ができると考えている」と述べた。

ビル・ゲイツは、2010 年に TED 会議において世界の人口を減らすために、ワクチンの投与率を上げることを提唱した。

http://www.naturalnews.com/029911_vaccines_Bill_Gates.html

そして今や、人の避妊のために研究補助金を与えている。これは偶然だろうか。

http://www.naturalnews.com/034834_Bill_Gates_sperm_infertility.html#ixzz1lEl1EKhz

654 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012 年 2 月 3 日(金) 午前 3 時 59 分

タイトル: 誰も無知のゆえに言い逃れはできない (訂正)

進化論を受け入れたならば

→

進化論を拒否したならば

655 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012 年 2 月 4 日(土) 午前 7 時 53 分

タイトル: 覚醒者が増えることを祈る

>> これについては、

>> <http://tak0719.web.infoseek.co.jp/qanda3/westcothort.htm>

>> をご覧くだされば分かるとおおり、ウェストコットとホートが採用した写本は、

- >
- > 読みました。よくわかりました。
- >
- >> この箇所「断食」が消されたのは、サタンが断食祈禱を恐れていることの何よりの証拠
- >
- > なるほど、納得しました。

ビザンチンにはあって、アレキサンドリアにはないものを拾っていくと、サタンが何を恐れているか分かるかもしれせん。

- >> 聖書にそう書いてあるならば、それで議論は終わるのです。
- >
- > そうですね、どの聖書を信頼するかが決定されれば
- > あとは迷うことなどないこともわかります。
- >
- > 私もちろん、聖書を神の言葉であると心から信じ、
- > 自分の経験より感覚より信頼すべき道として疑いません。
- >
- > ただ心配なのは、翻訳の間違いや、原典を何とするかで意味合いが
- > 違ったりするようで、悪霊以外にもわからないことはあります。

ウェストコットとホートは、「1900年もの長い間使用されてきたものは間違っていた。私たちが発見したこの写本こそが真実である」というのですが、そんな馬鹿な話はない。

なぜならば、神は契約の民に対して誠実ですから。契約の民（エクレシアという意味での「教会」）とは、ご自身の体です。自分の体が1900年もの間、知っていながら毒を飲み続けることを承認するでしょうか。

ユダの福音書だの、ダビンチ・コードだの、聖書の暗号だのの決定的な間違いは、「神は教会を嘘に騙されるまま放置された」と考える点です。

「最近私はこういう文書（または事実）を発見した。これは、2000年もの間、隠されてきたことだった」と。

つまり、「神は2000年もの長い間、契約の民に嘘をついてきた」ということです。なぜならば、たとえば、その発見の中にある「イエスとマグダラのマリアが結婚していた」などということは聖書のどこにも書いていないからです。むしろ、聖書では「イエスの妻は教会である」とあります。ということは、聖書はずっと嘘をついていたと。

2000年もの間、神は契約の民が嘘を信じることを許容されてこられた、と。

しかも、もしマリアと結婚していたら、イエスは重婚をしていたということになり、ご自身で律法に違反していたということになる。ご自身が律法違反者である場合、贖いのための犠牲として資格がない。死は自分のためになるからです。犠牲の死にはならない。となると、十字架は無意味だということになる。すると、契約の民の罪

の贖いはないということになり、契約の民も永遠の地獄に落とされて刑罰にあう、ということになる。すべてが崩壊する。

現代人の大きな欠点がここに現れています。それは、「非契約的科学」を採用するということ。

「神が契約の民に対して誠実かどうかは関係ない。冷徹な事実に基づいて客観的に科学は行うべきだ」というのがそれです。

クリスチャンは、科学を始める前に「聖書は絶対である」という前提を立てなければなりません。

だから、クリスチャンの科学「契約的科学」とノンクリスチャンの科学「非契約的科学」は根底において違う。

契約的科学は御言葉が絶対ですから、いくら実験や観察において聖書と異なるものが出てきたとしても、それを退け、聖書のほうを採用する。

どんなに進化の証拠みたいなものが出てきても「神は6日で創造された」と書いてあるので、その証拠なるものを退ける。

原理主義だ、と非難するならすればいい。

人類の最初の罪は、「神は本当にそういわれたのですか？違いますよ。」というサタンの惑わしに乗ったことです。

特別啓示である神の言葉「善悪の知識の木から取って食べるな」よりも、自然啓示である「食べるのによさそうで、かしこくしそうな実」のほうを選択した。

特別啓示は、自然啓示よりも優先しなければならないという原則を守れるか？

守れなければ、科学的新説が出るたびに、キリスト教は根底から破壊される危機に瀕することになる。

クリスチャンは信仰に生きるのもあって、人間の知恵に生きるのではない。

だから、契約的科学以外採用してはならない。契約的科学では、「神はクリスチャンを預言者とされたので、長期間嘘を示すはずがない」と考えます。クリスチャンは世の光ですから。ならば、2000年もの間、神がクリスチャンに嘘を信じさせるということはありません。

ですから、「新しい福音書」とか「新しい写本」とか「聖書啓示に反する新しい科学的発見」が真実なわけがない。

>> 悪霊の働きは、随所に見られます。

>> まず今精神を病んでいる人が非常に多いです。

>

- >
- > それも、富井様の言葉と、自分の考えとが
- > うまく重なって、理解できたと思います。
- >
- > ちなみに、完全におかしくなって入院している人は
- > 会うこともないので、全く想像を超えますが。
- >
- >
- >> それから、悪霊に取りつかれているといえば、たとえば、ロックとかを通じて心にサタンが入って占領され、幻覚や幻聴に悩まされている人も無数にいると思います。
- >
- > これは、私は経験者なのです。
- > それを踏まえて言いますが、富井様のおっしゃる通りです。
- >
- > クリスマンになる以前の話ですが、
- > 私は音楽が好きでロックはよく聞きました。
- >
- > ニューエイジ的な思想や占いにも詳しくかったです。
- > そういう時は異性にも歪んだ恋愛観を持っていました。
- >
- > そして、ある日、黒い影の、目だけが光る何かが
- > 私の前に現れました。
- > 夢ではありません、多くの人は信じないかもしれませんが。
- >
- > 今はクリスマンですから、そんなものとは無縁ですが
- > 占いや音楽の恐ろしさはよくわかっています。

私は信じます。私はそういう経験はないですが。

ロックは、悪魔崇拝者アリスター・クロウリーの影響を強く受けており、音楽の魅力と合わせて彼のメッセージが深く世界の若者の心の中に入りました。イルミナティは積極的にロックアーティストにこういったメッセージを曲に織り込むように働きかけたと思います。

昔見たジミヘンの記録映画で、ジミヘンが薬物を通じて音楽業界の奴隷になっていると語られていました。

おそらく、人気アーティストにはイルミナティ側の人物が近づいて、曲の中に逆回転でサタンのメッセージを吹き込んだり、いろいろなサブリミナルを行ってきたと思います。

中学から高校にかけて好きだったレッド・ツェッペリンの4枚目のアルバムや、映画には、大きなフードがついた外套を着た人物が登場しますが、あれは、薔薇十字団の衣装と一緒です。ジミー・ペイジは、クロウリーの信奉者ですから、当然と言えば当然なのでしょう。

私の世代は、ちょうどフォークからロックに移動した世代でした。

私の前の世代の人々が好きだったフォークにはまったく興味がなく、大きな断絶がありました。

そのため、ロックを通じて悪魔の影響を受けた最初の世代だと自分のことを考えています。

だから、私たち以降の世代がどれだけ内面において悪魔に破壊されているか、私たち以前の世代の人は夢想だにできないだろうと思います。

私たち以降の牧師はロックを通じて、クロウリーの影響を受けています。

よほどの自覚的努力がなければ洗脳から説かれることはないでしょう。

私は、自分の世代が内面において破壊されているというところからセオノミー（神の法）について真剣に考えるようになりました。

- > 今後はもっと聖書に精通して
- > より深い領域に達しなければと思い始めています。
- > 富井様の誠実なご協力がなければ、ポスト・ミレを
- > 否定する人は多いのでここまで私の気持ちも切り替わらなかったでしょう。

プレ・ミレは、悪魔の作った最高傑作とも言うべきもので、クリスチャンの手足を縛り、祈りをやめさせる絶大な効果があります。

なにせ「聖書の預言によると、これから世界は滅亡に向かっており、それをとどめることはできない」というのですから。

聖書信仰がかえって逆の効果を生んでいる。

「聖書がそういうなら、もうだめだ。何をしても無駄だ」ということになる。

聖書を信じないノンクリスチャンのほうが、そういう呪縛がないので、「世の中をよくしよう」と考えます。

だから、この世界でクリスチャンが最悪の人種になってしまった。

努力も何もしない運命論者になった。

このように私たちは、恐ろしい洗脳の中にいます。

覚醒され、イルミナティの世界政府を粉砕するために祈る人々が増えることを祈ります。

656 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月4日(土) 午前9時08分

タイトル: 祝福の流れがわれわれの方向にやってくるように祈ってください

板垣氏によると、財務官僚の勝氏らは、愛国者なのだという。

ではなぜこの時期に増税なのか。

目くらましなのだ。

たしかに、今のこの時期に日本だけが一人勝ちするならば、確実に戦争を仕掛けられる。

日本を救うには、隠れなければならない。そこで、「日本は借金大国」で「消費税を上げないとやっていけない」と世界にメッセージを発信している。

アメリカとしては、日本と中国が台頭し、アメリカの次の覇権を握るようになるのが悔しくてたまらないのだろう。

だから、両国に戦争をさせて、弱体化し、あわよくば戦争景気で漁夫の利をむさぼるつもりなのだろう。

とにかく、アメリカのシオニストがこの世界から消えることを心から望む。

周知のとおり、アメリカのシオニストのやり方は、血も涙もない。

侵略したい土地を徹底して破壊し、そこに復興需要を喚起し、米国資本を投入する。

スクラップ・アンド・ビルド方式だ。

その際に、インサイダー情報に基づいて、あらかじめ空売りをして、株価や外貨の下落によりぼろもうけする。

こういう方法は、サタンに憑依され、心が全部悪魔に支配されていないとできない。

普通の人間ではない。悪魔に憑依されているのだ。

その実、彼らのコネクションは、同性愛である。

ボヘミアン・クラブで行われるのは、モロク礼拝と同性愛パーティ。

聖書によると、同性愛は「神に見捨てられた証拠」。

「(神は) 不自然な欲望に(彼らを) 明け渡し、その結果、やってはならないことをやるようになりました」と

ある。

ここで明け渡しという言葉のもとの意味は「捨てる」という意味である。

だから、同性愛者は捨てられたのである。

捨てられていない人はあんなことできない。

リチャード・コシミズ氏によると、民主党のトップ、前原や野田、岡田らも同性愛コネクションの中にいるという。

CIA は昔から同性愛の秘密を握って政治家を動かしてきた。

スカル・アンド・ボーンズは、入会者へのイニシエーションの中で棺桶に入った候補者に対して性的な過去を告白させる。

こうすることによって、秘密を握ることになり、社会的な地位を失いたくない人はその結社の言うことを聞かざるを得なくなるのだ。

今の世界は、このように「神に見捨てられた人々」によってコントロールされている。

だから、やることなすことめちゃくちゃなのだ。

神はこんな地獄のような世界を出現させるために人間を創造されたのではない。

善人に支配させ、この地上を平和と繁栄で満たすことこそ神の御心である。

だから、われわれが動きださねばならない。

同性愛者どもの支配が終わるように祈ってほしい。

彼らがおるべきところに、落されるように祈ってほしい。

そして、われわれ、聖書において正当な相続者として選ばれた人々に権力と富とがわたるように。

流れがちろちろとこちらに向きつつある。

今までは、われわれの小川はカラカラだった。

しかし、これからは、怒涛のごとく祝福の水がわれわれに流れてくるだろう。

だから、祈っていただきたい。われわれ一人ひとりの状況が祝福され、繁栄するように。

祈れば必ず力はやってくる。

祈らないとやってこない。

神の国拡大のために。世界から戦争をなくし、人々が秩序と繁栄を享受するには、われわれが豊かにならなければならない。

657 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月5日(日) 午前8時58分

タイトル: 地上を天国と同じ状態に変えよう

今の世界を見て、「これから善人が支配する黄金時代が来る」なんてとてもではないが信じられないだろう。

しかし、聖書はそのように約束している。

創世記において神は「地を従えよ」と命令された。

また、アブラハムに対して「あなたの子孫によって地のすべての民族は祝福される」と言われた。

「そしてわたしは、あなたの子孫を空の星のように増し加え、あなたの子孫に、これらの国々をみな与えよう。こうして地のすべての国々は、あなたの子孫によって祝福される」(創世記 26・4)

パウロは、クリスチャンこそがアブラハムの子孫だといった。

「割礼を受けているか受けていないかは、大事なことはありません。大事なのは新しい創造です。どうか、この基準に従って進む人々、すなわち神のイスラエルの上に、平安とあわれみがありますように」(ガラテヤ 6・15-16)

「割礼を受けている人」とはユダヤ人である。ユダヤ人であるかないかは大事なことではない、新しい創造こそ大切だと。

つまり、民族に属するとか特定の儀式を通過したとかは関係ない、新生こそが大切であり、この価値観を持って進む人こそ神のイスラエルだと。

だから、イエス・キリストにあって生まれ変わって、アダム族からキリスト族に所属団体を切り替えた人々は、みなイスラエルだ。

イスラエルの先祖はアブラハムである。

だから、アブラハムを通して世界のすべての民族が祝福されるとのアブラハム契約は、クリスチャンを通して成就する。

「こうして地のすべての国々は、アブラハムの子孫、すなわち、クリスチャンによって祝福される。」

世界はクリスチャンによって祝福されると神が言われたからには、それは絶対に実現する。

プレ・ミレは間違いだ。

クリスチャンが何をしてもだめだと教えるから。

再臨のキリストによる「上からの改革」がなければ、世界は変わらないと。

これがサタンの教えでなくて何がそれなのだろうか。

聖書がはっきりと「世界のすべての国々は、クリスチャンによって祝福される」と教えているのに、「クリスチャンによっては祝福されない」と唱えるとは。

「いや、この子孫とはキリストのことでは？」という人がいるかもしれない。

別の箇所を見よう。

「あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西、東、北、南へと広がり、地上のすべての民族は、あなたとあなたの子孫によって祝福される」（創世記 28・14）

「地のちりのように多くな」った「あなたの子孫」によって祝福されるのだ。

だから、キリストだけによって祝福されるのではない。

無数のクリスチャンによって祝福されるのである。

だから、われわれは、クリスチャンが増えて、人々を祝福する時代がやってくると信じる。

しかし、今のキリスト教だと増えない。

なぜならば、敵が作った模造品だから。

本物のキリスト教でないと、本物のクリスチャンは生まれません。

だから、われわれが祝福される必要がある。

聖書を最高権威として死守する確固とした信念の持ち主以外には祝福された世界を作ることは不可能だ。

ちょっと科学や学問や世評、流行に触れると、すぐに聖書を低く見るようなクラゲ信者は不要。

神の御心の成就だけに的を絞る教会だけが祝福されて伸びる。

今のほとんどの教会は神様そっちのけ、「教会株式会社」という団体の営業成績を気にしている。

聖書研究をないがしろにする運動が祝福されるわけがない。

今、神様に忠実なクリスチャンが私の周りに集まっている。

全国から本物の「レムナント」が起こされている。

われわれの目標は、世界征服である。

征服といっても武力で行うのではなく、「奉仕」によって実現する。

人に奉仕し、人を幸せにすることによって支配を拡大するのである。

武力で拡大しても、長続きはしない。

人に好かれることによる支配は長続きする。

だから、奉仕する企業が勝つ市場経済は正しいのである。

全世界を手に入れよう。

地上を天国と同じ状態に変えよう。

「御心が天で行われるように地上でも行われるように」

投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月5日(日) 午後9時50分

タイトル: 日本人にはあくまでも正統派を貫け

福音派にいたころ、「重箱の隅をつつくような、教理に拘泥する頭でっかちの信仰」はだめだ。「幼子のような、純粋な信仰」を求めなければならないとよく言われたものだ。

この偽善的な「信仰」に虫唾が走る。

「重箱の隅をつつくような、教理に拘泥」しない信仰は、信仰ではない。そのような信仰は「幼子のような純粋な信仰」でもない。

なぜだろうか。

神が「律法の一点一画」にこだわるお方だからだ。

「まことに、あなたがたに告げます。天地が滅びうせない限り、律法の中の一点一画でも決してすたれることはありません」(マタイ 5・18)

神ご自身が「律法の中の一点一画」をこの世の何よりも重視しておられるのに、どうしてわれわれがそれを「重箱の隅をつつくような教理に拘泥」する態度として軽蔑してよいだろうか。

こういう「教理への無頓着」こそが、福音派の教会を墮落させ、役立たずにした張本人である。

「教理や教義」、神学に対する軽蔑こそが、教会を滅亡に向かわせている元凶である。

「律法にこだわるな。それは律法主義だ。イエスはもっと寛容であられた。律法にこだわらなかった」というのは、異端の教えである。

イエスご自身が「律法の中の一点一画でも決してすたれることはありません」と言われたのだ。

聖書の一言一句にこだわらない姿勢から何が生まれるのだろうか。

「預言の私的解釈」である。

神の御心よりも自分の望ましい教えである。

聖書に対する厳格な姿勢は、正統か異端か、教会が神にとって有益な存在になるか、それとも役立たずになるかの分水嶺である。

われわれを指導した牧師たちは、一般信徒の人気を取るために「神学なんて…」と学問を馬鹿にするような態度を取った。

その結果、キリスト教がボロボロになった。

われわれの前の世代のこのポピュリズムが今日の体たらくを作ったと言っても過言ではない。

われわれは、誰に嫌われてもいいのだ。神学が人気になかろうが、教理にこだわる姿勢が人を教会から離そうがどうでもいい。

そんなので離れていく人間を集めても何にもならない。

しかし、日本人はそういう類の馬鹿ではない。しっかりと見ている。学問を馬鹿にするような民族ではない。

私は、日本においては、学問を尊重する正統的なグループしか生き残れないと思っている。

アジアで唯一ノーベル賞を数多く取ることができ、しっかりとしたものを見極める力のある民族であるから、キリスト教はそれに適したものでなければならない。

他の国のような、踊ったり、卒倒したり、動物の鳴き真似をするような似非キリスト教でごまかすことはできない。

日本人にはあくまでも正統派を貫き、レベルの高いものを提供せよ。

659 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月6日(月) 午前6時41分

タイトル: アメリカの警察はみんなフリーメイソンなのか等

アメリカの警察はみんなフリーメイソンなのか。

<http://www.usavsus.info/MasonsInLawEnforcement.html>

これを見ると、本当にアメリカが月に行ったかどうかわからなくなります。

http://www.youtube.com/watch?v=_ecBbSIdBKI&feature=related

660 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月6日(月) 午後9時32分

タイトル: アームストロングが宣誓を拒否

<http://www.youtube.com/watch?v=aqfH7iK51HQ> (英語)

月を歩いたのであれば、聖書に手を置いて宣誓してください。宣誓していただければ5千ドル差し上げます、との申込みに宣誓を拒否したアームストロング。

<http://www.youtube.com/watch?v=rfCzUuA8M4U> (英語)

アームストロングは、何年もインタビューを受けることを拒否した。

661 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月7日(火) 午後11時23分

タイトル: 国連の徴税権を認めると世界政府が誕生する

Conservative Action Alertsによると、国連は地球規模の徴税を計画している。

=====

国連経済社会理事会総裁ミロス・コテレクは、次のように述べた。

「誰も一定の収入レベル以下の生活をすべきではない。基本的な保健サービス、初等教育、住居、水、衛生、他の必要なサービスを受けられるようにすべきだ。」

しかし、そのようなプログラムをどうやって資金的に成立させられるのか。

国連開発計画副総裁ジェンズ・ワンデルはこう語る。

「この計画を実現するには、控え目で長期的な資金提供が必要である。一つのアイデアとして考えられるのは、最低財務処理税（0.005%）の導入だ。これで歳入は400億ドルになる。」

すでにアメリカ人は、国連の予算の22%を負担している。さらに払わねばならないのか。

「アメリカン・シンカー」のニール・スナイダーはこのように述べた。

「われわれは、歯を持った世界政府に向かって進みつつある。つまり、世界は、徴税と強制力を持つ一つのグローバルな政体になろうとしている。現状では、国連は張子の虎だ。なぜならば国連は世界の諸政府の善意に依存しているから。しかし、もしグローバルな政治的権威となり、徴税能力を持つようになれば、物事は光速で変化するようになるだろう。」

事実、われわれは、新しい段階に進みつつある。この段階は、まず地方、次に国家、連邦、そして世界という順番に進む。世界レベルの政府は、世界規模の倫理と法の拡大と執行を担当する。こうなれば、『主権国家』の概念などまったく変わってしまうだろう。」

2月1日の会議において、現在社会開発委員会長を務めるジョージ・ヴァレロ大使は2月1日に開かれた第1回会議の席上で、「資本主義こそ世界の経済問題の元凶である。」「収入の多い人にさらに多くの税金を払」うよう求める「先進的な徴税策」が必要だと述べた。

以前、国連人権グループのリーダー、フランク・ラ・ルーは、地球上のすべての人がインターネットにアクセスできるようにすべきだと語っていた。

ラ・ルーによれば、「すべての人によるインターネット利用を促進し、できるだけオンラインのサービスを利用

できるようにすることがすべての国家にとって優先的な課題となるべきだ」。

ラ・ルーは、これを実現するためにどのような財政的計画を持っているのか。「グローバル税」である。地球上の最も繁栄している国、米国がそれを負担すべきだと。

国連は、何十億ドルものお金を米国から吸い上げる計画なのだ。

こういった計画には「終わりはない」。

国連諮問グループは、次の税金を課すべきだとしている。

炭素輸出最適化税

国際航空船舶税

国際航空便のジェット燃料と旅客チケットへの課税

化石燃料税

電気利用税

国際金融取引税

国連が呼吸にまで課税する日も遠くはないだろう。

こんなことは起こらないだろう、そんなにヒステリックになるな、と言いたいところだが、体制は整いつつある。オバマと民主党は上院を支配し、社会主義者ジョージ・ソロスが左翼の銀行口座をしっかりと支配している。国連の徴税がもうじき実現する可能性は高い。

・・・

民主党が 2010 年 11 月の中間選挙に勝ってから数日後、バン・キブン国連事務総長は、米国市民に対するグローバル税の課税を求めた。この背後には、オバマの前経済補佐官ラリー・サマーズと、ジョージ・ソロスがいた。

パリを本拠地とする経済協力機構は、世界徴税組織を創設し、税金に関する米国法をダメにすることによってアメリカの会社を妨害する考えだ。

バラク・オバマ大統領、ジョージ・ソロス、ナンシー・ペロシはこの方針を支持している。

国連はすでに「気候変動は現在における最大の問題である」と述べ、この架空話かもしれない問題を「解決する」ために 2020 年までに 1000 億ドルを用意しなければならないとした。

合衆国の大統領と議会は、この計画を阻止しなければならない。フランス外相ベルナルド・コクナーは、「国連がグローバルな徴税制度を作るのは時間の問題だ」と述べた。

その場合、バラク・オバマは国連に対してノーというのだろうか。それとも、この墮落した世界組織が永遠にあなたのお金を奪うことを許すだろうか。

われわれ民衆が米国の主権と憲法を守るために立ち上がらない限り、世界政府は誕生するだろう。

(Conservative Action Alerts ニュースレター2月7日付)

=====

ロスチャイルドの国連を中心とした世界政府計画は、徴税能力とともに大きく前進するだろう。

このバベルの塔が崩壊するようにぜひとも祈っていただきたい。

662 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月8日(水) 午前11時26分

タイトル: クリスチャンにとっての成功とはこの世のそれとはまったく違う

信仰とは、目の前にある事業が成功するか失敗するかに関して確信を持つためではない。

たとえば、自分が始めた事業が成功することを信じられないならば不信仰だとは言えない。

なぜならば、神の御心は結果が出るまで分からないから。

信仰とは、聖書に約束された事柄が実現することを信じることであって、目の前にある一つ一つのことについてすべてうまくいくことを確信することではない。

たとえば、私は大学受験の結果を信じて受験したが失敗した。

「なんだ、信仰なんて関係ない。なるようにしかならない。」と考えたものだが、後で考えると、あれが最善だったと分かる。

個別の事について、自分が望んだ結果が得られるかどうかはわからないのだ。

確実に信じることができるのは、「神は最善を用意してくださる」ということと「自分にとって不利益なことが起こったとしても、それは必ず利益に変わる」ということである。

この2つについてわれわれは聖書において保証がある。

しかし、自分が始めたビジネスが成功するかどうかはわからない。

失敗することが御心かもしれない。

それは、神の深い御心において、自分にとって失敗が必要な場合は失敗する。

「やることなすことすべて成功することを信じられないのは不信仰だ」という判断は間違っている。

本当の信仰とは、「やることなすことすべて利益に変わる」と信じることだ。

たとえば、自分が30歳で死ぬかもしれない。長生きすることを信じられないならば不信仰かというところではない。

自分の寿命を決定されたのは神であるから、本当の信仰者は、それを自分の運命として受け入れる。

受験や事業で失敗するかもしれないが、最善を尽くして努力して成功しなかったとしても、その結果を受け入れるのが信仰だ。

「勝ち組」「負け組」という言葉がある。

ある人は、クリスチャンは勝ち組にならないといけないという。

経済的・社会的に成功すべきだと。

それは信仰とは関係ない。

なぜならば、イルミナティが支配している社会の中で成功した人は、それなりの犠牲を払うからである。どういう犠牲かということ永遠の地獄である。

もちろん、神がイルミナティによる呪いをかいくぐって成功に導いてくださるかもしれないが、それは、祝福として受け入れるべきだ。

しかし、イルミナティが支配している今の世界でまともなことをやって成功することは難しい。

魂を売るしかないように思える。

だから、この世界で成功するとか、勝ち組になるとかは、非常に愚かなこだわりである。

われわれは、自分の周りはずべて水槽だと思っただらいい。

ぐるりと水槽に取り囲まれている。その中には派手な魚もいれば、鯨のような獰猛な魚もいる。しかし、どんなに力が強くても、われわれのところには来ない。

われわれも向こうには行けない。魚の生活は、魚の生活である。われわれの生活はわれわれの生活。

互いに何も関係ない。

向こうは見えるし、向こうからこちらも見える。

だから何？

関係ない。

自分もあの魚のようにきらびやかな格好がしたいと思って入っても無駄である。ずぶぬれになるだけだ。

私は、長い体験から、神以外のいかなるものも自分にとって関係がないと悟った。

自分がものすごい貧乏になったとしても、必ず助けが来る。

周りが自分のことを評価しても、その評価は自分にとってまったく関係がない。水槽の魚がこちらを見て何かパクパク言っているようなものだ。

この世界の成功も失敗も自分の神様のための働きにとっていかなる意味もない。

キリスト教界で出世しようが落伍者の烙印を押されようが、インターネットで偽神学者と呼ばれようがなんと評価されようが関係がない。

クリスチャンにとって成功とは、神との個人的な関係で測るべきものであって、他人はまったく関係ないのだ。

663 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月8日(水) 午後0時19分

タイトル: これ以上、世界の人々を巻き込むな

板垣氏のニュースレターによると、「岩国基地への移転」案が米軍からもちあがってきたのは、第三次世界大戦（核戦争）の舞台として朝鮮半島が選ばれており、その際に朝鮮半島への接近として都合がよいのが岩国なのだという。

岩国だけではなく、戦争においては、日本列島にある空港、とくに日本海側に近い空港の活用を米国政府は考えているという。

いい加減にしてほしい。

世界をどれだけ破壊すればいいのか。

世界大戦を三度計画したのは、イルミナティの総帥アルバート・パイクである。

世界政府樹立のためにもう一度世界大戦が必要なのだと。

世界大戦がどこで起ころうが、次の戦争は核を使うだろう。

そうすれば、人的物的被害は未曾有のものになる。

このように人の生活をめちゃくちゃに破壊しても実現しなければならない世界政府とはいったい何なのか。

なぜ彼らはそれにこだわるのか。

あらゆる知的・物的資源を投入して、本格的に世界を奈落の底に引きずり落とそうとの計画だ。

世界政府が誕生すれば、いよいよサタンが本命とするクリスチャンの絶滅が始まる。

サタンはキリスト教を徹底して破壊し、自らの主権を確立する。

そんなことは絶対に実現しないのだが。

世界政府は絶対に成就しない。

それは、神がすでにキリストの世界政府を 2000 年前に樹立されたからだ。

ニュー・ワールド・オーダーはすでに 2000 年前に実現した。

あれ以外のニュー・ワールド・オーダーはない。

これからサタンが自らのニュー・ワールド・オーダーを実現しようとしても無駄だ。

キリストは、この試みを徹底して破壊される。

私が先々週の礼拝の際に示された御言葉は、「これは私の戦いだ」である。

神が自らイルミナティと戦ってくださる。

核戦争は絶対に阻止しなければならない。

イスラエルとイラン、そして、朝鮮半島において核爆発が起きる可能性が高くなってきた。

邪悪なイルミナティ米国よ、核を爆発させたいなら CIA とペンタゴンとホワイトハウスでやれ。

これ以上、世界の人々を巻き込むな。

Date: 2012年2月9日(木) 午前4時32分

タイトル: サタンと完全に絶縁すれば怒涛のごとく資金と権力がやってくる

今までずっと働きどおしだった。

翻訳と英語やロシア語の講師。

英語は予備校で10年教えた。ロシア語は、住友商事とニチメンなどで企業派遣研修生に7年間教えた。

どちらも90年代末に景気が悪くなってから仕事が減ってやめた。

今は、翻訳一本だ。

もうすぐ和文英訳の仕事が終わりつつあり、次は露文和訳の仕事が3月いっぱいまでである。

90年代は生活には困らないくらいの収入があった。

2000年代になってから経済状況は悪化の一途をたどっている。

友人の翻訳家も単価を半分に落とされたと言っていた。

翻訳業界の現実、まさに「蟹工船」である。

毎日びっちりやっても一か月10万そこそこしかない。(別に翻訳にクレームが来ているわけでもない。納期は守るし、翻訳の質については評価されている。)

こんな馬鹿みたいな仕事でも、自宅でできるからやっている。

仕事と仕事の合間に少し時間ができると、健康ランドに行き、本を読む。TVの音がうるさいが、集中して読める。

近所に天然温泉がある。800円で入れるが、JAFカードがあるので、会員割引からさらに20%引きで入れる。

JAFカードは、年会費4000円くらいだが、特典がいろいろあるので結局はもとが取れる。

車はK氏の好意で借りているが、古い軽自動車ですらトラブルだらけだ。最近5回もJAFを呼んだ。

200年前からディスペンセーションナリズムがこの世界を悪魔に明け渡さなければ、今頃クリスチャンが世界を支配していただろう。

そうすれば、クリスチャンにお金の流れ、こんな苦勞はしなくて済んだはず。

井戸の水をくみ出す場合、最初が大変だ。いったん流れはじめるとどんどん続く。われわれは今、最初の水を出そうとしている。

200年間サタン公認のキリスト教だったので、真綿で首を絞められるように徐々に息が細くなり、今や瀕死の状態である。

(イルミナティの三百人委員会は「われわれはダービー卿のファンダメンタリズム (つまりディスペンセーションリズム) を支持する」と述べている)

どの教団や教派でも、後継者不足に苦しんでいる。

サタンから公認を受けてきたのであれば当然じゃないか。最後は自分を殺す予定の人間に養ってもらうなんて馬鹿の骨頂だ。

イルミナティと手を組んでいるある日本の新興宗教は、お金がじゃほじゃほ流れていて、政治まで動かしている。

これまではそうかもしれない。

しかし、われわれが声を挙げて、祈りによってイルミナティを崩壊させ、彼らから実権を奪うならば、逆の現象になるのだ。

われわれに権力と富が怒涛のごとく流れてくる。

これまでキリスト教というとしみあった印象だった。何か貧乏を貴ぶかのような。

それは、敵の土俵の上で相撲を取っていたからだ。

敵の恩恵にあずかりながら生きようとしていたからだ。

本来、われわれ天地の主権者であるキリストにつく者たちこそ、兆とか京の単位の巨額資金を扱うはずではないか。

サタンからお小遣いをもらう今までの体制を改めて、本気になって神から資金を提供してもらわないか。

教会は、イルミナティと手を切って、神に直接お金を与えてもらうべきだ。

サタンと完全に絶縁すれば、怒涛のごとく資金と権力がやってくるだろう。

本気になれるかどうかだ。

665 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月9日(木) 午前6時35分

タイトル: 何をどう評価しているかでその人の内実が分かる

情報そのものにはあまり意味がない。

付加価値は解釈にある。

野菜など食材そのものにそれほど付加価値がなく、料理にそれがあるのと同様だ。

誰が調理するのか。それにわれわれはお金を払う。

だから情報としていくらインターネット上にあるものを集めても、それだけならあまり意味がない。

その情報をどのように解釈して結論を出すかが問題なのだ。

その解釈者の解釈が金を払うに値するものであるかどうかは、その解釈者の実力である。

実力がある人は価値のある解釈を提供できる。

実力者には知恵がある。

知恵は、信仰や学識、専門知識、経験、常識、実践、その他の蓄積によって有機的に育つものである。

そういう背景がなければそれなりの解釈しかできない。人々が判断の参考にできる意見にはならない。

解釈は、与え手も受け手も試す。

知恵がない人間が情報を解釈してもつまらない解釈にしかならないように、知恵がない人間が解釈を読んでも評価できない。

受け手は、自分の力量に応じてしか人の解釈を理解できない。

普段からあまりおいしい物を食べていない人は、天才シェフの味が理解できない。

肥えた舌だけが、本物の料理を理解できる。

それと同じように、肥えた目だけが、優れた解釈を評価できる。

ラッシュドゥーニーの解釈を評価しない人々は、ラッシュドゥーニーの知恵とそれが生じた豊かな知識や学識、経験などの背景を評価できないのである。

だから彼の著作は似非クリスチャンには理解できないのである。

本物のクリスチャンは、自らの思考や体験から彼の知恵を評価する。

天才とは、凡人が見慣れた物のすごさを再発見できる人である、とある人は言った。

優れた解釈があっても、それを評価できる力が自分になれば単なる雑音である。

だからつまらない人間は知恵の言葉に対して怒りを燃やすのである。

「聖なるものを犬に与えてはいけません。また豚の前に、真珠を投げてはなりません。それを足で踏みにじり、向き直ってあなたがたを引き裂くでしょうから」(マタイ 7・6)

何をどう評価しているかでわれわれはその人の内実を知ることができる。

666 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月9日(木) 午後9時22分

タイトル: 雑記

(1)

キャロル・クイグリーの Tragedy and Hope という古典的名著を注文した。1200 ページもある。

<http://www.amazon.co.jp/Tragedy-Hope-History-World-Time/dp/094500110X>

歴史家キャロル・クイグリー教授はビル・クリントン元大統領の恩師であり、この著書ははっきりと英米の政治の裏にある陰謀組織を明らかにしている。

ゲイリー・ノースの著作で触れられていたので読まなければならないと常々思っていた。

<http://www.youtube.com/watch?v=7CYc2FmIxEo&feature=related>

(2)

<http://www.youtube.com/watch?v=oRQelzVR6YM>

すでに先日紹介した上記の再建主義の紹介ビデオの字幕は、いわくつきのものであり、ものすごい苦闘のもとに作成したものである。かれこれ 10 年もの歳月と（私にとって）巨額のお金を費やした。

まだ 3 分の 1 であり、残りを完成させなければならない。

3 月末まで仕事があるのでできないが、終わったらぜひ取り掛かりたい。

(3)

ヘルマン・ドイウェールトの著作は非常に難解であるが、西洋の思想史をクリスチャンの視点から学ぶには避けて通れない。

私は、30 ページそこそこを読むのに 3 年くらいかけた。もちろん、本はボロボロだ。書き込みも無数にした。内容としては、カントの観念論から現代に至る思想史の流れだ。

ヴァン・ティルの *Defence of the Faith* もボロボロになり、テープで全体をぐるぐる巻きにして補強するまで繰り返し読んだが、ドイウェールトはそれ以上に読んだ。しかし、本当に全体像が見えるまでにはまだかかりそうだ。

ドイウェールトの本は、読者が限られているので高価である。

(4)

ラッシュドゥーニーの著作は *Institutes of Biblical Law* (聖書律法綱要) Vol.1 は必読で、3 分の 1 を翻訳してアップしている。Vol.2 も一部翻訳したが、誰か Vol.1 と Vol.2 を翻訳してほしい。

今は、Vol.3 も出ているがまだ買っていない。ラッシュドゥーニーの本は、ドイウェールトやヴァン・ティルと比較すると非常にわかりやすい。英語の勉強にもなるのでご一読をお勧めします。

(5)

以前構築したシステムが業者のサーバーが米国に移転し、その際に CGI の権限に制限をかけられたために、すべて機能しなくなっている。

掲示板に書き込むと自動的にバックアップファイルが作成され、カウンター付でデータベースに収まり、同時に登録者にメールが送信されるようにシステムを作ったのが全部無効になってしまった。

今は、このヤフーのシステムを使っているが、バグが多くて非常に使いにくい。ソースをいじることもできないので、カスタマイズできない。制限をかけていないのに、投稿すると一回一回承認が必要になっている。

本当は CGI が自由に使え、しかもフォローアップができる業者と契約し、かつて書いたプログラムも全部生きるようにシステムを作りたい。

CGI はちょっとでも権限を変えると、中のスクリプトをいろいろと書き換える必要があるので非常に面倒だ。

プロバイダは、知り合いのクリスチャンの業者で、かつて仕事をくれた恩義もあるので変えたくないのだが。

667 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012 年 2 月 9 日(木) 午後 9 時 25 分

タイトル: アメリカはノアの洪水において滅んだアトランティスの再現

アメリカは、フランシス・ベーコンという薔薇十字団とフリーメイソンの親玉が計画した国である。

ノアの洪水の際に沈んで滅亡したアトランティス国を再現するというのが彼の計画だったらしい。

<http://www.youtube.com/watch?v=5loYIDP8dvI>

によると、アトランティス大陸の西海岸が、今のアメリカの東海岸だったという。

もうお気づきかもしれないが、洪水で滅んだということは、神のみ怒りを受け、しかも、悔い改めなかった人々の国ということである。

それを再現しようということは、つまり、神に反逆する文明を再現しようと同義である。

だから、アメリカという国は、ノアの洪水において滅んだ邪悪な反逆の霊が、秘密結社という形で働いている国なのだ。

歴史とは、2つの霊の戦いであるということがこれでもわかる。

アベルからノアに至る流れと、カインからアトランティスに至る流れ。これが現代では、キリスト教再建主義とイルミナティの対立となって現れている。

われわれは、神の霊の側に立っている。

そして、神のほうがサタンよりも圧倒的に強い。

神は、ノアの洪水のときのように、悪者の支配を滅ぼされる。

もう一度、洪水のような世界的大破局が襲うかもしれない。

ノアのように、われわれはこの世の邪悪なものから離れ、方舟に入ることができるように自分を整えよう。

668 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月9日(木) 午後10時38分

タイトル: 反対運動を潰すために敵が取っている狡猾な方法

今、右翼の活動を熱心にやっている人々に在日が多い。

(在日の人々全員を批判しているわけではありません。)

私が一時参加していた保守系の SNS も在日が支配していた。

在日は統一協会と関係がある。そして、統一協会は CIA と関係がある。

だから、在日の人々は、CIA の出先機関として利用されている。

あの SNS でも、中韓を批判するなら許されるが、米国を批判すると追い出される。

これで見えてくるのが、「CIA つまりユダヤ支配組織の実行部隊は、先手を打って運動を支配する」ということ。

おそらくイルミナティはすべてこの手を使っているのだろう。

つまり、「反対運動を支配し、封じ込めるために人々が運動を開始する前にその運動を開始する」という手。

ベトナム反戦運動は、イルミナティが主導していた。

<http://tak0719.web.infoseek.co.jp/qanda/sculb.htm>

今の「ウォール街を占拠せよ」運動もイルミナティが支配している。

<http://www.youtube.com/watch?v=Nyy3v98zBzo>

ということは、キリスト教も同じではないか？

リベラルとかバルトとかディスペンセーションナリズムとか教会成長学とか、今のキリスト教界を支配する異端は、キリスト教を支配し、反対勢力を作らせないためにあらかじめ主導権を握るために敵が始めた運動だったのではないか。

学生時代、クラブの部室の管理を巡って大学側と交渉をしていたときに、どこからともなく新左翼が入ってきて、運動を支配した。

単なる部室の割当だけの運動が、左翼学生運動になってしまった。

新左翼は、民青を目の敵にし、あちらのコップの中の嵐に時間を取られるようになった。

結局、部室の割当はそっちのけになった。何のための運動だったのか分からなくなった。

支配のための賢い方法とは、反対運動の主導権を取ってあらぬ方向に持っていくことなのだろう。

ユダヤ人はこういう手法を編み出してきた。

今の大統領選挙など民主主義政体と呼ばれるものが、もはやまったく機能していないことは火を見るより明らかだ。

誰かほかに支配者がいる。

国会は単なる茶番劇だ。

われわれは、運動を支配されないために、送り込まれてくる人々に注意すべきだ。

同じ立場だと思っているうちに、主導権を取られ、あらぬ方向にもっていきような人は、敵から送り込まれた人である可能性が高い。

「反対運動を封じ込める最善の方法は、こちらが反対運動を真っ先にはじめてそれに方向付けを与えることだ。」

このようにイルミナティは考えているのだろう。

669 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月10日(金) 午後6時27分

タイトル: 偶像礼拝するとくだらないものを大切に思うようになる

http://www.youtube.com/watch?v=9BaJp_xVTaI&list=HL1328865040&feature=mh_lolz

生活保護で26万もらっていて、足りないという。

毎日、死にもの狂いで働いても26万もらえない時代に。

おっかしい制度だ。

そもそも、毎月納めた人が受け取る年金額よりも生活保護のほうが多いというのがおかしいんだ。

政府は「働くな」と言っているようなもの。

今の政治というのは、感覚が転倒した人々がやっている。

感覚の転倒はどこから来るか？

偶像礼拝ですよ。

偶像を拝む気持ちというのは、「自分よりも低いものを高いものとする」心。

木や石でできた動くことができないものを礼拝するから、価値観が全部ひっくり返る。

シーシェパードとか、クジラ漁反対運動やっている連中は「動物を助けろ、日本人を殺せ」みたいな倒錯した価値観持っている。

ギリシャ語で罪は「ハマルティア」といい、的外れという意味。

正しく物事を認識できなくなっている状態。

価値あるものを価値あるとし、価値のないものを価値がないとできるかどうか。

罪の中にいると、くだらないものにお金を使う。

ユーチューブの情報は、ほとんどが下らないが、中には優れたものもある。

しかし、優れたものはアクセス数が上がらない。

アクセス数が1千万とか1億など達しているのは、まったく意味のない「コーラにメントスを入れるとどうなるか」みたいなもの。

「みな迷い出て無益なものになりました」とのパウロの言葉は真実だ。

人間のほとんどは無益な人生を送るようになった。

本当に尊い神を捨てて、偶像を拝むようになったからだ。

自業自得である。

死ぬ直前になって「失敗した！無駄なことに時間を使ってしまった！」と後悔しても遅い。

670 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月11日(土) 午後1時56分

タイトル: 日本を侵略者に仕立て上げたソ連

今、太平洋戦争前の日本を巡る世界情勢に関して翻訳している。

ソ連側からの説明を読んでいると、非常に興味深いことがわかる。

日本の中国侵略について、一番強硬路線を取ったのがソ連で、米国はそれほど乗り気ではなかった。

米国内には、孤立主義の空気が蔓延していた。

ソ連側は、懸命に米国に働きかけて、対日経済的軍事的制裁措置を講じようとする。

しかし、最近秘密の指定を解かれた文書によれば、対中国侵略の口火を切ったのはソ連であった。ソ連の工作員が張作霖爆殺事件を首謀したことが資料から明らかになった。

張作霖爆殺事件はソ連特務機関の謀略であった

http://www.youtube.com/watch?v=1si9hA_vfsk&feature=player_embedded

つまり、ソ連は、日本に侵略者の汚名を着せたということだ。

コミンテルンのスパイ尾崎秀実が刑死する前に暴露したように、共産主義者の野望とは、日米開戦である。日米開戦、そして、敗戦を通じて日本を共産化する。

ハルノートを書いたのは、ハリー・デクスター・ホワイトという共産主義者だ。

私は、満州侵略を行った石原莞爾らも手先だと思っている。

内外に潜んでいた反日共産主義者、世界統一政府論者が結託して、日本を追い詰めて犯罪者に仕立て上げ、米国と戦争をさせて、国を荒廃させる。

その中で共産化を遂行し、世界革命を実現する。

こういう計画だったのだろう。

671 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月11日(土) 午後11時10分

タイトル: 一神教に対する無知と多神教に対する幻想

<宗教は一つで人類も一つであるから争いは起こらないはずだが、現実を見ると違う。だから、創造神はいないと判断せざるを得ない。それゆえ、一神教は、民衆を支配するための洗脳の道具に過ぎない。>

まず前提として、一神教に対する知識も考察も浅すぎる。

欧米の間違いが明らかになると、すぐに短絡的に日本の歴史に対する手放しの賛美になる。そして、多神教の称賛。

言うておくが、日本人は、欧米の文化なしには、今日の繁栄を築くことはできなかった。欧米のキリスト教文化とキリスト教思想がなければ、毎日の生活の一瞬たりとも送ることはできない。

科学は、キリスト教のもとで「のみ」長期的に発達した。

<http://www.youtube.com/watch?v=MRXfXJSqXz4>

日本人よ。歴史を学べ。

(1)

「宗教は一つで人類も一つであるから争いは起こらないはずだ」

宗教がたとえ一つであったとして、人類が一つであったとしても、争いは起きる。

なぜならば、「罪」があるから。

人間は食欲である。人のものをほしがる。

聖書では、「神の教えがあれば社会から戦争も殺人も消える」とはまったく教えていない。

聖書が示す社会のシステムとは「罪を前提としたもの」である。

それは、普通の社会の法律と同じ。どの国の法律でも、犯罪の存在を前提としている。どの国でも、軍隊があるのは、「人は侵略する」からである。

それと同じ。聖書は「教えが正しければ、行動も正しくなる」などと教えていない。

だから、一神教やキリスト教があるから世界から戦争が消えるなどという幻想は聖書そのものが啓示していない。

人から罪が消えるのは、この肉体を離れたときのみである。この罪の残滓がある肉体に留まっている限りは罪から自由にはならない。

(2)

人類は一つではない。

聖書は、人類には2種類あるという。

一つは、アダムから生まれた人種。アダム族。

もう一つは、キリストから生まれた人種。キリスト族。

前者は、罪の処理ができていないので、罪責をもろに自分で支払う。だから、死ぬと永遠の刑罰に入る。地上で蓄えた財産はすべて失って永遠に無一文になる。

後者は、キリストにあって罪を赦されている。罪責から解放されたのでもはや責任はない。死後、永遠の祝福に入る。地上で蓄えた財産を相続しているだけでなく、天に積み上げた資産は100倍になって永遠に相続できる。永遠の金持ちになる。

前者は、神を捨ててサタンに従ったので、サタンの奴隷であり、地上においてサタンの意思を実現するために働く。

それが意図するとしないとにかかわらず、人生は神の国の破壊のために費やされる。

後者は、サタンの王国からキリストによって贖いだされたので、罪から自由であり、神の国のために働くことができる。

人生の一瞬一瞬がすべて意味があり、神がそれを活かしてくださるので、無意味な時間というものはない。人生はすべて成功であり、どんなに失敗しても、神が利益に変えてくださる。

(3)

「創造神はいないと判断せざるを得ない」

世界は人類の始祖において墮落しているので、戦争があるからといって創造神がない理由にはならない。

創造神がいくら警告しても、自分の欲望に走って戦争するのである。問題は人間にある。造り主にはない。

(4)

「一神教は、民衆を支配するための洗脳の道具に過ぎない」

民衆を支配するための洗脳の道具となったのは、多神教も同じ。

仏教も神道もヒンズー教も、民衆を支配するために利用された。

こと洗脳の道具ということになれば、一神教だから、多神教だから、…というような短絡的な分け方はできない。

どのような教えであっても、人を操作するために利用は可能である。

問題は、その教えそのものにあるのではなく、利用する人間の側にある。

料理の役に立つ包丁が殺人の道具になるようなものだ。

672 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月12日(日) 午後3時30分

タイトル: 戦争で儲ける銀行家たち

日本の中国侵略に関して話し合うブリュッセル会議（1937年11月3日～24日）において、米国側は対日制裁に乗り気ではなかった。

制裁を主張するソ連代表に対して、「長期的かつ消耗的な日中間の戦争はソ連の利益になる」と言い始めた。

世界歴史から戦争がなくなるのは、戦争は儲かる商売だからだ。

ヒトラーがヨーロッパを侵略したときに、なぜ米英仏は宥和政策を取ったのか。

儲かるからだ。アメリカのプレスコット・ブッシュの銀行はヒトラーに融資をしていた。欧米の企業が戦争当事国に投資をして儲けていた。

いわゆる「優柔不断だったからだ」などというのは表向きの理由。

戦争は儲かるのだ。長期になればなるほど儲かる。

じゃあ、ソ連は良心的だったのか。

歴史書では「共産主義者は、侵略で金儲けしないからクリーンだ」みたいなことが書かれている。

高校時代の教科書もそんな調子だった。

とんでもない！

なぜソ連が日本の侵略をたたいたのか。

英米を対日制裁に駆り立てて英米日で戦争をはじめさせ、日本を敗戦に導き、革命を起こすためだ。

日中戦争の引き金は日本が引いたことになっているが違う。

ソ連の工作員が日本人に偽装して起こした。

ブルジョア同士を戦争させ、疲弊させ、共産主義者が隙をついて支配するというのが方法だ。

中国はそれで成功した。

日本は手違いがあって、失敗した。

日本はアメリカ側に回ってしまい誤算が生じた。

これら運動のすべてにロスチャイルドがからんでいる。

ソ連もロスチャイルドが作り、英仏はロスチャイルドの銀行が支配し、米国は **FRB** を通じてロスチャイルドが支配していた。

米ソどちらが勝っても儲かる仕掛けだ。

筋書きを作って人々に戦争させ、もうけはすべて自分取る。

人々は、戦場となった町や村で死ぬ。

かたや悲惨を舐めつくす庶民。

かたやその悲惨によって金儲けをする銀行家。

ロスチャイルド家が地獄で味わう刑罰はいかばかりのものであろうか。

投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月13日(月) 午前5時41分

タイトル: ブルービーム計画

<http://www.youtube.com/watch?v=nPAYbbGLYIE>

ブルービーム計画というものがあるらしい。

世界中で、電氣的に光の波をつくり出すショーを作り出す。

このパルスの影響を受けると、神が自分に語りかけているように思われてくる。

これを行っている連中は4つの準備をする。

1. すべての考古学的な知識の破壊。

各地で地震が発生し、異常なものが出てくる。これによって、彼らの嘘が補強される。この嘘を通じて、「すべての宗教教義は誤解されてきた」と人々に信じさせようとする。

2. 宇宙空間から描きだされる巨大なライトショーの開催。

三次元ホログラムとサウンド、複数のホログラム映像のレーザーによる描写。すべてのシステムを動員して幻覚を生み出す。

3. テレパシーによる電子的2ウェイ・コミュニケーション。

超超低周波 (ELF)、超低周波 (VLF)、低周波 (LF) が地上の人々に届く。人々の頭の中にメッセージが入る。

プロジェクトが作動すると、「メシア」がすべての国々に現れる。そのメシアによる宗教がその国の最大の宗教

となる。

回教徒はマホメットを見、クリスチャンはキリストを見る。

すべての宗教の神が融合して、一人の神になる。イエスは、新しい世界の宗教的リーダーになる。

4. 電子的な手段による「超自然的」顕現により次の幻想が現れる。

- (1) 宇宙人による侵略が近い。
- (2) (クリスチャンには、) 携挙が近い。
- (3) 宇宙人が世界の人々を救いにきた。
- (4) サタンの超自然的力が世界中で現れると万人に信じさせる。光ファイバーや電線、電話線を通じて流れる。

次のビデオを見てください。

十字架についてのイエスの像が空中に浮かんでいる。

<http://www.youtube.com/watch?v=fxkngzG41ZE&feature=related>

アジアでは観音像。

http://www.youtube.com/watch?v=ZYDqyxx3_-g&feature=related

ノルウェーでは渦。

<http://www.youtube.com/watch?v=0YX0pkRoSg&feature=related>

日本では奇妙な UFO。

<http://www.youtube.com/watch?v=vNIgzHhg-Ns&feature=related>

中国でも同様なものが。

<http://www.youtube.com/watch?v=6MKpxzGfJd8&feature=related>

世界統一政府と世界統一宗教に人々を巻き込むために、イルミナティはホログラムや幻覚を準備しているようだ。

そういえば、最近、初音ミクのライブがロサンジェルスであって、ものすごい人気で会場に入れなかったという。

<http://www.youtube.com/watch?v=eX8ilYV5NwC>

この初音ミクとは、札幌のソフトウェア会社が開発した音声合成ソフトのキャラクター。自分が作った曲を歌ってくれる。

会場ではそのキャラクターのホログラムが映し出された。つまり、客は CG 画像をあたかも人であるかのように錯覚しているということだ。

これも世界政府の準備として行われているのかもしれない。

674 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月15日(水) 午前8時22分

タイトル: 聖書的キリスト教の救いの正しい理解

「さて、そこでイエスは言われた。『わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就するということでした。』」(ルカ 24・44)

「まことに、あなたがたに告げます。天地が滅びうせない限り、律法の中の一点一画でも決してすたれることはありません。全部が成就されます」(マタイ 5・18)

「わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思っはなりません。廃棄するためではなく、成就するために来たのです」(マタイ 5・17)

イエスが来られたのは、「聖書に書かれているすべて」を成就するためである。

取り残しはない。

全部成就された。

なぜか。

人間の行わねばならないすべての義務を完全に行うためである。

それは、イエスを信じる人間が、すべての義務を行って永遠の命を与えられるためである。

われわれは自力で神の前に完全になれるだろうか。

ノーだ。

聖書に記されたすべての律法を守ることができるだろうか。

ノーだ。(*)

だから、われわれが救われるには、契約関係に入ることに由る以外にはない。

すなわち、イエスの御体であるエクレスシアの一部になるという契約を結んでイエスの細胞になることである。

イエスがすべての律法を守り、神の御前にテストに合格したので、その細胞であるわれわれも合格した。

われわれは、イエスとともに、永遠の命を受け、イエスとともに、永遠の相続財産を受け、イエスとともに、永遠に祝福される。

われわれは、絶対に死なない。われわれの体が滅びると即座に新しい「みたまの体」が与えられる。

現在、イエスが「天地の一切の権威を持っている」ように、われわれも天地の一切の権威を持っている。

われわれは神になったのではない。われわれは、人間としてのイエスの一部になったのである。

神としてのイエスの一部になったのではない。

以上が、聖書的キリスト教の救いの正しい理解である。

これ以外の理解は間違いであり、深刻な誤謬に至る可能性があるので注意されたい。

(*)

フルプレテリズムは、この問題を解決するのは、「天地の滅亡」だという。

すなわち、フルプレテリズムは、紀元 70 年の神殿崩壊を天地の滅亡と考え、これが成就したのだから、「天地が滅びうせない限り、律法の中の一点一画でも決してすたれることはありません」の御言葉は成就したと考える。

「天地が滅びうせない限り、律法の中の一点一画でも決してすたれることは」ない

→

「天地が滅びうせれば、律法の中の一点一画でもすたれてよい」

という理屈だ。

天地が滅び失せた紀元 70 年に、律法の効果はすべて失われた、と。

紀元 70 年以降は、人間は律法を破ってもいい、と。

じゃあ、イエス・キリストは不要ということか。

律法に効果がないのだから、イエス・キリストがいなくても人間は裁かれることがない、と。

「野球のゲームで、もう試合が終わったので、どんなにルールを破ってもペナルティは課せられない」のと同じだ。

これが聖書が言う救いなのか？

違う。

聖書の救いとは、次のようなものである。

「紀元 70 年後も、ルールはある。

律法は有効である。

しかし、その律法を違反した場合の刑罰はすでにイエスが背負って死んでくださったので、信じるわれわれにはもはや刑罰は課せられない。」

刑罰が無効になったのであって、律法そのものが無効になったわけではない。

「わたしが来たのは、…廃棄するためだと思ってはなりません」。

フルプレテリズムは、イエス・キリストによる贖いによる救いではなく、天地が滅びるという環境に救いを求めるので、偶像礼拝なのである。

フルプレテリズムは異端である。

675 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012 年 2 月 15 日(水) 午前 9 時 08 分

タイトル: 心から主に従うことができる道を歩もうではないか

この世は、イエスが支配しておられるが、しかし、悪魔も支配している。

その構造は、こうである。

ノンクリスチャンは悪魔の手先の契約を結んだアダムの子孫である。

だから、ノンクリスチャンは、悪魔の手先として働く。

その代わりに悪魔からご褒美をもらう。

生活は成り立つ。

ときには、金持ちになったり、この世で優遇されたりする。

しかし、悪魔の帝国の中に住んでいるので、いずれは悪魔に調理され、どん底に落とされる。

悪魔は、最後の最後までだまして利用しようとするから、素顔を絶対に見せない。

われわれの人生が終わる直前に表れて「よくまあだまされてきたねえ！お前の受けるべき分はこれだ！」と言って、地獄を見せる。

気づいたときには遅い。

この人生で、われわれは、だれかから何度か警告がある。

「そっちへ居ると、いずれ地獄に落とされるよ」と。

自分の心の中でも「おそらくこういうことをやっていれば、永遠の地獄に落ちるんだろうなあ」と気づいている。

しかし、ノンクリスチャンはそういう心のつぶやきをすべて「押し殺す」。

で、見なかったこと、聞かなかったことにする。

だから、地獄に落ちても言い逃れはできない。

死ぬ直前になって、悪友やら罪の仲間たちが実はとんでもない奴らだったと気づく。

自分を裏切り、利益だけ取って逃げていく。

それまでうまくいっていたことがすべて逆回転で回り始める。

自分が「これくらいのことどうってことない」と蒔いた種がすべて発芽して、成長し、自分にとって不都合な問題となる。

結局、刈取りをせざるをえなくなる。

悪魔の支配下にいるというのはこういうことだ。

「後ろ髪をひかれながらの人生」である。

すかつとしない人生。

心から笑えない人生。

イエスは、われわれに正直に生きる人生を与えてくださる。

イエスは、悪魔の上におられるから、イエスに助けを求めるならば、悪魔から解放してくださる。

どうしても悪魔から逃れることができなかつたのに、イエスを信じるようになると、逃れることができ、自由になれる。

それまでは、「あの人を怒らせたなら食っていけなくなる」と人を恐れる人生だったが、イエスを信じると、次々と道が開けて、人を恐れず、悪人に悩まされない生活が始まる。

だから、良心を犠牲にしなくても生きていける。

「神の国とその義を第一に求め」るならば、「それに加えてすべては与えられ」る。

クリスチャンになっても、仲間が悪いならば、クリスチャンになった意味がない。

その悪いクリスチャンから離れるべきだ。

善良で、神に捧げきつた人と友達になり、群れを作りなさい。

クリスチャンになった後でも、ノンクリスチャンと同じような人間関係があるならば、救われた意味がない。

すぱっと切り捨てて新しい道をスタートさせる。

その集団を変えるなんてことは考えないほうがいい。

人間は、変わらない。

われわれが何をしたからといって、人の内面を変えることは絶対にできない。

もしかして主が変えてくださるかもしれない。

その場合は、感謝してとどまるべきだ。

しかし、頑固で、逆にこちらを攻めてきたら、もはやとどまる意味がない。

出るべきだ。

出ても心配はない。

また新しい道が開ける。

バビロンから出なさい。

アブラハムのように。

そして心から主に従うことができる道を歩もうではないか。

676 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月16日(木) 午前8時42分

タイトル: 中央銀行制度はひそかな奴隷制度である

中央銀行のシステムは、すごいもので、紙屑を実物に変える魔法である。

子供がままごとをしているとする。

A君は八百屋。Bさんは花屋。Cさんはラーメン屋。そして、D君は中央銀行。

D君は、葉っぱをかき集めてそれに自分のハンコを押して10000円札をつくり、それを持ってA君のところに行って野菜を買う。Bさんのところで花を買う。・・・

D君がやっている労働は、葉っぱを集めてハンコを押すだけ。

まさに、無から有を作る行為だ。

しかも、実際の中央銀行では、国債を引き受ける。つまり、国の借金証を紙幣と交換に手に入れる。

実物ならばそれまでだが、借金の証文は利息がつく。

中央銀行は実際のところ、国に金を貸している。

こんなうまい商売はない。

ただの紙切れで金を貸せるなんて！

葉っぱにハンコを押して実物を手に入れるだけならまだしも、利息付の金券を手に入れられるのだ。時間がたてばたつほど、何もせずにお金は増えていく。

これこそ、魔法のトリックでなくて何だろうか。

レーニン「中央銀行は、共産主義の十分の九だ」といった。

中央銀行制度は、ひそかな奴隷制度である。

677 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月16日(木) 午後0時22分

タイトル: コリアン推しは百害あって一利なし

今、たまたまつけていた放送大学で、「日本の輸出は90年代に海外に生産拠点が移動して、空洞化が起こったといわれているが、本当は、2000年代に入ってから輸出額は倍増している」と言っていた。

まったくわれわれの印象と実際の統計とは異なるものだ。

じゃあ、なぜ印象が違うのかというと、そういうふうにTVがわれわれを洗脳しているからだろう。

私は、電通がマスコミを支配している限り、日本人は、日本の実情を正しく認識できないだろうと思う。

フジテレビや花王に対する反対デモを行っても、まだコリアンがいろんなところに顔を出す。

本当に人気があればまだしも、われわれの周りでそれほどコリアンものが好まれていると聞いたことがない。

そもそも、海外のものがこれほど極端に好まれ出すはずがないのだ。

電通の背後にいるコリアンの底が知れるというものだ。

「民族の壁は絶対に超えることはできない」。

これが真実だ。

今、フランスでジャパン・エキスポなるものがやっていて、3日で十五万人が集まるそうだ。

なぜこれだけ集まるかということ、鍵っ子と関係があるという。

家庭の主婦がパートに出るようになって子供が夕方一人で家にいるようになった。その時間帯にちょうど日本のアニメがやっていたというのだ。

だから20歳以下の若者は、親日なのだという。

しかし、だからといって、日本とサッカーの試合をやってフランス人が日本を応援するかということ、絶対にフランスを応援する。

どんなに日本のことが好きでも、自分の国は捨てられない。

それくらい血というものは濃いのである。

今、世界中で進んでいる世界統一運動は挫折する。

民族を軽んじているから。

とくに、日本に反日民族コリアンのものを導入しようなどというばかげた戦略は早く捨てたほうがいい。

われわれは、もううんざりしている。

これ以上、テレビ離れを加速したいならどうぞ勝手に。

コリアン推しは百害あって一利なし。

678 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月16日(木) 午後0時52分

タイトル: 一番効果的な世界征服の方法とは

今の政治家に決定的に欠けているのは、ビジョンである。

国家をどうしたいのかがわかっていない。

いや、国家をどうしようとも、アメリカが邪魔してできないのかもしれない。

日本はイルミナティ米国の支配下に入っていることは事実だ。

われわれクリスチャンは、唯一、イルミナティ米国に勝つ力を持っている。

なぜならば、われわれの主は、サタンよりも強いからだ。

われわれが祈って行動すれば、サタンは退いて、自分の領土をこちらに明け渡すだろう。

それが、ヨシュアのカナン侵攻の記事に示されている。

モーセの弟子ヨシュアは、モーセ亡き後、カナンに侵攻して徐々にパレスチナの土地を征服していった。

この記事は、「契約の民に世界支配はゆだねられている」ということを示している。

神はアブラハムに対して「あなたの子孫にこの土地を与える」と約束された。

契約の民は、土地を相続する権利があるのだ。

かたや、偶像礼拝をしたカナン住民は追い出された。あまりにも墮落していたからだ。

墮落するまでは神はイスラエルを侵攻させられなかった。

なぜならば、追い出す理由にはならないから。

墮落していない民族を追い出すことはできない。

追い出すには、その土地を支配している民族が墮落しなければならない。

だから、神は、カナン人の罪が満ちるまでイスラエルを待機させられた。

われわれ契約の民は、この地上の人々がものすごく墮落するまで支配できない。

しかし、実際、この世はカナン人さながら墮落している。

今、アメリカの音楽業界を見ていただきたい。

レディー・ガガはイシュタルの卵の中から誕生するパフォーマンスをした。

イシュタルとは、カナン人が信じていた偶像である。

獣の上に乗り、フクロウを両脇に従えている。

<http://www.youtube.com/watch?v=jVIMB-8jOGw>

世界の指導者が集まって、ボヘミアン・グローブで、ホモのパーティを開いている。そして、フクロウの像にモロクの犠牲をささげて燃やしている。

<http://www.youtube.com/watch?v=yJ70YLJIJ8o&feature=related>

まさに、現代世界は、古代のカナンと同じ神を信じるようになったのだ。

さあ、われわれ契約の民が征服できる土壌はできあがった。

これらの邪悪な文明を滅ぼして、世界征服できる時代がやってきた。

さて、われわれの目指しているのは世界征服であるが、それは、国境を破壊するとか、民族を強制的に服従させるというようなものではない。

今の形状はそのままである。

軍隊も使わない。

陰謀も使わない。

どうやって世界征服するのか。

バプテスマを授け、イエスが命令されたことを守るように教えることによってである。

これ以外に世界を征服する手段はない。

軍事力を使えば、軍事力によって滅ぼされる。

一番賢い方法は、「人に好かれる」方法である。

ただし、今の教会成長学が言っているような「妥協」ではない。

われわれは、聖書を曲げずに伝える。聖書を認識論の土台とし、科学を聖書の下に服従させる。

それに基づいて教育を行う。

ノンクリスチャンの父兄はどんどんわれわれの学校に子供を送るようになる。

なぜならば、健全な教育が行われるから。

今の学校で、人形を用いて具体的にセックスの方法を教えるような教育を子供に授けてまともな大人に育ちますか？

桃太郎で、おじいさんが洗濯をし、おばあさんが柴刈に出かけ、鬼退治にいつでも鬼を懲らしめず、仲よくなるというような話をして教育ができますか？

道徳観も世界観もめちゃくちゃな人間に教育をゆだねることができますか？

聖書を通じて神の知恵を学ぶのが一番よい。

だからそのような学校に生徒は集まる。

こうやって影響力を拡大することによって、世界征服するのである。

これが一番効果的で、実際的である。

軍事力に頼ると、その帝国の寿命が近づいていることを示している。

アメリカはもう終わりだ。

われわれは、そんな馬鹿な方法を取らない。

勝負は知恵にある。

聖書から知恵を授けてもらおう。

そして、義と愛が調和するような世界を作ろう。

679 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月16日(木) 午後1時14分

タイトル: 紙幣発行とは金利のつかない証券を金利のつく証券に変えること

すでに掲示したように、中央銀行は、印刷した紙幣と交換に国債を引き受ける。

紙幣と国債を交換する。これによって市場に流れる貨幣の量を決定している。

中央銀行の手元を見ていると、紙幣が出て行って、その代わりに国債は入ってくる。

紙幣は、金利がつかない証券だが、国債は金利がつく証券である。

だから、中央銀行がやっていることは、金利がつかないただの紙を、金利がついた実質的な価値のある証券と交換することだ。

マジックだ。手品だ。

こんな権利を手に入れて金持ちにならない人はいない。

「これって詐欺じゃないの？」という人に対して政府は「いいえ、日銀は国の管理のもとで紙幣を発行しているのですから詐欺ではありません」という。

しかし、日銀が紙幣を発行してその代わりに得た国債などの証券とそれが生み出す金利というものは銀行の売り上げになって、それは、職員の給料とか株主への配当になっていくわけだから、国民の収入とは別なのではないか。

だからこそ、日銀など世界の中央銀行の株主といわれるロスチャイルドは巨万の富豪なのではないか。

ぜひこちらへのトリックを暴きたいところだ。

680 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月17日(金) 午前9時09分

タイトル: 世界征服こそわれわれの使命である

「…神の子が現われたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです」(1ヨハネ3・8)

イエスは、悪魔の業を破壊するために来られた。

だから、イエスにつくわれわれも悪魔の業を破壊するために存在する。

しかし、200年前からディスペンセーション主義という教えがキリスト教界にはびこり、「悪魔と戦っても無駄だ」とクリスチャンが信じるようになった。

そして「間もなく再臨があって、キリストご自身がやっけてくださるから、待とう！」と言い出した。

その結果、悪魔の進撃を止めるものが誰もいなくなって、イルミナティ・フリーメイソンの陰謀に世界が巻き込まれ、バベルの塔の建設が妨害なく進んできた。

イエスは、クリスチャンを「地の塩」と呼ばれた。

塩は腐敗を防止する。

塩が腐敗を防止できなければ、ただの粉である。

役に立たないので捨てられる。

それと同じように、ここ200年間のクリスチャンは、サタンの働きを妨害できなかったので、今捨てられつつある。

クリスチャンは、200年の間に自己のイメージが低くなり、社会の中でひっそりと生きるアウトサイダーのように自分のことを見なしてきた。

しかし、聖書のイメージは、支配者である。

「地を従えよ」との命令を与えられた者である。

支配者になって、政治も経済も全部動かすために選ばれた者、それが、聖書におけるクリスチャンの姿である。

単に天国に行ければいいや、レベルの教えはもういらぬ。

そういう逃げ腰のメッセージは百害あって一利なし。

「地を従えよ」

「神の子が現われたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです」

「平和の神は、すみやかに、あなたがたの足でサタンを踏み砕いてくださいます」

われわれが動けば、必ずサタンは滅びる。

次々この地上からサタンは追い出される。

それを信じて、行動しなければ、われわれの存在意義はまるでない。

世界征服こそわれわれの使命である。

軍事によるのではなく、伝道と教育による世界征服。

そのためにわれわれの力をすべて使い尽くそう。

681 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月17日(金) 午前10時04分

タイトル: 一度だけの人生を虚飾に満ちた家を建てるために使いたいのか？

会員の中に非常に熱心で忠実な若者がいるのだが、彼は最近、再建主義運動のためにビジネスを始めると決意した。

たくさん稼いで献金しますと。

動き始めると、本当に変なことが立て続けに起きた。

変な人々が家にやってきた。

あやうくホームレスになりかけた。

それで「先生、この世界は霊的な戦いなんですね。わかりました」と言った。

これは、実際にやってみるとわかることだが、再建主義のために働き始めると変なことが起きる。とくに献金を

するようになると起きる。

いろんな妨害が入る。

なぜならば、悪魔は、兵糧攻めにしようとしているからだ。

私が日常の仕事で忙しくなり、再建主義の仕事ができなくなるように働いている。

あわよくば、あらゆる資金源からのパイプを断ってしまおうと考えている。

こういう戦いを 20 年近くやってきたから、奴らが何をやるかわかるのだ。

だいたい牧師や伝道者は、資金的に苦しくなるのを避けるために教えをマイルドにするが、私は、絶対にしない。

聖書のおおりを伝える。

問題は生きていくことではなく、「真理を伝えること」であるから。

もし生きていくことを求めるならば、牧師とか伝道師などやめてビジネスを始めるべきだ。

教会成長学がはびこってから、牧師も一人のビジネスマンになってしまって「売り出し」を考えるようになった。

自分の「売り物（専門）」を作って、あの分野ならあの先生だといわれるようにしようとか。

そんなこと考えるくらいなら、牧師なんてやめてビジネスをしなさい。

牧師とか伝道師の使命とは、金を稼ぐとか人気を集めるとか、有名になることではなく、「真理をまっすぐに伝えて、神の御心のおおりを人々に伝えること」である。

それができないのであれば、存在意義がないので、職をやめたらいい。

聖書の教えをまっすぐに伝えることは非常にリスクである。

なぜならば、人を怒らせるから。こちらは怒らせるつもりはなくても、怒る場合がある。

誰が怒るかわからない。だからびっくりする。

しかし、私は進化論は間違いだというし、非六日創造説も間違いだという。

ディスペンセーションリズムもバルトもリベラルも教会成長学も新福音主義もオーバン・アヴェニュー神学もフルプレテリズムもワンネスも三浦綾子神学も全部間違いだと言う。

それで怒って離れるならば仕方がない。こちらが平和を望んでもそれを拒絶する人までつなぎとめておくことはできない。

教えに関しては一切妥協しない。なぜならば、教えで妥協をし、厳密さを失うならば、その上にいくら素晴らしい建物を建てても、簡単に崩れるから。

千年たっても立ち続けているようなものを作れないのであれば、無意味である。

教えは世界の文明の土台であり、土台については徹底して厳密であるべきだ。

教会成長学の影響で、牧師たちが、土台に無頓着になり、建物装飾だけに労力を使うようになった。

そのため、教会が傾いてどうしようもなくなっている。

いったんものすごい頑強な土台ができ、それを死守する体制がつけられるならば、それからその上にできる文明は盤石である。

普遍的価値を持つ仕事をしようではないか。

一度だけの人生を、虚飾に満ちた家を建てるために使いたいのか？

682 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月17日(金) 午後9時22分

タイトル: いよいよ、同士討ちが始まった

<http://www.youtube.com/watch?v=0M7nYOJ1MIQ>

プーチンがジョージ・ソロスに逮捕状を出したそうだ。

ロシアの株式市場を攻撃するために、スウェーデンとデンマークの特殊な外貨デリバティブを用いたためだという。

IMFと欧州インターポールは、ソロスだけではなく、ブッシュ・クリントン犯罪家族シンジケートの金融傀儡であるマーク・リッチとそのスイスに拠点を持つリッチフィールド・コモディティ・ブロッケージ社にも最終警告を与えた。

プーチンは、最近、FRBの議長バーナード・ナーナンキに対しても、ロシア連邦はもはやジョージ・ソロスやマーク・リッチのような個人を利用して、大量の外貨デリバティブによる詐欺を通じて、世界経済を不安定化することを許さないと警告した。

いよいよ、同士討ちが始まった。

われわれの祈りが聞かれた。

さあ、バベルの塔が同士討ちで滅んだように、NWO も同士討ちで滅ぼしていただきましょう。

われわれが手を出すまでもない。

自分で自分の首を絞めて滅んでほしい。

イルミナティ・フリーメイソンの壊滅まで、同士討ちが続きますように！主の御名によって！

683 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月17日(金) 午後10時03分

タイトル: シェークスピアの初版本に隠された真著者の名前

シェークスピアの初版本に隠された真著者の名前

<http://youtu.be/7nMLVlcVcaE>

684 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月18日(土) 午前8時23分

タイトル: 祈りによって世界を変えよう！

> 例えば、私も一緒に祈るとしたら

> 何を祈ればいいのでしょうか？

> 課題とか、あるのでしょうか？

>

> 祈りが聞かれてロシアで同士討ちとは

> どういうことですか？

ロシアのプーチンはもと KGB で、向こう側の人です。共産主義はロスチャイルドが作りましたから。

ロスチャイルド側の人、ジョージ・ソロスというロスチャイルド側の人を逮捕するということはこれまでなかったのです。

しかも、ジョージ・ソロスといえば、世界を動かす影の黒幕です。

一つの国や地域を破壊することすらできる力を持っています。

実際、東南アジアはジョージ・ソロスが仕掛けた通貨危機で破壊されました。

この男は、今穀物企業を独占し、世界の食料をコントロールしようとしています。
ユダヤ人による世界政府を目指す悪党です。

> 簡単でいいですので、教えてくださいませんか？

>

> もちろん、世界の陰謀のことなどは

> 知っていますが、私はそれについて

> 具体的に祈ったことはありません。

>

> 私にも何かできるのか、考えてみたいと思っています。

私たち一人が祈ることは、霊界においてもものすごい変化なのです。

イエスは「疑わずに信じて祈れば山を動かすことができる」と言われました。

その前にいちじくの木を枯らす奇跡を行っておられます。

いちじくの木はイスラエルを象徴し、夏になっても実がならない、つまり、役立たずになったので、枯らされた、つまり、滅亡させられた。

イエスは、役に立たないイスラエルを滅亡させられたということがこの記事で強調されています。

その文脈で見ると、山を動かすとは、政府のことを言っているとわかります。

これは、ローマ帝国です。当時、ローマは7つの山の町と言われていました。

山が動いて海に入るとは、海は、聖書において滅亡を象徴しますから、ローマが減びると。

つまり、クリスチャンが祈ることによって、ローマ帝国を滅亡させることすらできると言われています。

ですから、クリスチャンは、邪悪な政府や人々に裁きが下るように祈ることができますし、むしろ祈るべきです。

私的な恨みから呪うことは禁止されていますが、義憤による公的な呪いはイエスもパウロも行っています。

「神の秩序が地上に確立されますように！そのためには、今世界を支配している邪悪な人々が引きずり降ろされてしかるべき裁きを受けるように」と祈るならば、聞かれるのです。

私たちが祈ることによって、霊界が変わります。

そして、霊界の出来事は、現実の出来事に反映しますから、祈りによって世界は変わります。

悪魔の力を縛ることができれば、今彼らが推進しているニュー・ワールド・オーダーは頓挫します。

具体的には、たとえば、

「日本を中国との戦争に引きずり込み、アメリカのためにコントロールしているジャパンハンドラーズの連中（マイケル・グリーン、ジョセフ・ナイ、アーミテージ、キッシンジャー）の中にいる悪霊よ、おまえを縛る！」とか、

「世界を支配し、911を起こして無実の人々を殺し、さらに、世界の人口を減らすためにいろんなことを計画し、実行しているロスチャイルド、ロックフェラー、キッシンジャー、ジョージ・ソロス、大小ブッシュ、ネオコンの連中を権力の座から引きずり降ろしてください」とか。

これで世界の政治は大きく変わるでしょう。

まともな政治家が政権を取れるように祈りましょう。

685 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月18日(土) 午後6時00分

タイトル: 統計によると、米国の処方薬はテロリストよりも16,400%危険

Drs. Gary Null, Carolyn Dean, Martin Feldman, Debora Rasio and Dorothy Smith が2003年に書いた Death by Medicine という書物では、次のように記されている。

<http://www.naturalnews.com/009278.html#ixzz1mikDmNtW>

2001年以来、米国においてテロで死亡した人の数は、2,996人である。これは、9/11攻撃による。

同時期に、処方薬で死亡した人々の数は、490,000人。つまり、16,400%処方薬のほうが危険と。

<http://www.youtube.com/watch?v=DqeGDDAu3yw&feature=related>

ホイットニー・ヒューストンの死体の周りには、多くの合法の処方薬があった。彼女は違法な薬物で死んだのではない。

彼女は、すでにコカインなど違法薬物中毒を乗り越えている。

米国における製薬会社の売り込みはすごいという。これらの会社は、人間のことも全然心配していない。

エルビスも処方薬中毒だったという。

ここにも人口減少の魔の手が伸びているのかもしれない。

686 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月19日(日) 午前10時44分

タイトル: 「再臨」を促進するために第三次世界大戦を始めたい？

サタンは、本来ならば、イルミナティを瞬殺できるほどの力を持つはずのクリスチャンを、逆にシオニズムを支援させ、ニュー・ワールド・オーダーの建設のために利用してきた。

ディスペンセーションリストのクリスチャンがいかに米国政治を動かしているかについて、<http://www.informationclearinghouse.info> のレポート。

=====

数百万人の福音派クリスチャンが、「再臨」を促進するために第三次世界大戦を始めたいと思っている。

新保守主義者（ネオコン）は、イランに対する戦争を正当化するために宗教を使っている。

Washington's Blog

建国の父は特に反イスラムであったわけではなかった。

しかし、数百万人のアメリカ人が「イスラエルがそのライバルを一掃し、中東の広範囲に及ぶ戦争が始まるまで、キリストは再臨しない」と信じている。これらの中には、イエスの再臨が早まるように、大規模な戦争と死と破壊を起こしたいと思っている人もいる。

フランスのシラク大統領によると「ブッシュは私に、黙示録を実現するにはイラク戦争が必要であると言った」。

創世記とエゼキエル書において、ゴグとマゴグは、北から出てきて、制止がない限り、イスラエルを破壊する黙示録の軍隊である。黙示録は、旧約聖書の預言を引用している。

「そして、千年が終わると、サタンは獄屋から解き放され、地の四隅にいる国々をだますために出てきて、ゴグとマゴグを戦いのために集めることになっている。しかし、火が神と天から降って来て、彼らを焼きつくした」。

ブッシュは「その戦いの時が今ついにやってきた」とシラクに話した：

「この対決は、神の御心である。神は、新しい時代が始まる前に、この対決を用いてご自身の民の敵どもを消し去ろうとしておられる」…

ブッシュ大統領がイラク戦争を開始する理由は、基本において宗教的である。彼は「サダム・フセインのイラクへの攻撃は聖書預言の成就であり、自分は主の道具としてその成就を推進するために選ばれている」との確信に動かされていた。

イギリスの首相トニー・ブレアの長年の師であり助言者であり親友は次のように言った：

「トニーのキリスト教信仰は、綿の靴下にまで浸みこんでいる。コソボやシエラレオーネ、イラクへの介入も、すべてキリスト教の戦いの一部であると強く信じていた。善は悪に勝ち、それによって人生をよりよいものにするべきであると考えていた」。

...

ビル・モイヤーによれば、ジョン・C・ハギー牧師によって率いられている「イスラエルのためのクリスチャン同盟」は、すべてのクリスチャンに、イスラエルの諸派閥を支援し、ユダヤ人の入植者を金銭的に支援し、すべてのパレスチナ人を排除し、イランへの先制攻撃のためにロビー活動をしようと呼びかけている。ロシアを米国との戦争に導き入れ、第三次世界大戦を起こし、その後ハルマゲドンをもたらし、再臨があり、携挙がある。・・・

これはすべてディスペンセーションナリズムというものを巡って起こっていることである。ディスペンセーションナリズムはとても人気があり、ティム・ラheyの『レフト・ビハインド』は6500万部売り上げた。

ディスペンセーションナリストには、次のメガチャーチの牧師とその教会が含まれている：

ジェリー・フォーウェル

パット・ロバートソン

ビリー・グラハム

彼らは以下の政治家から支援されている。

ニュート・ギングリッチ

ジョセフ・リーバーマン

ジョン・マケイン

テキサス州上院議員ジョン・クロニン

前下院少数党院内幹事ロイ・ブランツ

前下院多数党指導者トム・ディレイ

ほか

...

最近のタイム/CNN の世論調査によると、アメリカ人の 3 分の 1 以上が、9/11 のテロ攻撃以来ずっと、最新の出来事がどのように世界の終わりに導いているかさらに考えるようになった。

聖書が神の言葉であり、文字どおりに受け取るべきと信じている人はアメリカ人の 36 パーセントしかいないが、黙示録で預言された出来事が実現すると信じている人は、59 パーセントにのぼる。アメリカ人の 4 人のうち 1 人は、9/11 が聖書において預言されていたと信じ、5 人に 1 人は、世界の終わりをみるまで生きるだろうと信じている。この調査においてさらに重要なことに、イスラエルを支援するアメリカ人の 3 分の 1 以上が、なぜそうするかと聞かれて、聖書が「イエスが再臨される前に、ユダヤ人が聖地において自分の国を作る必要がある」と教えているからだと答えた。

数百万人のアメリカ人が、「聖書は未来を予言しており、われわれが終末の時代に生きていると教えている」と信じている。彼らの信仰は、聖書の預言—とくに旧約聖書のダニエル書とエゼキエル書、及び、新約聖書の黙示録の預言—の特定の解釈法であるディスペンセーションナリズムに根差している。彼らはアメリカの 4000 万人または 5000 万人いる福音派クリスチャンの約 3 分の 1 を占め、イスラエル民族が、終末の出来事の展開の中で中心的な役割を演じるだろうと信じている。20 世紀末、ディスペンセーションナリスト福音主義者は、イスラエルの最大の友であり、地政学上重大な影響を及ぼしてきた。

...

<http://www.informationclearinghouse.info/article30574.htm>

=====

Date: 2012年2月19日(日) 午後5時10分

タイトル: クリスマスは同胞を特別に扱うべきだ

「あなたの神、主は、あなたに約束されたようにあなたを祝福されるから、あなたは多くの国々に貸すが、あなたが借りることはない。またあなたは多くの国々を支配するが、彼らがあなたを支配することはない」(申命記 15・6)

「主は、その恵みの倉、天を開き、時にかなって雨をあなたの地に与え、あなたのすべての手のわざを祝福される。それであなたは多くの国々に貸すであろうが、借りることはない」(申命記 28・12)

クリスマスは、クリスマスに対して利息を付けて貸してはならない。

「わたしの民のひとりで、あなたのところにいる貧しい者に金を貸すのなら、彼に対して金貸しのようにあつてはならない。彼から利息を取ってはならない」(出エジプト記 22・25)

利息を付けて貸すことは、借りる人を支配することを意味するから。

クリスマス同士は互いに「王」であつて、同等である。互いに互いの力と影響力を増大させるように助け合うべきだ。

社会において聖書的クリスマスが支配力を持つことが何よりも重要なことから、金利を取つて貸して足をひっぱってはならない。

しかし、ノンクリスマスには金利をつけて貸すことができる。

金利禁止命令は、「わたしの民のひとり」に対してのみ適用される。

「ノンクリスマスを不幸にせよ」とは教えられていない。むしろ、ノンクリスマスも祝福されるべきだ。

しかし、神の法を破る人々の繁栄を願うべきではない。

なぜならば、それによって世界に悪が広がり、神の国が破壊されるから。

だから、クリスマスはノンクリスマスにお金を貸す場合に金利を取ることができる。

クリスマスがクリスマスに対する好意と、ノンクリスマスに対する好意は質が違う。

前者は、世界支配のためである。神の国の拡大のため。

後者は、神の一般恩恵の模倣である。神がどの人にも雨を降らせ恵みを与えられるのと同じように、クリスマスもノンクリスマスに対して利益を提供すべきである。

「地を従えよ」とのビジョンを失った今日のクリスチャンは、この区別をしない。

イエスは、クリスチャンはクリスチャンを特別に扱えと命令された。

「そうして、王は、その右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。あなたがたは、わたしが空腹であったとき、わたしに食べる物を与え、わたしが渴いていたとき、わたしに飲ませ、わたしが旅人であったとき、わたしに宿を貸し、わたしが裸のとき、わたしに着る物を与え、わたしが病気をしたとき、わたしを見舞い、わたしが牢にいたとき、わたしをたずねてくれたからです。』
すると、その正しい人たちは、答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹なのを見て、食べる物を差し上げ、渴いておられるのを見て、飲ませてあげましたか。
いつ、あなたが旅をしておられるときに、泊まらせてあげ、裸なのを見て、着る物を差し上げましたか。
また、いつ、私たちは、あなたのご病気やあなたが牢におられるのを見て、おたずねしましたか。』
すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』」（マタイ 25・34-40）

クリスチャン同士が互いに格別に利益を与えあうことによって、神の国の拡大のスピードは加速する。

逆にクリスチャンに利益を与えず、かえって足を引っ張るならば、それは、神の国を妨害していることであるから、厳しい刑罰が下る。

投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月20日(月) 午前11時28分

タイトル: クリストクラシーを目指せ

神の国の選挙制度は、普通選挙制度ではない。

なぜならば、統治者はクリスチャンだから。

神の国とは、キリストを王とし、クリスチャンをその副官とする「クリストクラシー（クリスチャン政治）」である。

選挙権はクリスチャンにしかない。

じゃあ、今、クリスチャンに突然実権がわたり、それで選挙制度を制限するかということそうではない。

われわれは、現体制を尊重する。だから、このクリストクラシーに移行することを、今の選挙民が認めた場合に限る。

クリストクラシーに移行することを今の人々が喜んで認めた場合に限り、その体制に移行する。

ある人は、「え〜、そんなこと誰も望まないでしょう。だから、神の国は永遠に実現しないでしょう」というかもしれない。

今のようにクリスチャンが1%にも満たない状況であればそうだろう。

しかし、福音の力は強いので、クリスチャンの数が非常に増えて30%を超えるあたりになると、社会全体に大きな変革への雰囲気ができる。

もちろん、この30%は、今のアメリカのようにディスペンセーションナリストのクリスチャン（つまり、地上統治を放棄した似非クリスチャン）ではない。

地上に神の国を打ち立てることを真剣に求めるクリスチャンである。

そういうクリスチャンが30%になったら、国全体を神と契約させようという機運になるだろう。

それでも、70%がまだまだ聖書的体制がいいと思えないかもしれない。その場合には、われわれはそれを強制してはならない。

あくまでも「現体制の権威を認めながら」ことを進めなければならない。

しかし、この体制確立に向けた熱意は人間のものではなく、神からのものであるから、いずれ国全体が神と契約を結ぶようになるだろう。それは運命であり、避けることができない。

神はそのように世界歴史をあらかじめ予定されたのだ。

だから、必ず人々は聖書的体制を認めるようになる。

その体制変革を望んで憲法が改正されれば、聖書的クリスチャンだけに統治権が与えられる体制になる。

「御心が天で行われているように、地上でも行われるように」とは、天の世界という理想社会において実践されていることが、地上でも実践されるように、との願いだ。

その祈りは、必ず成就する。

天ではキリストとクリスチャンが王権についている。

だから、地上でもキリストとクリスチャンが王権につくべきである。

今は、キリストとクリスチャンの王権は「法的」なものであって「实际的」ではない。

しかし、時間が経過すればするほど、この「法的現実」は「实际的現実」に変化する。

クリスチャンが「聖書にしたがって」地上を統治し、神の御心が全地において実現するようになることが、われわれの目標である。

「地上は関係ない。クリスチャンは天国に行くことだけ考えればいい」という教えは、この体制変革を妨害したがつているサタンが教会に吹き込んだ偽りである。

689 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月20日(月) 午後1時06分

タイトル: クリスチャンは同胞を特別に扱うべきだ 2

クリスチャンは、クリスチャンに対して利息を付けて貸してはならないという、クリスチャンが圧倒的多数になった国において、利息を付けて貸すことができなくなり、銀行業は成立しないのか、という問題がある。

「わたしの民のひとりで、あなたのところにいる貧しい者に金を貸すのなら、彼に対して金貸しのものであってはならない。彼から利息を取ってはならない」(出エジプト記 22・25)

この規定は、「貧しいクリスチャン」に対するものである。

貧しい人を苦しめるようなことをしてはいけない、ということである。

だから、貧しくなくて、金利を払うことができるクリスチャンに関する規定ではない。

ただし、借り手が貸し手の奴隷になるような高利で貸すことは禁止される。

元本がそのまま利息だけを払うような高利で貸すならば、同胞を奴隷にすることであるからもはやそのような人はクリスチャンではない。

あくまでも社会の目的は、キリストと聖書的クリスチャンによる統治、それによる、世界のエデンの園化である。

クリスチャンがエデンの園化ではなく、奴隷化、地獄化に貢献するならば、存在意味がないので教会は除名処分にすべきだ。

690 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月20日(月) 午後2時39分

タイトル: 政治家はビジョンを示せ！

政治家は次のようなビジョンを示せ！

http://www.amazon.co.jp/dp/4062175029/ref=pe_2102_29121482_snp_dt1

救国のレジリエンス 「列島強靱化」でGDP900兆円の日本が生まれる [単行本]

藤井 聡 (著)

内容説明

震災に備えて列島を強靱なものに作り替え、東海道ベルト地帯を強化し、分散型の国土構造のもと地方都市を活性化する——こうしてGDP900兆円のユートピアが生まれる！

日本は、石油ショックのあと世界一の省エネ大国になり、阪神淡路大震災のあとは耐震設計が驚くほど進み、耐震技術についてもまた世界一の国になった。バブル崩壊後は、多くの企業が莫大な借金を背負うことになったが、もの凄い勢いで借金を返し、逆に預貯金が有り余るような状況になった。東日本大震災後の電力不足の問題にしても、個人も法人も凄まじい勢いで節電に協力し、当初のほんの短い期間をのぞき計画停電は実施されなかった——これらの歴史的な事実はみな、さまざまな外的なショックに対する日本の驚くべき対応力を意味するもの。この対応力こそが、「レジリエンス」(resilience)。

日本を救い続けてきた、この「レジリエンス」——柳の枝のような「しなやかな強靱さ」をさらに磨いたとき、GDPは2倍になる。

著者について

藤井 聡

(ふじい・さとし)

1968年、大阪府に生まれる。京都大学大学院工学研究科教授。専門は、国土計画、土木計画、都市計画、ならびに公共政策のための心理学。1991年、京都大学工学部土木工学科卒業。1993年、京都大学大学院工学研究科修士課程土木工学専攻修了後、京都大学工学部助手。1998年、京都大学博士(工学)取得。スウェーデン・イエテボリ大学客員研究員、京都大学大学院助教授、東京工業大学大学院教授などを歴任。

著書には、『なぜ正直者は得をするのか 「損」と「得」のジレンマ』(幻冬舎新書)、『公共事業が日本を救う』『列島強靱化論 日本復活5カ年計画』(以上、文春新書)などがある。

691 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月20日(月) 午後10時14分

タイトル: クリストクラシーはクリスチャンによる一党独裁なのか？

クリストクラシーは、クリスチャンによる一党独裁なのかという疑問が起きるかもしれません。

聖書の原則は、「聖書は無謬だが、人間は無謬ではない」というものです。

ですから、クリスチャンのある制度に恒久的・独裁的な権力を持たせることは危険です。

クリスチャンの間で権力を分散させるのです。

選挙権は、教会に属し、キリスト契約のメンバーであることが証明できる人でなければ与えられません。

しかし、そうなると、教会が生殺与奪の権利を持つようになるおそれがあります。

教会は、単一の組織、たとえば、ローマ・カトリックのような組織になってはならない。

プロテスタントの教会のように、統治形態としては、「聖書信仰」という一点において一致していますが、他の側面、たとえば、民族、地理、その他の様々な要素において多様な教会が独立して並列的に存在するべきです。

そういった多様な教会が存在し、そこにおいてバプテスマを受け、聖餐に参加している忠実なクリスチャンだけが統治者になれる。

だから、一つの教会において追い出されても、他の教会において受け入れられることによって、クリスチャンの統治者としての権利は保証されるようなシステムがいい。

ローマ・カトリックのように、そこからの破門がそのクリスチャンの永遠の命までも決定されるようだとおかしなことになる。

つまり、教会至上主義のようなものになる。

聖書が提示しているのは、あくまでも、国家、教会、家庭、個人は、それぞれ独立しており、互いに上下支配関係はないということです。

99%の教会が墮落するという可能性はあります。

しかし、100%の教会が墮落して、すべて間違ふということはない。

イスラエルの王国の時代、神は「ともしび」を消されなかったとあります。

神は、必ず真理を伝える群れを残される。

ですから、クリストクラシーにおいて、「クリスチャン以外の人々に統治権を与えるべきだ」ということにはならない。

それをすると、またぞろ悪魔に隙を与えて、暗黒時代に逆戻りします。

あくまでも、クリストクラシーに移行した段階で、ノンクリスチャンへの選挙権を停止する必要があります。

ただし、そのような政治体制も暴力によって成立するのではなく、あくまでも、現体制の人々の同意に基づいて成立する。

つまり、「こういう体制に移行すると、ノンクリスチャンには選挙権がなくなりますが、それでもいいですか？」と尋ねるべきです。

われわれは革命をしてはならない。

モーセのもとで、イスラエルが神と国民契約を結んだ際に、神はイスラエルの民に契約を結びたいかと尋ねて、民はそれに対してイエスと答えています。

聖書契約はあくまでも「自主的」です。

神が無理やり民に律法を押し付けたのではない。

この点は非常に重要なのでおさえておく必要があります。

692 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月21日(火) 午前9時51分

タイトル: このような金融制度のもとでは改革など意味がない

226 事件で、政府は謀反者たちを処刑したが、その後、軍部の声が強くなる。

政府がシブリアンコントロールを徹底できたのでは？と思うのだが、実際は違う。

その後、政治家は軍人にビビるようになった。

詳しいことはまだ調査中だが、私の直感では、これは「軍部による政治の主導により、日本を軍国主義ブロックに入れるため」であったと思う。

ロスチャイルドは、世界を2分して戦わせる必要があった。

それは、民主主義国側と軍国主義側。

前者はイギリス・フランス・米国・ソ連と、後者は日本・ドイツ・イタリア。

そして、世界大戦を起こして、前者に勝たせる。

後者は徹底的に悪役を演じさせる。

この図式がわれわれの頭の中にこびりついており、ほぼ洗脳状態にある。

だから、日本人ですら、日本原罪論に陥っている。

しかし、史実を調べてほしい。

日本人は侵略を望んだのか？

違う！軍部が暴走したためだ。関東軍が勝手にどんどん大陸のいろんな土地を侵略していった。

そして、背後では、侵略を容認した近衛内閣。共産主義シンパ近衛には、尾崎秀実という共産主義者のアドバイザーがいた。

尾崎の計画は、日本を中国戦争に巻き込んで疲弊させること。

ソ連は、さかんに日本を侵略者として非難する。各国に働きかけて制裁を訴える。しかし、実際に侵略させたのは、ソ連のスパイであった尾崎であるし、口火を切ったのは KGB の工作だった。（自分で誘惑して、罪を犯したら責め立てるとは、悪魔の所業。）

こういうストーリーだと思う。

1. 226 事件において、政治家暗殺により、政治家に軍部に対する恐怖心を植え付ける。
2. 軍部の独断により大陸侵略。背後では、共産主義者の誘導。日本を軍国主義ファシストの悪者として振る舞わせる。
3. その間、米国は、軍需品の供給によってぼろもうけ。
4. ノモンハンで失敗した後、南方へ向かい、英仏の権益に触れる。
5. 英米仏による反撃開始。正義の味方として登場、悪の日本を退治。

ロスチャイルドはこのストーリーを実現するため、ドイツにはヒトラー、イタリアにはムッソリーニ、日本には石原莞爾や山本五十六といった売国奴を置いたのだと思う。

国民は知らぬ間に戦争に巻き込まれ、大量虐殺の憂き目にあった。

そもそも、ロスチャイルドが日本銀行を作ったところで、日本は乗っ取られたのである。

明治維新において、日本は日本ではなくなった。

中央銀行を設立されたということは、自分の村の上流に巨大なダムを建設されたということ。

放水量をコントロールする人によって生殺与奪の権利を握られた。

やりたくもない戦争をやらされ、バブルに踊らされ、デフレに苦しむ。

このような金融制度のもとで政治刷新とか、教育改革とか大学改革とかまったく意味がない。

まず奴隷から解放されないと。

693 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月22日(水) 午後0時18分

タイトル: NKJV と NIV はイルミナティ・ルパート・マードックの手に落ちた

本日のゲイル・リプリンガーのニュースレターによると、
ニュー・キング・ジェームズ聖書 (NKJV) が、『サタンの聖書 (Satanic Bible)』を出版している会社に売却された。

NKJV のもとの所有者であった Thomas Nelson Publishers は、ルパート・マードック・ニューズコープ社とその子会社 HarperCollins に買収された。HarperCollins 社は、Anton LaVey が書いた Satanic Bible の出版社でもある。

ルパート・マードックは、1988年に Zondervan を買収し、NIV の著作権も持っているから、米国人に使用されている主要な聖書の2つが彼の掌中にあるということだ。

マードックは、ご存じのとおり、メディア・コングロマリットのニューズ・コーポレーションを所有することから世界的なメディア王と呼ばれる。

彼自身ユダヤ人かどうか論議があるが、FOX など傘下のメディア企業を見ると、親米・親イスラエルなどの姿勢を取り、明らかにシオニスト・ネオコン、つまりイルミナティと考えられている。

<http://www.youtube.com/watch?v=o4iaGR0G24M>

これからも、ファンダメンタリズムの書籍がイルミナティに次々と買収されていくのか。

「現在、米国で出版されているほとんどすべての聖書は、エロスとサタン聖書の販売者マードックの管理下にある。」

694 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月22日(水) 午後5時07分

タイトル: 環境決定論を排除せよ

光の親子殺害事件で最高裁で死刑確定。

立派な判断だ。

被害者からすれば、成人に殺されようが、未成年に殺されようが関係ない。

法律は、被害者の利益を中心とすべきであって、国家や加害者を中心とすべきではない。

死刑廃止論は、間違った心理学の影響を受けている。

「刑罰には、受けた教育や育った環境を考慮すべきだ」と。

環境決定論なのだ。

「人間の問題は環境にある！」とは、アダムとエバの逃げ口上。

「わたしではなく、この女が私にくれたので食べたのです！」

「わたしではなく、この蛇が・・・」

「自分は悪くない！環境のせいだ！」

という言い訳は、人類と同じ長さの歴史がある。

心理学のカウンセリングがこの環境決定論に基づいて行われるときに、解決はまったくない。

「生き立ちを調べて、何が問題だったかを…」

罪を負わせる環境を探す旅を導くのがカウンセラー。

こんなカウンセリングを100年受けても絶対に治らない。

問題は、「的外れ」にある。

自分が狙っている的がそもそも間違っている。

環境に狙いを定めるのではなく、罪に定めなさいと聖書は語る。

「女が…」「蛇が…」ではなく、食べたのは自分なのだから「自分が悪かったです」と素直に謝るべき。

そういう素直さがないと、問題は永遠に拡大する。

そんな自己を中心に回す人間は、周囲を振り回すから、誰も周りに集まらない。

勉強が重要なのは、わがままを抑制する訓練をしてくれるからだ。

いくら自分に確信があっても、題意を読み取ることができなければ点を取ることはできない。

数学の問題は、必ずポイントがある。出題者はそのポイントを見抜くことができるかどうかを試す。

複雑な問題でも、いくつかのポイントを見抜けばとけるようになっている。

このポイント探しをせずに、自分の欲望のままに解答をしても、点は取れない。

だから、「読み解く」という作業が大切なのだ。

そのためには、自分の妄想を捨てて、客観的に相手と向き合う必要がある。

こういった「わがままを抑制する」訓練を積むかどうか。

翻訳の仕事で一番まずいのは、文脈から外れて自分の解釈を入れて読むこと。

助動詞の **may** がある場合とない場合の使い分けは、「かもしれない」という可能性を示す言葉を入れるかどうか。

それを勝手に **may** を訳さずに、断定で訳すと誤訳になる。

こういうミスを無数にする翻訳のチェックは無限の時間を要する。

優秀な翻訳者は、ほぼ直す手間がかからないので、非常に楽であるが、「読み込み」を行う翻訳者のチェックは大変だ。

いったん「相手の立場に立つ」こと。

これができなければ仕事というものはできない。

共産主義に近ければ近いほどわがままが通り、市場経済に近づけば近づくほどわがままは通用しない。

競争があるから。

環境決定論は「わがまま」を許容する心理学の手法であり、聖書の手法ではない。

「育った環境がこうだったから殺人を犯しました」は通用しない。

聖書の刑罰とは、あくまでも「罪に応じて」である。

695 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月22日(水) 午後5時43分

タイトル: 今の教会を支配している悪魔の教え

(1)

ハリウッドの映画には、「遵法者への敵意」がある。

人気を集める主人公は「破天荒」である。

「異性にだらしがないが、友情に熱い、正義のために敵と戦う」というのが人気がある。

『カッコーの巣の上で』の主人公ジャック・ニコルソンが演じた精神病院の患者はそういった人物だった。

それに対して規則に厳しい院長は悪役として描かれた。

『エルサルバドル』の主人公も異性にだらしなく、交通法規を破りまくる破天荒だが、腕のいいジャーナリスト。

われわれは、小さいころからこういう映画の影響を強く受けている。

「法を守る」ことよりも破るほうをカッコいいと考えるように誘導されている。

悪魔崇拝者アリスター・クロウリーの教え：

1. 汝の欲するところをなせ。
2. 愛は最高の法である。
3. すべての人はスターである。

映画を通して、音楽を通して、このアリスター・クロウリーの教えによってわれわれは洗脳されてきた。

だから、同じことを教えるディスペンセーションナリズムにすんなり同化したのである。

今教会において法について語ると、ものすごい攻撃を受けるだろう。

法とか契約というと「神様はそんな冷たいお方ではありません！」とヒステリックな反応が返ってくる。

教会は、アリスター・クロウリー化した。

(2)

メディアの影響で注意しなければならないのは、「デウス・エクス・マキーナ」である。

これは、機械仕掛けで登場する神という古代ギリシアの演劇の手法である。

=====

由来はギリシア語の *apo mekhanes theos* からのラテン語訳で、古代ギリシアの演劇において、劇の内容が錯綜してもつれた糸のように解決困難な局面に陥った時、絶対的な力を持つ神が現れ、混乱した状況に解決を下して物語を収束させるという手法を指した。悲劇にしばしば登場し、特に盛期以降の悲劇で多く用いられる。アテナイでは紀元前5世紀半ばから用いられた。特にエウリピデスが好んだ手法としても知られる。

エクス・マキナー（機械によって）とは、この場面において神を演じる役者がクレーンのような仕掛けで舞台（オルケストラ）上に登場し、このからくりが「機械仕掛け」と呼ばれたことによる。由来は、「機械仕掛けで登場する神」ないし、舞台装置としての解決に導く神そのものが機械仕掛けであることとも解される。日本語で思いがけない展開を指す「どんでん返し」（歌舞伎において、大道具の背景を倒し、瞬時に場面転換する「強盗返」から来た）あるいは「超展開」とも発想は類似している。井上勇は創元推理文庫のヴァン・ダイン『ベンスン殺人事件』で、「時の氏神」と意識している。

(Wikipedia)

=====

われわれは、子供のころからウルトラマンなどヒーローものに慣れている。ドラえもんなどは、その典型だろう。

「困ったらあの人に登場してもらおう」「こうなったらいいなあ。あ、あれを出そう！」

こういうヒーローものやドラえもんなどで思考の訓練をされると、努力をせずに神的力に頼る間違っただけの発想が身に付く。

今のディスパenseーションナリズムの「キリストの再臨」などは「デウス・エクス・マキーナ」の典型である。

「やっても無駄だ。この世界はサタンのものだから。キリストの再臨によってすべてを解決してもらおう」

こういう他人任せは、ドラえもんですら否定されている。

最後は、そういう解決法が失敗するというオチで終わる。

聖書は、他人任せの解決法は間違いだという。

聖書の戒めは、「六日働いてすべての仕事をしなさい」である。

「黙って待っていればいいのだ」ではない。

人間の側で最善を尽くせと。

イエスは「塔を築こうとするとき、まずすわって、完成に十分な金があるかどうか、その費用を計算しない者が、あなたがたのうちにひとりでもあるでしょうか」（ルカ 14・28）と言われた。

人間の側で合理的な計画を立てると。

信仰とは、われわれの側の努力をやめることではない。

われわれの側で最善を尽くすことが信仰だ。

できるだけ知恵を絞り、合理性を追求するべきだ。

そういう努力を積み上げて最後に「神に信頼する」。

「6日働いて1日休め」との戒めは、

「人間の側で最善を尽くし、最後は神の決定を待て」と同義である。

(3)

今の教会はディスペンセーションナリズムの影響を受けているため、次の2つの点でサタンの思想に汚染されている。

1. 法への敵意

2. 労働への敵意

この2つのゆえに、今のクリスチャン文化とは、文化ではなく、反文化である。自殺の文化だ。何も有意義なものを生産できない。

こういった間違っただけの教えを捨てて、正しい聖書的な教えを採用すべきだ。

696 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月22日(水) 午後10時55分

タイトル: きゃりーぱみゅぱみゅの曲を逆回転すると

きゃりーぱみゅぱみゅの曲に、逆回転でいろんな悪魔的なメッセージが入っていました。

<http://www.youtube.com/watch?v=GyT4iHlJrHU&feature=related>

「死のうよ」

「死ね」

「まじないをするわ」

・・・

このビデオによると、アリスター・クロウリーは、著書の中でこういったそうです。

- ・もし悪魔の力がほしければバックワードで聞け！
- ・その者にバックワードの書き方を学ばせよ！
- ・フォノグラフ、レコードを逆回転で聞かせよ！
- ・その者に逆さまに話すことを実践させよ！
- ・その者に逆さまに読むことを実践させよ！

だからロック音楽を通じて、われわれの深層心理の中にこういった悪魔のメッセージが入っているのでしょう。

きゃりーは、仕掛けです。

聞けばはっきりと意図的に言葉を入れているのが分ります。

音楽業界に悪魔崇拝者が紛れ込んでいて、世界統一政府の実現のために洗脳を行っている。

697 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月22日(水) 午後11時47分

タイトル: 橋下さん、人口6000万人くらいがいい

<http://www.youtube.com/watch?v=INFhvMVbSC0&feature=related>

橋下さん、人口6000万人くらいがいいと。

イルミナティが日本に割り当てた人口は7000万人だから、ほぼ一致。

向こう側の人でしょうね。

698 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月23日(木) 午後3時32分

タイトル: 「礼拝の自由」と「信教の自由」

オバマ大統領が、「礼拝の自由」を唱導。しかし、「信教の自由」を破壊。

オバマ大統領は、教会の中で信仰し、賛美歌を歌うのはいいが、外にそれを持ち出すことを制限しようとしている。

2010年、オバマ大統領とヒラリー・クリントン国務長官は、宗教の自由に関する問題を議論する中で、「礼拝の自由」について語り始めた。

「礼拝の自由」とは、キリスト教を信じる人々を教会の中に閉じ込めることを意味し、キリスト教が教会の外の世界に影響を与えることを禁止する。

しかし、米国の基礎をなす「信教の自由」は、キリスト教の外の世界への影響を保証するものである。

建国の父たちは、信仰とは、政治を含む生活のあらゆる側面において実践されるものであると考えた。

...

<http://www.christianresponsealerts.com/2012/02/obama-pushes-%E2%80%98freedom-of-worship%E2%80%99-theme-in-attacking-religious-liberty/>

699 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月25日(土) 午前8時09分

タイトル: 自然を絶対化してはならない

嘘をつくことは常に罪か？

聖書はそう言っていない。

ヘブル書 11章では、嘘をついてイスラエルの斥候を逃がした遊女ラハブが信仰の人として称賛されている。

呪うことは常に罪か？

聖書では、イエスもパウロも呪っている。

夏になっても実がならないイチジクの木に向かって「もう二度と実がならないように」とイエスは言われた。

パウロは、「主を愛さない人は呪われよ」と呪った。

殺すことは常に罪か？

神はイスラエルに対して「故意に人を殺した者を祭壇のところからでも連れ出して処刑せよ」と言われた。

この世界に「絶対悪」とか「絶対善」というものはない。

「どんな場合でも、〇〇は悪である」というのは、自然法の考え方だ。

この世界の権威として最高なのは自然であるとする。

自然の法則が究極であると。

だから、掟そのものが絶対化される。

しかし、聖書では、自然は被造物であり、神が創造されたので、神を超えることはない。

聖書では、自然の上に神がいて、無から世界を創造された。

だから、あらゆる法則や法は、相対的である。

「え～、万有引力の法則は絶対ではないですか？」というだろうか。

手に持ったコップが「絶対確実に」下に落ちることを誰か証明できるだろうか。

できない。1億回繰り返しても1億1回目に結果がどう出るかわからない。

むしろ、神は聖書において、重力に反してエノクやエリヤ、エゼキエル、イエスらが空中移動したといわれた。

神は重力を超越しておられる。

この世のあらゆる法則は、神のしもべであり、この世界の秩序を維持するために「一時的に」任務を果たしているに過ぎない。

法や法則を絶対化することは、「被造物礼拝」であり、偶像礼拝である。

今の教会は、自然法思想に影響されており、法則を絶対視する傾向がある。

だから、「神癒」とか「予言」、「預言」、「異言」、「奇跡」その他超常現象を否定する。

キリスト教を「道徳訓」のレベルに落としている。

クリスチャンを自然の中に閉じ込めてしまった。

クリスチャンが、キリストとともに、自然を超越していることを説かなくなった。

そのため、「やっても無駄だ」「世界は変わらない」「悪魔は強い」と考えるようになった。

プレ・ミレもア・ミレも同じである。

どちらも「地上のクリスチャンには力はないが、再臨のキリストにはある」と考える。

地上のクリスチャンの群れは、キリストの体であり、それゆえ、地球の支配者である。

だから、われわれが祈って行動すれば、必ず最終的に勝利する。

自然を絶対化することの恐ろしさに気付いて、正しい信仰に戻るべきだ。

700 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月25日(土) 午前11時00分

タイトル: 聖書的キリスト教以外に神と科学を調和させることは不可能である

自然が究極であると考えたと、もっとも恐ろしいのは、夢も希望もなくなることである。

今の学校教育で教えられているのは、「自然は究極である」という暗黙の前提である。

なぜならばすべての学問が神の存在を前提としていないからだ。

だから、「すべては自然の中で起きている」とし、何か超常的なことが起こると、「それはありえない」と切り捨てる。

「イエスは処女マリアより生まれた」というのは、「それは、ありえない」と切り捨てる。

「イエスは復活された」というと、「それは何かの見間違いか、作り話でしょう」と一蹴する。

「自然を超えたことは起きない」という前提だから。

じゃあ、そういう切り捨てをする人々が、人生を徹底してその前提で生きるかということ生きられない。

TVに出てくる唯物論者らしき人間たちは、宗教の話が出てくると、「それは迷信ですよ」と切り捨てるが、裏ではちゃっかり結婚式をキリスト教式で行ったり、葬式を仏教式で行う。

あの自然主義者ホーキンスは、結婚式を教会で行った。

立派に「自然を超えたことをやっている」。

どういうことかお分かりだろうか。

人間は、誰一人「自然がすべてだ」という教えではやっていけないのだ。

すべての人は、超自然を求める。

自分の子供が病気で死にそうになれば、神仏に祈るだろう。

こと自分の利益になると、前提を捨ててしまうのである。

だから、自然主義者は、生活を徹底できない。

この世を徹底して今の科学の前提で生活しようとしたら、その前提を裏切るしかないのだ。

だから、今の科学をそのまま受け入れてはならない。

今の科学の「自然は究極である」という前提で生きることができないのであれば、さらに高い科学観を持たねばならない。

生活と調和できるような科学観を。

神信仰と科学を調和できない限り、われわれは自分の前提と矛盾したことを続けるしかない。

「それでもいい。場合によって使いわければ」というのは、カルト信者の考えることだ。思考停止しているから。

まともな文明人は、首尾一貫した思想を求める。

正しい科学観はこれだ。

すなわち、「神は世界を無から創造され、この世界を法則に管理させた。だから、神にまで法則は適用できない。われわれは、法則を超えた神の力に頼ることが可能だ」である。

これで次の2つが調和できる。

1. 世界を科学的に探究できる。
2. 神に救いを求めることができる。

聖書的キリスト教以外に、神と科学を調和させることは不可能である。

701 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月25日(土) 午前11時38分

タイトル: 聖書的キリスト教だけが首尾一貫した救いを提供する

正義の神、法制定者なる神がいらっしゃる。

そして、罪深い人間が存在する。

こういう2つの命題がある場合に、当然の結末は、

法を破った人間は、法にしたがって神の裁きを受ける、である。

仮に、神が法を破った人間をそのままに放置するならば、法体系が破壊される。

たとえば、学校で、校則を破って生徒が授業中に勝手に校庭で野球を始めるとする。

それを学校側が認めてしまうと、校則は有名無実となり、その学校で誰が権威かわからなくなる。

そして、ついにはその学校は秩序が破壊され、めちゃくちゃになって廃校に追い込まれる。

神はこの宇宙を法によって支配されている法秩序の世界として創造された。

だから、神の定めた法を破るならば、破った本人に処罰が加えられる。

「え～！神は愛のお方だから、人間を裁くことはなさいません！」とかいう人は、神を愛のお方と見ていない。

そんな神は秩序破壊を止めることができない無能な神である。

自分が創造した宇宙を破壊されても何もしない神は無能であり、統治者として失格である。

神が神であり、創造世界を保持され、発展されるならば、どうしても違反者を処罰せざるをえない。

だから、聖書においては処罰規定がある。

これは、「秩序の維持と発展のため」である。

われわれが罪を犯すときに、それは神の御前で犯すので、際限がない。100兆年刑罰を受けても足りない。

たとえば、床にミルクをこぼすとする。そのすべてを元通りにすることができるだろうか。拾い集めて全部もとのコップに戻すことができるか。マイクロ単位まで回収できるか。

不可能である。

神は絶対に義なるお方なので、われわれの少しの違反も容赦できない。そのすべてについて「償い」を求める。

一生償いの業のために働いても、神の基準は絶対なので、際限がない。また、償いをする間にも罪を犯すから、さらに新しい負債が増えていく。

泥沼である。

われわれは、神が要求されるレベルの回復はできない。われわれがこの被造世界で作りに出した「損害」は、絶対に完全に埋めることはできない。

だから、永遠の刑罰しかないのである。永遠に償いのために苦しむ以外にはない。

それゆえ、われわれに代わって完全に義なるお方が、無限の償いの力のある神が、負債を支払う以外には方法はない。

キリストは、神であると同時に人間でもあられる。

人間だけならば、一人分の償いしかできない。

神でもあられるので、無数の人の償いが可能なのだ。

神であって、人間でなければ、人間の身代わりになれないので、償いはできない。

イエス・キリストにおいてのみ、われわれは、神の御前に償いを完了することができる。

これで、神の被造世界の秩序は完全に元通りになる。

神は法制定者として、被造世界の秩序維持を完成された。

イエスが十字架においてすべての罪の責任を負われたときに、被造世界の償いは完了した。

このように、聖書的キリスト教だけが世界の現実を正しく解釈し、また、解決と救いを与えてくれる。

その他のすべての世界観は、首尾一貫性に乏しく頼るに値しない。

702 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月27日(月) 午後2時01分

タイトル: 不義をもって真理をはばむグループから出なさい!

「というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。…党派心を持ち、真理に従わないで不義に従う者には、怒りと憤りを下されるのです。」(ロ

一マ 1・18、2・8)

最近、ユーチューブのコメントで「平和があれば、真理なんて関係ない」という人がいたので、「偽りでは平和は得られません」と答えた。

私は、嘘をついてまで人を幸せにしたいとは思わない。

なぜならばそんな幸せはかえって人を不幸にするから。

それで、厳しいようだが、真理に基づいて、狭い道を歩くことを勧めている。

(1)

ここの箇所では、真理をはばんでいるものが2つ挙げられている。

1. 「不義」

人が真理を拒む原因の一つは「不義」である。

自分の快不快を中心に生きると、真理よりも不義を選択する。

罪の生活を捨てたくないで、真理があっても見なかったことにする。

2. 「党派心」

人に救いを求めるから「党派心」が生まれる。

グループを作って救われたいという気持ちは、神への信仰の欠如である。

そのような集団を形成しても、呪われるだけだ。

一見すると、平和だが、本当のところは、嘘と偽りで腐り果てているグループからは出るべき。

(2)

なぜならば「神の怒りが天から啓示されてい」て、「怒りと憤りを下される」から。

「真理をさけてグループを作りたがる」のは、「赤信号みんなで渡れば怖くない」という心理からでしかない。

どんなに大集団を作っても、神から見ればごみである。

「見よ。国々は、手おけの一しずく、はかりの上のごみのようにみなされる。見よ。主は島々を細かいちりのように取り上げる」(イザヤ 40・15)

真理よりも和を大切にするようなグループにいられなくても卑屈になる必要はない。

まもなく、彼らは裁かれる。

(3)

ある保守系の SNS が統一協会とのつながりがあると分かったので、出た。

それに、最後のほうになると、閲覧制限を自分で解除して閲覧していることが分かったので、「管理人とグルでやっている」と判断した。

「伴天連気違い」とか「統合失調症」とか罵倒されていたが、自分のこれまでの経験からクリスチャンを追い出すようなグループには裁きが下ることを知っていたので、ご愁傷様としかいいようがない。

実際、ネット上でその団体が似非であることがほぼ公然化している。

なぜならばまともな保守運動に入り込んで、自分のサイトの宣伝を「データを書き換えて」行ったからだ。

こういうことができるのは、「気が狂った」からである。なぜならば、自分が宣伝するよりも、そういうことをやられた人が自分たちについてマイナスの宣伝をするほうが有害であるのは明らかだから。

(どうも中韓の作業員は、管理者パスワードを手に入れる技術を持っているとしか思えない)

(4)

今の時代は、「不義をもって真理をはばむ」時代であり、まともではないので、所属する社会から追い出されても全然後ろめたさを感じる必要はない。

学校でも職場でも、グルになって悪いことをしている人々は、「こそこそ」し、「横眼でこちらを見る」。

集団の圧力でこちらよりも優位に立とうとする。

根性が腐っているので、相手にしないほうがいい。

裁きを神に任せなさい。

ある程度の努力をしたら、足のチリを払って出ることだ。

改革なんかする必要もないし、ましてや同化などするべきでもない。

自分はいつらとは違うんだと思って、決別すること。

そして、自分は「真理だけを尊重する」と宣言して、他人の目とか無視して生きること。

全能の神に頼れば、もう何も必要ない。

真理を愛する人々が集まってくるから、その人々と仲良くなればいい。

投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月27日(月) 午後3時27分

タイトル: 捨てるべきものを捨てられない人は神の国(契約)と無縁である

教会の学生会に所属していた頃、青年会の人々が陰気に見えてしかたがなかった。

彼らが学生だったころのことを知っているのだから、なおさらだ。

大学の聖書研究会のころ、青春のページをともに描いた友人たちが、社会に出てそろって大きく変貌した。

「この人はこんな人じゃないはず」とずっと思ってきた。

個性がみんな消されている。

鋳型にはめられたような顔になっている。

これは、キリスト教についてもいえる。

今のキリスト教は、大体みんな同じ顔だ。

カルヴァン派とアルミニウス派との違いは非常に小さくなっている。

どうしてこんな現象が起きるのか？

「人を恐れているから」

これしかない。

社会に出てから顔が暗くなるのも、キリスト教にほとんど差がなくなるのも、全部人を恐れることからきている。

自営業の人は、比較的学生時代と変わらない。

自分で思い通りにできるからだろう。

経済的に会社を成立させるのは大変だが、しかし、組織に属しているときの個性を押し殺すプレッシャーからすると、私には耐えられる。

「自分のいのちを救おうと思う者は、それを失い、わたしのために自分のいのちを失う者は、それを救うのです」
(ルカ 9・24)

犠牲を払うことを厭うならば、犠牲を払わされてしまうのである。

いずれにしる犠牲を払うことなしに生きられないのであれば、犠牲を進んでささげたほうがいい。

自分が神様の使命を第一として生きることによって、経済的に苦しくなり、それによって、奥さんがぎゃ〜ぎゃ〜言うようであれば、それは奥さんではない。

われわれに神は女性を「助け手」として与えてくださったのである。

神様の働きをする際に妨害するような人は、そもそも結婚すべきではなかったのだ。

だから、離婚しても差し支えない。

自分の子供が「家族を養うこともできないようなお父さんを軽蔑する」と言ってきたら、「衣食住と教育があればことたれりだ。それ以上の義務はない」と言え。

「それ以上のものがほしければ、バイトして稼ぎなさい」と。

他人の家と比較して文句を言うなら、そんな息子は息子ではない。

あなたは神の国のために身軽になりなさい。

「自分のいのちを救おうと思う者は、それを失」うのだ。

あなたがどんなに頑張っても、イエスのために働くことを犠牲にしてまで家族に奉仕しても、家族はあなたを捨てる。

奥さんに贅沢な宝石を与え、子供に高価なゲーム機を与えても、彼らは感謝もしない。

あなたは、最後に、家族に軽蔑されたまま裏切られてすべてを失って呆然とする。

「わたしのために自分のいのちを失う者は、それを救う」

イエスのために自分の一切を捨てる人は、それを獲得する。

聖書に従う決意をして、教え通りに生活する中で人々が自分の周りから去っていったならば、それは、「もともと出会うべき人ではなかった」のであり、そういう人々に思いを入れてはならないのである。

これは、「選び」の問題であって、われわれの努力を超越した世界の出来事である。

100 万回説得しても、選ばれていない人をイエス・キリストの信仰に導くことは不可能である。

しかし、選ばれている人は一言福音を聞いただけで回心する。

今の福音派や他のクリスチャンの教派から再建主義に至るには選びが必要であり、その際に、「ふるい分け」が行われる。

これはイエスが投じられる「火」であり、「家族の中が分裂する」。

「あなたがたは、地に平和を与えるためにわたしが来たと思っているのですか。そうではありません。あなたがたに言いますが、むしろ、分裂です。今から、一家五人は、三人がふたりに、ふたりが三人に対抗して分かれるようになります。

父は息子に、息子は父に対抗し、母は娘に、娘は母に対抗し、しゅうとめは嫁に、嫁はしゅうとめに対抗して分かれるようになります」(ルカ 12・51-53)

真理こそが重要であり、その他は捨ててもいいものである。

捨ててよいものを捨てないと、結局、「捨てさせられてしまう」。

捨てるべき生ごみを捨てないでとっておくのが苦痛のように、捨てるべき人間関係を捨てないでおくのは地獄である。

「わたしのもとに来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、そのうえ自分のいのちまでも憎まない者は、わたしの弟子になることができません。自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません。

そういうわけで、あなたがたはだれでも、自分の財産全部を捨てないでは、わたしの弟子になることはできません」(ルカ 14・26、27、33)

捨てるべきものを捨てられない人は、神の国（契約）とは無縁である。

704 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012 年 2 月 28 日(火) 午前 1 時 58 分

タイトル: 神が最後の最後に立ち上がってくださったと信じる

=====

私は、そのとき、ヨシュアに命じて言った。「あなたは、あなたがたの神、主が、これらふたりの王になさったすべてのことをその目を見た。主はあなたがたがこれから渡って行くすべての国々にも、同じようにされる。彼らを恐れてはならない。あなたがたのために戦われるのはあなたがたの神、主であるからだ。」

私は、そのとき、主に懇願して言った。

「神、主よ。あなたの偉大さと、あなたの力強い御手とを、あなたはこのしもべに示し始められました。あなたのわざ、あなたの力あるわざのようなことのできる神が、天、あるいは地にあるでしょうか。どうか、私に、渡って行って、ヨルダンの向こうにある良い地、あの良い山地、およびレバノンを見させてください。」

しかし主は、あなたがたのために私を怒り、私の願いを聞き入れてくださらなかった。そして主は私に言われた。

「もう十分だ。このことについては、もう二度とわたしに言ってはならない。ピスガの頂に登って、目を上げて西、北、南、東を見よ。あなたのその目でよく見よ。あなたはこのヨルダンを渡ることができないからだ。ヨシユアに命じ、彼を力づけ、彼を励ませ。彼はこの民の先に立って渡って行き、あなたの見るあの地を彼らに受け継がせるであろう。」（申命記 3・21-29）

=====

(1)

毎週礼拝でこの箇所を読んでいる。

「彼らを恐れてはならない。あなたがたのために戦われるのはあなたがたの神、主であるからだ。」

最初、ここに目が留まった。

主ご自身が戦われる。

これほど強い励ましはない。

われわれが戦うのではない。神がわれわれのために戦われる。

だから、われわれの前に敵はいない。

(2)

世界の人口を 90% 余剰とし、水道水に化学物質をまぜ、食品に精子の数を減らす薬を入れ、空からへんな物質をまき散らして、人々を殺そうとする連中に対する戦いは始まった。

神ご自身がイルミナティ・フリーメイソンと戦ってくださる。

イルミナティ・フリーメイソンの連中の親玉であるロスチャイルドは、ここで滅ぼされた民族カナンの子孫と自称している。

音楽業界にカナンの神イシュタルを持ち込み、レディー・ガガに演じさせている。

これほどわかりやすいことはないだろう。

(3)

われわれの戦いは、古代においてモーセの民が戦ったものと並行しているのだ。

モーセは、荒野を旅したが、ヨルダン河を渡ることができなかった。

それは、イスラエル人が逆らったために、先走った奇跡を行って、神のみ怒りを招いたからだ。

モーセが、カナン征服に参加できなかったことは、「律法の限界」を示している。

動物犠牲ではだめなのだ。

予型ではだめなのだ。

本当の征服は、律法ではできなかった。

征服は、イエスの時代からだ。

イエスのヘブライ語読みは、「ヨシュア」である。

イスラエルの民は、ヨシュアを先頭に、カナンの土地を征服していった。

われわれは、イエスが十字架にかかり、昇天され、天の座に座られた紀元 70 年以降、ヨシュアであるイエスに率いられた民である。

われわれを通じて、世界は征服される過程にある。

われわれの前に神ご自身が、カナンの神々（つまり、悪霊）と戦ってくださる。

(4)

自由の女神像は、イシュタルである。

なぜならば、あの像を作ったフリーメイソンがイシュタルを拝んでいるからだ。

神は、現代のカナン、フリーメイソンを打倒してくださる。

マイケル・ジャクソンは、2009 年に「あと 4 年で正さなければならない」と言った。

「それを過ぎると、取り返しがつかない」と。

ついに神が、最後の最後に、立ち上がってくださったと信じる。

705 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月28日(火) 午前3時09分

タイトル: いつもご支援を感謝いたします

ご覧いただき感謝いたします。

いつもご支援を感謝いたします。

基本的に、このサイトの情報は、富井が個人的に運営しており、プロバイダ料、家賃、光熱費、書籍費、研究費など、私のポケットマネーから支出しております。

皆様に置かれましては、ともに神の国を建設するという目的に賛同していただけますならば、ご支援を賜れば幸いに存じます。

なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

在主

富井 健

706 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月28日(火) 午前3時42分

タイトル: 車を探しております

お祈りください。

現在、車を探しております。

だいたい車検付で、6万円くらいなら支出できます。

今人から借りているのですが、車検の代車として必要だとして返却しなければならず困っております。

どなたかお近くで不要な車がございましたら、よろしくお願ひ申し上げます。

富井 健

707 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月28日(火) 午前4時56分

タイトル: TVが伝えたくないブータン国王の演説

<http://www.youtube.com/watch?v=2udKKREpIEQ&feature=related>

日本人に自信を持たせるような部分を全部カット。

やっぱりTVは反日でした。

708 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月28日(火) 午後9時46分

タイトル: ものみの塔とモルモン教はフリーメイソンだ

ものみの塔とモルモン教は、フリーメイソンだ。

<http://www.youtube.com/watch?v=7n43Ike6tL8&feature=g-all-u&context=G28932caFAAAAAAAAAAAAA>

このビデオで、これらキリスト教系新興宗教とフリーメイソンの密接な関係が暴露されています。

フリーメイソンつながりで言えば、ディスペンセーションナリズムもフリーメイソンなので、ものみの塔とモルモン教とディスペンセーションナリズムは同じ起源をもつ兄弟関係にあると言えます。

さらに、統一教会も創価学会も、ロックフェラーとつながるイルミナティですから、代表的な新興宗教はほとんど全部同根。

形は違えど、世界統一政府樹立のために仕組まれた時限爆弾。

われわれが倒すべき敵は、フリーメイソン・イルミナティです。

すべてはここに集約されている。

709 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年2月29日(水) 午前0時42分

タイトル: デイズニーランドの洗脳システム

<http://www.youtube.com/watch?v=0f8jsuUHPw&feature=fvwrel>

ディズニーランドに秘密会員制クラブ 33 があります。

<http://www.ued.janis.or.jp/~shimizu/disney/gallery/club33/club33.htm>

もちろん、33 はフリーメイソンの数字。

フリーメイソンの最高位は 33 階級。

ウォルト・ディズニー自身、フリーメイソン 33 階級でした。

<http://www.theforbiddenknowledge.com/hardtruth/waltdisney.htm>

表向きには、米国ディズニーランドのニューオリンズ・スクエアの 33 ロイヤル・ストリートにあったというのが理由。

設立当初、クラブの最初の後援企業は次の 33 社であった。

- 1.Kodak
- 2.Atlantic-Richfield
- 3.Bank of America
- 4.Bell Telephone
- 5.C & H Sugar
- 6.Frito Lay
- 7.General Electric
- 8.Global Van Lines
- 9.Carnation
- 10.Hallmark
- 11.Goodyear Tire and Rubber Co.
- 12.Douglas Aircraft
- 13.Coca-Cola
- 14.Hills Bros. Coffee INC.
- 15.INA
- 16.Lincoln Savings and Loan
- 17.Monsanto CO
- 18.Pendleton
- 19.Pepsi-Cola
- 20.Ken-L Ration
- 21.Aunt Jemimas
- 22.Atchison, Topeka and Santa Fe
- 23.Spice Islands
- 24.Chicken of the Sea
- 25.Sunkist
- 26.Sunsweet Growers INC

- 27.Swift & CO
- 28.Timex
- 29.United Air Lines
- 30.The Upjohn CO
- 31.The Welch's Grape Juice Company INC
- 32.Wurlitzer
- 33.Western Printing and Litho CO

ディズニー自身がフリーメイソンで、ディズニーランド内部に 33 の数字にこだわった施設を作ったということは、ディズニーランド自体がフリーメイソンの施設であるとしか考えられません。

クラブ 33 は秘密結社の性質を多く残しています。

Wikipedia によると、

ディズニーランドのテーマランドの 1 つ「ニューオリンズスクエア」に、ウォルト・ディズニーが客人を招待する目的として作られたレストランで、会員の欠員が出た場合に、追加募集が行われているが、3~4 年後まで希望者が順番待ちしているような状態（ちなみに、米国では、入会料が法人の場合 27,500 ドル。個人は 10,000 ドル）。

欠員が出ない限り入れないとは、ボヘミアン・クラブと同じシステム。

http://en.wikipedia.org/wiki/Club_33

次のような噂がある。

- ・クラブ 33 は撮影は可能だが、一般公開や掲載は禁止
- ・オリエンタルワールドの秘密会議の場
- ・社員かスポンサー、企業、政治家の偉いさんのみ利用可能

<http://www.theforbiddenknowledge.com/hardtruth/waltdisney.htm> によると、

ウォルト・ディズニーは、スコティッシュ・ライトの第 33 階級フリーメイソンで、その全生涯を通じて、秘密結社のシンボルを子供向けの作品に登場させ、来たるべき日のために、子供をオカルトに慣らさせようとした。

<http://www.youtube.com/watch?v=FfqaamqLmmQ&feature=fvst>

上記のビデオを見ると、いかにディズニー作品に性的サブリミナルが多用されているかわかります。

CIA の内部告発者によると、CIA の下請け建設業者が、1977 年ディズニーワールドの地下のトンネルの建設に関わったそうです。ディズニーワールドの近く、ホールデン湖の下には大きなプログラミング・センターが建設

されました。

このトンネルと地下施設の目的は、トラウマに基づいて完全にマインドコントロールされた奴隷たちのプログラミングを行うことにあるそうです。

この CIA の下請け業者は、秘密保持を厳命され、宣誓をしましたが、この秘密のシステムを暴露しようとしたマインドコントロールの犠牲者によって様々な訴訟が起き、秘密が暴露されてしまったそうです。

ディズニーランドは、一種の洗脳宗教なのでしょう。

いろんな洗脳システムが隠されていると思います。

710 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012 年 2 月 29 日(水) 午前 8 時 13 分

タイトル: ディズニーランドの洗脳システム (訂正)

3~4 年後

→

3~4 年後

711 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012 年 2 月 29 日(水) 午後 8 時 32 分

タイトル: 神は、クリスチャンにこの地上を支配させたいのである！

日下公人 v s 増田悦佐著『それでも、日本が一人勝ち！』(WAC) は非常に面白い。

ただ、日下氏のいつものことだが、キリスト教や聖書に対する誤解に基づく敵意がひどい。

残念なことだ。

=====

「旧約聖書」には奴隷に関する記述が多く、支払能力がなくなった債務者は債権者によって子どもを奴隷として売却せよと強制されたり、貧困から逃れるために自らを積極的に奴隷として売り込むこともあったようです。

(p138)

=====

私はずいぶんと聖書を読んできたが、このような「子どもを奴隷として売却せよと強制され」という記事に出会ったことがない。

聖書の奴隷制度は、誤解が多いので説明するが、あれは「7年の限定」である。

つまり、7年以上奴隷にされることはない。なぜならば、イスラエル人は互いに神の子だったから。

イスラエル人は、神と契約を結び、神の宝の民となったのであるから、自由であるという思想が聖書にはある。

そのため、債権者は、どんなに相手にお金を貸していても、7年以上の使役を強制することはできない。必ず奴隷を解放し、借金を免除しなければならない。

だから、借主は、それで解放されて、もう一度出直すことができた。

しかも、奴隷とはいっても、地位は「家族」と同じである。

奴隷は主人の相続に与ることもできた。

自主的にその家の奴隷として残ることもできた。それは、今日でいえば、サラリーマンのようなもので、独立してリスクを負うよりも、自分は組織の中で働くほうが向いていると考えて、主人に仕える道を選択できた。

奴隷が逃亡した場合に、その逃亡奴隷を主人のもとに強制的に返すことは禁止されていた。

だから、基本として、聖書における奴隷制度とは、ほぼ「徒弟制度」に近いものだった。

6年の間に仕事を覚えて独立することができる技術を身に着けることも可能だった。

債権者に渡した土地は持ち主が簡単に買戻すことができた。

=====

もし、あなたの兄弟が貧しくなり、その所有地を売ったなら、買い戻しの権利のある親類が来て、兄弟の売ったものを買い戻さなければならない。

その者に買い戻しの権利のある親類がないときは、その者の暮らし向きが良くなり、それを買い戻す余裕ができたなら、売ってからの年数を計算し、なお残る分を買い主に返し、自分の所有地に帰る。

もしその者に返す余裕ができないなら、その売ったものは、ヨベルの年まで、買い主の手に渡る。ヨベルの年にその手を離れると、その者が、自分の所有地に帰る。(レビ記 25・25-28)

=====

ここで、

1. 親類は、土地回復に積極的に努力しなければならない。これは、神の民は、親族単位で地の支配者であり、その支配力を失わないために親族単位で努力することを定めている。

われわれ神の民が、地上において支配力を失うならば、サタンの支配力が強くなり、地上が地獄に変わってしまう。

それを防ぐために、神は、われわれに土地を所有させ給う。土地を失うことは、支配力を失うことと同義である。

そのために、神は家族や親族のシステムを尊重される。神の民は、親族総出で、支配力を失わないために努力しなければならない。

2. 経済的に回復し、買い戻す余裕ができた場合、お金を出せば買主から買い戻すことができる。買主はそれを拒否できない。

この律法によって、神の民の土地所有は優先され、地上支配は確立しやすくなる。買主に渡っている間の土地代は、代金からディスカウントされる。つまり、持ち主は買主に貸しているような形になっている。

これも持ち主優先の原理である。

3. ヨベルの年にすべて戻る。

50年に1度のヨベルの年になると、代金を払わずに、土地は持ち主に戻る。

これによって、実質的に神の民は資産を失わないで済む。

以上のように、聖書が定める奴隷制は、強制奴隷ではなく、借金を返すための一時的な労働規定である。

基本は、「神の民は地上の支配者であり、そのため、資産とくに土地に関しては格別に優遇措置が取られている」。

神は、クリスチャンにこの地上を支配させたいのである！

712 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月1日(木) 午後1時29分

タイトル: クリスチャンは地上において力をつけることを目指すべきである

日本の人口が減少しているというが、今の経済制度では、減少せざるをえない。

社会の構造が「日本人による日本支配」を妨害している。

私が新人だった頃は、会社が人を育てようとした。

しかし、バブル崩壊以降、外資に企業が乗っ取られて、株主への利益還元が優先され、短期的に結果を出さざる

をえず、生え抜き社員の教育よりも出来上がった人をひっぱってきて利益を上げるようになっていると聞く。

これはすでにアメリカで行われていて、アメリカの産業はほぼ壊滅状態になった。金融だけでいままで生き延びてきたが、リーマンショックでそれもつぶれた。

私は、このような現象は、「屠殺」と考える。

サタンの傘下に入ると、一時的には太らせられるが、最後には殺されて食肉にされる。

われわれは、学校において進化論や無神論の教育を受け、キリスト教を毛嫌いするように誘導され、映画や TV やロックやディズニーアニメの中でサブリミナルを入れられ、水や食品にホルモン異常を起こさせるような物質を混ぜられて、次第に世界統一政府を受け入れる妖怪のような人間に変えられてきた。

しかし、経済状況がいいと問題意識を持ちにくい。だから、これまで気づかずにきた。

連中が 911 をやったのは、「もはや気づかれてもいい」と思ったからだろう。

もしくは、大きなドジを踏んだか。

われわれは、このままだと数が減少し、連中の思うままになる。

とくに、キリスト教の場合は、ディスペンセーションリズムにおいて「致命的な毒」を混ぜられたから、滅亡は必至である。

今ようやくちらほら、牧師の中でも「このままだとやばい」と気づいてきたのではないかと思う。

「どんちゃん礼拝」をやって若い人が集まっているうちはいいが、神学が霊的自殺を誘発するものなので、お祭りが終わればその前提が実行され、敵が用意した滅亡へのレールをつたって深淵に落ちていくだろう。

無牧の教会は全国で増えている。

サタンの傘下に入ると、最後は滅亡なのだ。

繁栄は一時的だ。

自らを救いたいならば、神学を徹底して変えるべきだ。

もうごまかすのはやめて、聖書と向き合うべき。

聖書に何も書いていないような虚構で組み立てられたディスペンセーションリズムなる異端から離れて、再建主義を受け入れるしかない。

日本人の人口は減るかもしれないが、クリスチャンが聖書に立ち返って、ポスト・ミレを信じて、世界の獲得を目指すならば、クリスチャン人口が増えるから、日本におけるキリスト教の影響力は相対的に拡大する。

今がチャンスだ。

とにかく、われわれは、自分の勢力拡大を目指すべきだ。

いろんな意味で力をつけてほしい。

経済的にも、政治的にも、そして、人口的にも。

経済的に裕福になれば、子供の数も増える。

自然増加と伝道の相乗効果によって、どんどんクリスチャン人口が増えて、日本において大きな勢力にならないといけない。

そのためには、まず自分を教育する。いかに自分がこれまで洗脳の中にあっただかに気付く。

そして、友人や知人に伝えて、覚醒の輪を広げる。

自分の家族や親族が裕福になって影響力をつけるために働く。

それによって、ポスト・ミレの神学を持つ（ディスペンセーションナリズムとカリベラル、バルトはだめ）牧師や伝道者を養い、学校を作り、次世代をポスト・ミレで教育する。

「再臨が近い」なんていう牧師に献金しても、ムダ金になる。

どれだけ「天におけるがごとく、地上でも御心が行われるように」という祈りを実践するか。

これがわれわれが地上で生命を与えられている目的である。

クリスチャンは地上において力をつけることを目指すべきである。

713 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月1日(木) 午後1時51分

タイトル: 主の祝福がご支援いただきました皆様の上に豊かにありますように

このたびのご要請のメッセージにこたえていただき、ご支援いただきました皆様に感謝いたします。

主の祝福が、常々ご支援いただいているみなさまの上に、及び、今回ご支援いただきました皆様の上に豊かにあり

ますようにお祈り申し上げます。

富井 健

714 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月1日(木) 午後2時53分

タイトル: 大変な時代

また業者が月が替わっても支払がなかった。

今業界が大変なことになっているのかもしれない。

10年の付き合いだが、きちんと払ってくれていたが約4か月前に1回。そして、今回。

今やっている仕事が3月末まであって、その支払いがきちんと行われるかどうか。

前回以来、業者を切り替えつつある。

とにかく、経済的には日本はひどいことになっているのかもしれない。

このような大変な時代において、今回ご支援をいただいた皆様には本当に感謝いたします。

主の祝福が豊かにありますようにお祈りさせていただきたく存じます。

715 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月1日(木) 午後3時22分

タイトル: 人は環境によらず自分の罪の責任を負う

クリスチャンとか牧師が不祥事を起こしたとする。

たとえば、ひき逃げ死亡事故とか。

ここで、「死んだ人は、地獄に行くのに、殺した運転手であるクリスチャンは天国に行くというのはおかしい」という議論があるが、対神関係と対人関係の問題を混同している。

(1)

1. 神対人の関係

信仰を持ち、バプテスマを受けてクリスチャンになった人は、神に対する責任を帳消しにされる。なぜならば、キリストの贖いが適用されるから。

いくら事故の被害者でも神との関係で信仰を持っていなければ罪の贖いが適用されないで神に対する責任が残る。

2. 人対人の関係

信仰を持っているからといって、対人で責任を背負ったら、それは免除されない。ひき逃げをしたら、その刑罰を負い、被害者に賠償する責任を負う。

聖書律法には、1と2のいずれも規定されている。

故意の殺人に対しては、死刑。

故意ではない殺人に対しては、贖い金で解決できた。

その他の犯罪については、同害刑法が適用される。

つまり、「目には目」。目を損なったら、目と同等のものを損なわれる。目に値する金で解決することもできた。

対人責任について、刑罰は、被害者が決定する。

被害者が目をやられた場合、目を損なうことを最高の刑罰として、それ以下の刑罰を選択する権利がある。

なかったことにすることもできる。

(2)

「罪の重さとしては相対的に低い対人責任が残るのに、対神責任はキリストによって解消されるというのはおかしい」という人がいるが、対神責任はキリストの贖い以外では償えないからだ。

どんなに努力しても、神に対する責任を人間は完全に果たすことはできない。だから、キリストにあって赦しを願うしかない。

対人責任に関しては、原則として法律もしくは示談で解決がつくので、果たすべき責任が残る。

(3)

「ローマ・カトリックやヨーロッパ列強が、キリスト教を信じながら、侵略を行って、現地人を虐殺し、それでも天国に行ける」というのはおかしい、という人がいる。

聖書では、はっきり規定しているが、「略奪を行う人は神の国を相続することはできない」。

侵略をする人々は、クリスチャンではない。契約から追い出される。

侵略をする人々を残す教会は、教会そのものが神から除名される。

たとえその人々が教会に残ることができたとしても、神の御手にある「命の書」から名前が消される。

(4)

被害者が純真無垢であるとは限らないので、被害者がどんなにひどい害を受けて死んだとしても、そのひどさが被害者の犯した罪を赦免することはない。

「この人はクリスチャンの無謀運転で殺されたのだから、クリスチャンが天国に行けるならば、被害者も天国に行けるのが当然ではないか。」というのは、問題の混同である。

極悪非道のことを繰り返してきた組長が、他の組員からいかにむごたらしい殺され方をしたからといって、その極悪非道の責任が帳消しにならないのと同様である。

人は、環境がどうであれ、自分が犯した罪の責任を問われる。

だから、キリストを信じない人は、自分の罪の責任を自分で払わねばならない。

716 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月2日(金) 午後11時28分

タイトル: すぐれた営業マンになれ

知人で、パチンコで身を滅ぼした人がいる。

借金を作ってどうしようもなくなって自殺した。

彼はその前からどうも普通の人と違っていた。

それは、「いいカッコしい」なのである。

仕事が長続きしなかった。

保険の仕事をしていたが、「人に頭を下げてまで仕事を取りたくない」と言っていた。

この世界は、競争社会なので、「人に頭を下げることができなければ敗北するしかない」。

他人よりも奉仕の力がない人は、自らを滅ぼす。

仕事で失敗したら頭をぺこぺこ下げられなければ生き残れない。

相手に気に入られるように自分の好感度を上げることができなければ生き残れない。

自分に変なプライドがあれば、市場からはじき出される。

つまり、競争社会では、「よりクリスチャン的であること」が要求される。

クリスチャン的とは、イエスがペテロに示した手本である。

イエスは、ペテロの足を洗われた。

「上に立ちたいなら、仕える者となりなさい」

オウム真理教の信者たちが道場にこもって「修行」をした。

修行というのは道場などでできるものではない。

一番修行したいならば、会社の営業をやれ。

営業担当者として、客先を一軒一軒回れ。

頭を下げて自分のプライドを捨てることを学べ。

これが一番の修行だ。

自分の対応次第で、営業成績が変わる。

工夫をして、客に好まれるようにふるまう。

客の趣味とか誕生日を覚えて、プレゼントする。

こういうことが修行だ。

いちいち用事があると民間の企業の社員を霞が関まで呼び出す官僚とかが偉いのではない。

自分を鍛えたいならば、呼び出される側に回れ。

「相手の願うことをしなさい。これが律法であり、預言者である」とイエスは言われた。

聖書を一言で言い表せば、「すぐれた営業マンになれ」である。

717 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月3日(土) 午前3時31分

タイトル: 組織において個性を出すには10年20年かかる

会社の社員として仕事をしたことがある。3年間。

最初は どうしてかなぞだった。

人生の中で社員になりたいなんて思ったことはまったくなかったから。

どうしてもそちらに導かれた。

今考えると非常に貴重な経験をしたと思う。

営業課に配属になった。オン・ザ・ジョブ・トレーニングを受けた。

自分の性格は一つ一つ疑問が起きるとじっくり考えるタイプだ。だから、指示があると実行するのに時間がかかった。

しかし、会社の仕事はそれでは務まらない。

「遅いぞ」と怒鳴られる。

当然、考えずにただ上司の言うとおりに仕事をするようになった。

これはいい訓練である。

つまり、「自分がいいと思ったことだけやる」ようでは自分は鍛えられない。わがままを通すような人は、社会でやっていけない。

受け渡しというところに配属になって、ドキュメントの作成をした。

船積書類を作成する。営業から回ってきた案件の文書化を行って輸出業務と銀行決算業務を行う。

営業から頼まれた仕事をすぐに行って、要求にこたえることができなければならない。

こういう仕事をすることによって、自分を殺す訓練を積むことができた。

牧師とか学校の先生とかを最初からやると、こういう訓練はできない。

今でも、翻訳の仕事は、手直しを求められる。

段落の換え方とか、いろいろこまごまとした修正である。

私は、真っ先にそれをやって、客先のニーズにこたえるようにしている。

後回しにすると、相手の信頼を失う。

だから、頼まれたらすぐにやる。

てきぱきと仕事をし、いつも明るくにこにこしていれば、客先や会社や職場の人々から好意的な評価を得られるだろう。

こうやってお得意様を増やして、営業成績や業務成績を上げることができるようになることが、人に仕えることである。

人に仕えていない人は、神にも仕えていない。

「信仰を貫けば迫害にあうのでは」というのは、特殊なケースである。

中には悪魔的な人がいる。

しかし、いくらか我慢していれば、誤解がとけて評価が上がるだろう。その悪魔的な人も黙るかもしれないし、他の部署に配属になったりするかもしれない。

それほどずっと迫害が続くなんてことはあまりない。

「自分の理想を追求したい」というのは、新人はやってはならない。

それは、10年20年と職場にいて、一つのステータスができてからだ。

新人のうちは自分を殺して職場に同化しなければならない。

もし10年20年待つよりも今理想を求めたいならば、組織を出るべきだ。

組織を破壊したり、混乱させることは、絶対に神の御心ではない。

組織でしか生きられない立場にあるならば、組織に順応すべきだ。

自分の個性を殺せ。個性を出すには10年20年かかる。

上司の意見を神の意見と思って従え。

もちろん、重大な悪を命令された場合を除いてだ。

しかし、そんなこと無数にあるわけではない。

「正しすぎてはならない。なぜ自分を殺そうとするのか」

投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月3日(土) 午前3時51分

タイトル: 組織の権威を認めたくないなら出るべき

誤解されているかもしれないが、私は、牧師をやめたときに、砂をかけてやめたのではない。

組織に入る前に、自分の考え方をきちんと文書にして提出した。神学校の卒論で再建主義の考え方を表明した。

その上で採用された。

だから、組織の中で違う立場を作り出して反乱を起こしたのではない。

じゃあ、どうして追い出されたのかというと、リーダーが立場を変えたからだ。私が公表していた教えに反対しだしたのだ。

それで、私はそのままとどまることになる、秩序を破壊することになるから、出ることに決めた。

しかし、退職願を出すと、許可されずに裁判にかけられた。

これにはびっくりした。

中で裁判に参加していた中途採用の韓国人の牧師がいて、終わった後で私にこう言った。

「tomiさん、教会の中に立場の違う教えを持ち込んだら追い出されても当然ですよ」と。

それで、「私は、ちゃんと職場に入る前に立場を鮮明に出していました。私の考えを認めたくなくて採用されたのです」と答えた。

すると、びっくりしていた。

私は、組織を破壊したくないし、みんなを混乱に陥れたくもないので、穏便に出ようとしたが、逆に捕まってしまった。

そして、かえって、騒動が大きくなってしまった。

とにかく、クリスチャンは組織の権威を認めるべきだ。

組織の権威を認めたくないなら、出なさい。

719 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月3日(土) 午後3時37分

タイトル: すぐれた営業マンになれ 2

「不義をもって真理をはばむグループから出なさい！」及び「捨てるべきものを捨てられない人は神の国(契約)と無縁である」と、「すぐれた営業マンになれ」は、どう調和するのか、という質問がありました。

組織が、非常に墮落して、自分を積極的に追い出しにかかっているならば、とどまる理由はまったくありません。

もちろん、こちらに原因がある場合は別です。

しかし、私の経験では、組織が裁かれる直前になると、発狂状態になって問答無用にいろんなことをやるようになります。

自分たちがやっている不義や矛盾を隠そうとして、正しいことを言う人々を追い出すようなことが本当に起こります。

食肉偽装の内部告発などありましたが、会社がああいう不義を行っている場合は、自分はできるだけそういった上層部の腐敗に付き合わないようにします。

しかし、そのレベルですまらず、法律違反や道義的違反が常態化し、社会的に道義的影響が大きいならば、しかるべき権威を使って（専務など管理職を通じて）経営陣に訴えます。

それでもだめなら、出るべきでしょう。

私はディスペンセーションナリズムを公に批判していますが、それは、外にいるからです。

もし私がディスペンセーションナリズムの教会に所属し、そこからお金をもらっている場合には、しかるべき権威（長老など）を通じて異論を唱えます。

それでも聞き届けられない場合は、組織を出ます。

「すぐれた営業マンになれ」は、これとはまったく違うレベルの状態です。

普通の営業活動、企業活動において、人に仕えることをすべきだということです。

企業や組織がものすごい悪に染まって、自分が道義的に正しいことを行うことができないような場合ではありません。

入る前からそういう会社かどうかはある程度わかるので、もしそういう自分のスタンスを保つことができそうにない会社なら、私は、最初から就職しません。

720 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月3日(土) 午後4時07分

タイトル: 神の国を作るには時間がかかる

われわれは、契約思想に慣れていない。

「正義を貫く」ということがあたかももっとも重要であるかのように考えられているが、「上下関係を通じて」である。

聖書契約は、次の5つの条件からなる。申命記は契約の書であり、以下の構造からなっている。

1. 超越と内在
2. 上下関係（ヒエラルキー）
3. 神法
4. 賞罰
5. 継承

1. 神は、超越者であり、すべての法を超えている。神を評価するための基準などない。神だけが基準である。神は内在者である。われわれの間におられるかたである。

2. 神はこの世界を代理者を通じて管理される。太陽に昼を管理させ、月に夜を管理させられ、人間に地球を管理させられた。人間社会は、神が立てられた権威を通じて管理される。すべて上に立つ権威は、神からのそれである。上に立つ権威に逆らうことは神に逆らうことである。上の権威が神に逆らった場合には、その権威を捨てることができる。

3. この世界は神の法によって動いている。自然の法則だけではなく、道徳的な法則がある。それが聖書に記されている律法である。

4. この法則に対してどのように対応するかによって、自分の運命が変わる。神は、神の法を犯す者を処罰される。神の法を守る者は祝福される。

5. 祝福と呪いは子孫や部下に継承される。神の法を破る人々は最終的に滅亡し、守る人々が祝福されて地上を支配する。キリストの贖いを受けない人は、永遠の呪いを受け、贖いを受けた人は、永遠の祝福を受ける。

われわれは、この契約のシステムを飛び越えて、支配を行うべきではない。

社会主義革命思想は、サタンに属する。

だから、社会主義国は、サタンの霊に支配されている。

われわれは、学校などを通じて、「正義＝革命」と学んできた。

正義を実現するには、組織の中で何年もかけて信頼を得ながら徐々に階段を上っていく必要がある。

自分がトップになったときに、その組織において自分の理想を「ある程度」行うことができる。

ある程度といったのは、自分だけが支配者ではなく、株主やいろんな権威がほかにもいるからである。

瞬時に神の国を作ろうなんてことは考えてはならない。

神の国を作るには時間がかかる。

721 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月4日(日) 午後7時56分

タイトル: 源泉徴収権を持つ者はその人の神である

以下は聖書の教えであって、私の献金要請ではないのでご理解をよろしくお願い申し上げます。

(1)

昔から親分というのは、稼ぎの何%かを取ってから、子分に金を渡すものである。

これが、主従関係というもの。

今の源泉徴収制度は、それゆえ、国と国民の関係が「主従関係」であることをはっきりと示している。

聖書では、神は契約の民の主権者として、十分の一を源泉徴収する権利を持っていると示している。

そして、これ以下しか渡さない場合、その人は神の主権を拒否し、自分が神になっているので、契約に属していないとみなされて除名される。

「あなたがたの先祖の時代から、あなたがたは、わたしのおきてを離れ、それを守らなかった。わたしのところ

に帰れ。そうすれば、わたしもあなたがたのところに帰ろう。——万軍の主は仰せられる。——しかし、あなたがたは、『どのようにして、私たちは帰ろうか。』と言う。

人は神のものを盗むことができようか。ところが、あなたがたはわたしのものを盗んでいる。しかも、あなたがたは言う。『どのようにして、私たちはあなたのもを盗んだでしょうか。』それは、十分の一と奉納物によってである。

あなたがたはのろいを受けている。あなたがたは、わたしのものを盗んでいる。この民全体が盗んでいる」(マラキ 3・7-9)

この宣言どおりに、紀元 70 年にイスラエルは契約から追い出された。

(2)

このように、十分の一の源泉徴収権は、きわめて宗教的である。

十分の一以上を取る者は、奴隷主である。

「(王は) あなたがたの羊の群れの十分の一を取り、あなたがたは王の奴隷となる」(1 サムエル 8・17)

だから、われわれにとって国家とは、奴隷主である。

(3)

クリスチャンでありながら、十分の一も神(特定の教会とか個人ではない)に渡せないというならば、もはやクリスチャンでも何でもない。

人間の究極的関心事の一つである金銭において神に主権を渡すことができないということは、他のすべての分野において神に服従する意思がないことを示している。だからその人は、契約の民ではない。

教会は積極的にこういう人々を除名すべきである。そういう人々が教会に残ることによって、教会自体に呪いがかかる。

そして、たとえ教会が除名しなくても、神はその人を「命の書」から名前を消されるので、クリスチャンとして教会によって葬られても、地獄に行く。

(4)

さらに、聖書からの論証：

パウロは、盗む者は、永遠の命を失うと述べた。

「盗む者…はみな、神の国を相続することができません」(1 コリント 6・10)

上記のマラキ書によれば、十分の一を神にささげない人は、盗む者である。

だから、十分の一を神にささげることができない人は、永遠の命を失う。(*) (**)

今日のディスペンセーションナリズムの教会が教えている「イエスを信じたら、何をしても救われる」というのはまったくの嘘である。

(*)

ただし、現在われわれの収入は国家によって40%盗まれているから、われわれが神に献金すべきなのは、10%ではなく6%である。盗まれたものは、収入に計算されない。

(**)

十分の一をささげるのは、神である。教会ではない。しかし、自分が教会の運営者になっている場合、つまり、役員として人事の議決権を持っている場合、教会に責任を果たすという意味で十分の一をその教会にささげるべきと考える。「自分は（たとえば）5%を他のミニストリにささげている」という人が議決権を持つようになると乗っ取りが行われる危険がある。

722 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月4日(日) 午後10時16分

タイトル: われわれの祈りによってイルミナティが崩壊

板垣氏の本日付ニュースレターによると、ロスチャイルドによるデイビッド・ロックフェラーとジョン・D・ロックフェラー

4世に対する手打ちの後、両者は完全に失脚したそうである。

ロスチャイルド家自身も、欧州諸国の国債危機や金融危機を解消、克服できずに勢いを失っていることが明らかになっている。

デイビッド・ロックフェラーという後ろ盾を失ったジョセフ・ナイ、リチャード・アーミテージ、その部下マイケル・ジョナサン・グリーン戦略国際問題研究所日本部長といった「日本マフィア」の残党たちは、「糸の切れたタコ」同然であるようだ。

いまは米産業界の尖兵でしかなく、安倍晋三政権を樹立して生き延びようとしているという。現在のホームベースは、戦略国際問題研究所という保守系シンクタンクである。

さあ、われわれの祈りが聞かれて、サタンがどんだん力を失っている。

この戦略国際問題研究所を潰してもらおう。

完全に悪魔を地上から追い出すために、さらにご加禱をよろしくお願い申し上げます。

723 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月4日(日) 午後10時32分

タイトル: どんなにやっても、神は報いてくださらない？

「信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、…神を求める者には報いてくださる方であることとを、信じなければならないのです」(ヘブル11・6)

「自分は、このまま追いつめられてどうしようもなくなるだろう。それが神の御心ならば、それにしたがって、永遠の地獄に落とされてもしかたがない。それに従います」

ということを言う人がいるが、これは、信仰でもなんでもなく、「神よりも自分を上に置く自我」の宣言です。

きわめてサタンの的であり、とうてい容認できません。

本当のクリスチャンは、「神に従う決意をするならば、必ず神は道を開いてくださる」と信じるのです。

「神に近づく者は、…神を求める者には報いてくださる方であることとを、信じなければならない」。

「どんなにやっても、報いてくださらない」と宣言することは、神に対する正面からの反逆であり、私は、絶対に認めることはできません。

傲慢です。

724 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月5日(月) 午後1時13分

タイトル: 神の法を守るつもりはないけど、祝福だけはほしい？

1回、カリスマ派の有名人の集会に出て、その異様な霊に強い違和感を感じたことがある。

明らかに違う霊だった。

私が子供のころから感じてきたすがすがしい霊ではない。非常にドロドロしたものを感じた。

メッセージの内容は、「聖書を勉強すると暗くなります」「精神病院はクリスチャンでいっぱいです」「イエスはハッピーな人でした。わはは、わははと笑っておられたのです」「律法など関係ありません。われわれは律法から自由です」といったものだった。

すぐにホールを出た。ロビーで、私を誘った川口氏が出てくるのを待った。(当時彼はいろんな集会を訪問していた。)

このカリスマ派の講師の教えから判断すると、カリスマ派とは、ニューエイジである。

つまり、聖書とは違う価値体系を持っている。

その価値体系をゴリ押しすることによって、信者に生活の中に様々な呪いがかかっている。

その呪いを、払しょくするために心理学で自分を励ます。

だから作り笑いを奨励する。

つまり、「キリスト教の外貌だが、内部は換骨奪胎されていて、全部スリカエが行われている。外貌を保つために無理やり、以前の外貌を作り出そうとしている」ということだ。

これは、無理である。長続きしない。

外面だけよくしても内面が変わっていなければ無理。

それで、基本的に、この教えを信じている人々は、呪われているということを理解すべきである。

じゃあ、なぜ呪われたのか。

もちろん、神の価値体系に反逆しているからである。

講師が「われわれは律法から解放されているのです！」と叫ぶと、信者たちが「アーメン！」と叫んでいた。

ある人から聞いたが、カリスマに限らず、牧師が信者と不倫しているということが普遍的にあるという。

これは、もはや教会の体を成していない。

これで精神が異常にならなかつたらそちらのほうが不思議だ。

クリスチャンが暗くなって、精神病院がクリスチャンであふれているのが事実であるならば、その原因は、「われわれは律法から解放されているのです！」という教えそのものである。

ディスペンセーションナリズムは、教会から「律法」を消し、「律法に伴う賞罰」という概念を消した。

だから、道徳的カオスが出現した。

キリスト教界全体に呪いが蔓延した。

私が福音派を出た 1990 年からこれまでの間にそういった状況が進んだのであろう。私が出る直前まではそれほどひどくなかったから。

「神の法を守るつもりはないけど、祝福だけはほしい」というのが、今のキリスト教界全般の傾向だと思う。

無理だ。

カオスからは地獄しか生まれない。

神の価値体系に「万事承知の上で」違反する人は、地獄しか残されていない。

725 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月6日(火) 午後5時01分

タイトル: 本当のクリスチャンには全的献身しか残されていない

クリスチャンになることは、「狭い道」を選択することである。

滅びに至る道は広い。誰もが簡単に選択できる道。

しかし、救いに至る道は、狭く、なかなか見つからない。

神はご自身が選んだ人々がその道を見つけられるように、手を引いてそこまで導いてくださる。

狭い道に入ると、その道はますます狭くなる。

「聖具」というものがある。それは、神殿においてしか用いられない道具である。

同じ水差しでも、神殿以外においては使ってはならない。

大なり小なり、クリスチャンとは聖具であり、その他のもののために使用されてはならない。

自分は特別にえり分けられていることを時間とともに自覚する。

神は、あなたがクリスチャンになると決断した瞬間に、「所有宣言」をされる。

あなたの所有権は完全に神に移った。

だから、神はそれをどこまでも主張される。

クリスチャンになってどこまでも自由になるという一面はある。

真理を知ると解放される。

しかし、同時に、「神の道具としての人生」が始まる。

自分の命を自分のために使おうと思っても、無駄だ。

全部ダメになる。

すぐろくのように振り出しに戻される。

われわれは信仰が進めば進むほど、道は狭くなって、選択の余地は少なくなる。

神が定められたコース以外に歩むことはできないとわかるようになる。

コース以外を歩もうとすると、ものすごいことに巻き込まれる。

出エジプトにおいて、神が紅海の水を割って、乾いた道を作られた。水が両脇で壁を作り、イスラエルはその道を歩んだ。

これと同じである。われわれは、この乾いた道以外、歩くことはできない。

脇道にそれると、水の中に入って濁流にのまれてぐるぐる翻弄される。

神が示された一本の乾いた道を歩く以外にはない。

早めにあきらめる人は賢い人。

自分は神の道具になったと自覚して、すべてをあきらめるべきだ。

自分のものとしてあるものを所有しようとする、それは腐る。

自分自身も、所有しようとしたものもダメになるので、共倒れになる。

本当のクリスチャンには、全的献身しか残されていないのだ。

726 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月6日(火) 午後6時52分

タイトル: ペンタゴン良識派が勝利するように祈ろう!

板垣氏の情報によると、デイビッド・ロツクフェラーが完全失脚したため、米 CIA が内部分裂しているとのこと。

駐日米大使館内「日米管理委員会」の対日工作担当者マイケル・グリーンらはデイビッド・ロックフェラーの配下である。

デイビッド・ロックフェラーは、世界の人口削減のために活動し、とくに黄色人種撲滅のために工作をしてきたという。

イラン・イスラエル戦争で、核戦争を起こして、それを世界に飛び火させて、人類の数を減らそうとしていた。

しかし、彼が完全失脚したことにより、パワーバランスが変わりつつあり、それと同時に、ペンタゴンの良識派に従う CIA の人々が現れはじめ、米国の権力は 2 分化されつつあるという。

この良識派は、日本の経済復興を強く支持しており、日本の先端技術による食糧問題解決などによる平和的な方法で人口問題を扱うことを支持している。

黄色人種撲滅政策は、中国からも反発があり、「洪門会」などが強く反発して米国にテロを仕掛ける計画を示し始めた。その数約 400 万人ともいわれている。

そのこともあって、CIA 内部に、「黄色人種撲滅派」を抑え込む作戦があるという。

安倍晋三と前原誠司は、好戦的 CIA の手下であり、安倍政権を成立させることにより、日本を第 3 次世界大戦に引き込み、戦費のスポンサーにしようとする策謀がある。

ペンタゴン良識派は、これを阻止し、平和国家日本を支持しており、ハーバード大学のジョセフ・ナイ教授、米 CIA

軍事部門資金担当の大ポスリチャード・アーミテージ元国務副長官、その配下の対日工作担当者マイケル・グリーン戦略国際問題研究所日本部長らの策謀を粉碎しようとしている。

ペンタゴン良識派が勝利するように祈ろう！

727 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012 年 3 月 7 日(水) 午前 4 時 26 分

タイトル: 脅迫を受けているモラルティ・イン・メディア

1962 年に創設された「モラルティ・イン・メディア」という反ポルノ団体がある。

最近、そのスタッフ全員に殺害の脅迫状がメールで届いたそうだ。

=====

FBI に通報したが、その脅迫がどれくらい本物であるかは不明だ。

脅迫はこれに留まらない。2週間ずっと攻撃が続いている。

2週間前に会長のドーン・ホーキンスは、スチュワーデスがサービスを拒否した場合、飛行機上でポルノを見ることを止めてほしいとある人に要請した。

このスチュワーデスは、その経験についてビデオをインターネット上にアップした。

それと同時に、ポルノ業界とポルノ愛好家から悪意のあるコメントがビデオに寄せられ、メールや電話も個人の電話番号やオフィスにかかってくるようになった。

彼らは、彼女の両親を尾行し、家に脅迫電話をかけるようになった。彼女の兄弟の電話番号もつきとめて、彼を攻撃した。

この団体は、ポルノと戦っているため、多くの人を怒らせている。

脅迫は続いているが、ドーンは、引き下がらない。彼女も、別の重要なビデオをアップして、ポルノに対する戦いに参加するように求めている。

現在、すべての航空会社に働きかけて、飛行機や空港においてポルノを禁止するように要請している。ポルノ化された社会において必要な戦いである。

ドーンとスタッフたちの戦いによって、闘争は広がっている。米国議会に働きかけており、ポルノによるひどい社会的病理を解決するために行動している。

<http://www.moralityinmedia.org/>

=====

ポルノは、悪霊の働きなので、悪霊を縛る以外には、方法はありません。

ぜひ悪霊が縛られるように祈ってください。

本当にロックフェラーが失脚したのであれば、かなりポルノ側も弱くなるでしょう。

ロックフェラーが徹底して無力になるように祈ってください。

728 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月7日(水) 午後7時49分

タイトル: 中国の秘密結社がイルミナティに対抗

古い情報ですが。

=====

中国の秘密結社がイルミナティに対抗

ヘンリー・メイコウ博士

2007年6月30日

東京を中心に活動するベンジャミン・フルフォードによると、6百万のメンバー（そのうち、180万人はアジアのギャングで10万人がプロの暗殺者）を擁する中国の秘密結社が、世界人口計画を推進するならば、イルミナティのメンバーを標的にした。

生物兵器によってアジアの人口を5億人に減らすイルミナティの計画を暴露したフルフォードに接触してきた。

「イルミナティは、日本を除き、非常に白人のゲームの要素が強い」とフルフォード。

この秘密結社は、フルフォードの情報を確認し、彼に助言を求めてきた。フルフォードは、イルミナティと関係のある1万人のリストを見せた。その主なメンバーは、ビルダーバーグ、CFR、スカル・アンド・ボーンズに属している。ネオコンも優先度の高いターゲットである。

「彼らが誠実に交渉に応じれば、一人として殺さない」との約束を得た、とフルフォード。

<http://www.project.nsearch.com/forum/topics/the-rise-and-fall-of-the>

=====

729 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月8日(木) 午後7時51分

タイトル: なぜディスペンセーションナリズムのクリスチャンはクリスチャンに敵対的なのか?

神の民は、自由人である。

それゆえ、モーセ契約を結んだイスラエルは、奴隷の民から自由の民になった。

それまでエジプトで奴隷として虐待されてきたが、神と契約を結んでから自由人として自立することができた。

ディスペンセーションナリズムは、このモーセ契約を「奴隷の契約」と見る。

なぜならば「律法を押し付けられたから」と。

ここで致命的な間違いをしている。

モーセ契約は、自由の契約であって、モーセ律法は自由の法である。

しかし、ディスペンセーションナリズムはそれは「奴隷の契約」「奴隷の法」と解釈する。

このような誤解があるからこそ、人々は「モーセ律法を現代社会に適用することに反対する」というのだ。

この誤解は、牧師や教職者に蔓延している。

私も神学校の説教の授業で「モーセ律法によって、われわれは自由を得られる」と説教したところ、改革派神学校出身の講師に「それはおかしい。律法は自由を与えない」と言われた。

びっくりした。

「改革派は、律法の効用を認めるはずなのに…」。

今の教会は、ほとんどがディスペンセーションナリズムに汚染されたと見ていいと思う。

自問自答してほしい。

「神が奴隷の律法をご自身の民に与えるだろうか？」と。

「ご自身の民をエジプトから救い出した後に、こんどは再度、奴隷にしたのか？じゃあ、いったいモーセによる救いとは何だったのか」と。

正答はこうだ。

「神は御民を奴隷から救われて、自由人とされた。だから、モーセ律法は、自由の法である」と。

「え～！十分の一をささげよ！」との命令が自由のためなのですか？と問うかもしれない。

十分の一は自由への一里塚である。

十分の一を怠ることによって奴隷の生活が始まる。

なぜか。

十分の一を怠れば、クリスチャンの指導者が貧乏になる。

↓

指導者が貧乏になれば、サタンの指導者たちのほうが強くなる。

↓

クリスチャンの教育者にお金が行かず、ヒューマンイズムの教育者にお金が行くようになれば、当然ヒューマンイズムが勝利して、クリスチャンの文化が死滅し、サタンの支配が拡大する。

↓

結局、自分自身の首がしまつて、子子孫孫、サタンの奴隷となる。

単純明快である。

だから聖霊を受けながら、十分の一を惜しむようなことはまずないのである。

なぜ十分の一を収めたくないかという、聖霊を受けていないからである。

聖霊が内側にある人は、正統的な教えに対して出資するはずだ。

それから、クリスチャンの牧師や教師などに対して、先生と呼びたくないというクリスチャンがいるが、こういう人は聖霊が内側にないとみてよいと思う。

なぜならば、彼らは、ダンスの教師とかには先生と呼ぶからである。

つまり、こういう「クリスチャン」の内側には、基本的に「クリスチャンの活動全般に対する敵意」がある。

その敵意は、「再生していない自我」に由来する。

生まれ変わっていないのである。

律法を自由の法と受け取ることができないディスペンセーションナリズムの「クリスチャン」がなぜ、牧師やクリスチャン教師を先生と呼びたくないかという、**「そもそも心が再生しておらず、神への敵意があるから」**である。

神の敵がキリスト教に好意を寄せるはずがないではないか。

だから、その人がどういう人であるかということは、その行動を見ればわかるのである。

なぜディスペンセーションナリズムのクリスチャンが、クリスチャンに対して敵対的であるかは、「クリスチャンでないから」に他ならない。

731 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月9日(金) 午前9時57分

タイトル: 神だけに頼る信仰を身に付けよう (前の掲示は破棄してください)

教会が借金をしてはならない理由は、人集めに走るようになるからだ。

銀行にカネを借りて会堂を建てる。

月々の返済で一定額必要だとなると、できるだけ教えをソフトに人を怒らせないように配慮するようになる。

これで、すでにほとんど教会は本来の働きから離れる。

本来の働きとは、神の御心を伝えることだ。

人の顔色を見ていたら何もできない。

エリヤは、一人で数百人のバアルの預言者と対決した。

バアルの預言者は王からお金をもらっていたので、神よりも王のほうに顔が向いている。

エリヤは神だけに信頼していた。

どちらの祈りが聞かれるか、競争した。

聞かれたら、雨が降ると。

バアルの預言者は、いくら祈っても聞かれなかった。

エリヤの祈りはすぐに聞かれて、すぐに雨が降り、その上、天から火が降ってきて祭壇の上の犠牲を焼きつくした。

聖書の世界は、自然を超越している。

われわれは、祈りによって自然を超越した世界に入ることができる。

自然を超えた神に直接祈って御手を動かして奇跡を行っていただける。

その場合に必要なのは信仰である。

信仰があれば、エリヤがやったようなことができる。

人数は関係ない。

しかし、今の教会成長学で問題になるのは人数である。

今の教会では、「君の教会（またはミニストリ）は何人集まっているのかね？」と聞かれる。

多ければすごい、と評価され、少なければ、無視される。

だから、基本的にクリスチャンは、信仰では生きていないのである。

相手にしても仕方がない人々である。

むしろ、接触しないほうがいい。

あまりにも自然主義的であり、「目に見えるものに頼る」から。

接触しているうちに、そういう常識が身について自分も「数がすべてだ」と考えるようになる。

もちろん、数がまったく関係ないということをおうとしているのではない。

しかし、数に頼ることは偶像礼拝である。本物のクリスチャンは、神に頼った結果として、数を与えられるのである。

私は、基本的に数は関係ないと考えている。

しかし、いつまでたっても数が増えないと（聖霊による）世界征服はできない。

だが、これだけはどうしようもない。聖霊の働きなので、いくら人を感動させても、聖霊による生まれ変わりはそのような感動とか気持ちとかとまったく関係ないからだ。

神が永遠の昔に決定されたときが来れば、必ず増えるだろう。

われわれは、必ず支配者になる。

この世界は、クリスチャンが支配するようになる。

なぜならば、そのように神が計画されたからだ。

「地を従えよ」との命令が与えられ、それを成就するためにキリストが来られて、法的にはすでにキリストは王になり、世界はキリストによって支配されているのだ。

だから、その法的支配が実際の支配に変わるのは時間の問題であって、「できるかできないか」の問題ではない。

必ずキリストは世界を征服される。

そして、われわれはキリストとともに支配者になる。

われわれ（もしくは、われわれの子孫）は、将来何兆円、何京円というお金を扱うような人々になる。

だから、われわれは、子供の教育において子供たちに、将来あなたたちが支配者になるからと教えるべきだ。

ディスペンセーションナリストの家庭ではそんなことは絶対に教えない。

「もうすぐ再臨です。友達を誘って教会でクリスチャンにしましょう」としか言えない。

そんな「待っているだけで、無為無策の状態」を 200 年続けてきたのである。

無為無策をしている間に、ロスチャイルドが世界支配のために次々と戦争を起こして人々を虐殺していった。

役立たずのクリスチャンを大量生産してきたのがディスペンセーションナリズムである。

しかし、われわれは、今、ディスペンセーションナリズムを捨てる決心をした。

そして、祈り始めた。

山を動かす祈りを。

ロスチャイルド・イルミナティを潰すための祈りを。

ロックフェラーを倒す祈りを。

どうだろうか、形勢がどんどん変わっているではないか。

イルミナティ・フリーメイソン側からの情報でも、すでにロックフェラーが完全失脚したとある。

どうしてだろうか。

われわれが祈ったからだ。

われわれは、自然を超越した力を持っているので、神に祈ることによって、神の御手が動いて、悪魔の陣営を破壊することができたのだ。

200 年間、彼らはわれわれのようなグループが起きることを恐れてきた。

つまり、「サタンが王ではなく、キリストが王であり、クリスチャンが祈るときにサタンは滅亡せざるをえない」ということを信じるグループが起きることを恐れてきた。

欧米の再建主義は、それほど「呪いの祈り」を強調していない。

しかし、われわれは強調する。

なぜならば、祈りは何よりもパワフルだから。

1000 兆円積むよりも、祈りのほうが強い。

神の御手が動くから強い。

このような祈りの輪が広がることによって、どんどんサタンの陣営がつぶれていく。

この世界から邪悪なものを根絶するためにわれわれが祈れば、それができるのだ。

そのためにも、信仰を養おう。神だけに頼る信仰を身に着けよう。

732 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012 年 3 月 9 日(金) 午後 11 時 14 分

タイトル: これから 3 代後がどうなっているかは、われわれの責任である

(1)

ホームスクーリング運動は、ポスト・ミレでなければほとんど意味がない。

プレ・ミレのホームスクーリングとは、「アクセルを踏めといいながら、横の教官がブレーキを踏んでいるような」自動車教習に似ている。

なぜ国家やヒューマニズムの教育を嫌って、クリスチャンの教育を選択したのか？

「子供をダメにしたいから」ではないのか。

子供をヒューマニズムから救ってどうしてプレ・ミレの猛毒にさらすのか。

たしかに、ヒューマニズムの教育から救ってあげることによって、ジェンダー・フリー教育や、ホモセクシュアルの教育、過激な性教育、無神論、進化論から救ってあげることができる。

しかし、プレ・ミレは、「やっても無駄だ。再臨を待つしかない」という無為無策を奨励する教えである。

こんなあきらめを教え、国家の奴隷のままでよいというような教えでどうやって子供を救ったといえるのか。

徹底したらどうだろうか。

聖書によって次のような首尾一貫した教えで統一したらどうだろうか。

=====>

神は、「地を従えよ」とアダムに命令された。

アダムが失敗したので、神はイエスを送られた。

イエスは、「世を征服した」と勝利宣言をされ、この世界の王になられた。

イエスにつく、クリスチャンも王である。

だから、クリスチャンは、地上を支配することができる。

最終的に、クリスチャンは全世界を征服し、全地をエデンの園、楽園に変えることができる。

<=====

これを教えるのが本当の教育ではないだろうか。

プレ・ミレは、以上を全部否定する。

=====>

神は、「地を従えよ」とアダムに命令された。

アダムが失敗したので、神はイエスを送られた。

イエスは、「世を征服した」と勝利宣言をされ、この世界の王になられた。

イエスにつく、クリスチャンも王である。

だから、クリスチャンは、地上を支配することができる。

最終的に、クリスチャンは全世界を征服し、全地をエデンの園、楽園に変えることができる。

<ただし、>これが成就するのは、イエスが再臨された後である。

今の時代において、われわれが何をしても、どう努力してもサタンの支配を覆すことは不可能である。

今われわれができることは、一人でも携挙される人を教会に集めることだけだ。

<=====

お分かりのとおり、これは、実際には「ただし」以前の文章の否定である。

クリスチャンの王権が発効する時代を未来に設定することによって、現在のクリスチャンの力を封じ込めている。

このような教えに、教会は、200年間騙されてきた。

だから、われわれは、目を覚まして、正しい教えに復帰しなければならない。

プレ・ミレで教育しても、無能なクリスチャンを再生産するだけである。

自分の子孫にパワーを与えるためには、ポスト・ミレに切り替えるべきだ。

プレ・ミレの教育は、それがホームスクーリングであるにせよ、ないにせよ、全部、子孫を破壊する教育である。

あなたがプレ・ミレで教育し続けることによって、あなたの子孫は先細りになる。

ポスト・ミレで教育し続けるならば、あなたの子孫は、地上を支配する。

強大な権力を資力を持つ家系になる。

(2)

子供は吸収力が強いので、正しい教えを与えると、そこから出発するからわれわれとは別の種類の人間になる。

われわれの世代は、ヒューマニズムで思想が汚染されているので、なかなか正しい教えが入っていかない。

雑念が多すぎる。

せっかくラッシュドゥーニーを勉強しても、また、ヒューマニズムのレベルにまで落ちる。

何度も失敗して、苦しみをなめながらやっと少し進歩する。

子供は真っ白だから、違う。

ラッシュドゥーニーから出発する。

ラッシュドゥーニーが当たり前になっている。

それを前提として、疑いもなく進歩する。

こういった教育が、2代3代続くとどうなるかというと、スーパーマンが誕生する。

われわれと質的にも量的にもまったく違ったクリスチャンが誕生する。

足をひっぱるものが内側にあまりない。

聖霊の働き方が尋常ではない。

今日本で、3代目のクリスチャンを見かけるが、だいたいにおいて、ダメだ。

どうしてダメかというと、教えがプレ・ミレだからだ。

「あきらめろ」という教育から生まれるのは、「あきらめた」人間である。

エリートが育つわけがない。

これから3代後がどうなっているかは、われわれの責任である。

われわれが、プレ・ミレを根絶して、ポスト・ミレに決然と立つことができなければ、われわれの子孫も呪いを被って、無力なままだ。

(3)

サタンの妨害があるだろうが、われわれがしっかりしていれば、3代か4代先に奇跡は起きる。

ものすごい才能の人間が現れれば1代でもクリスチャンの政党をつくるくらいのことは可能だ。

問題は、教えで妥協しないことである。

ポスト・ミレに反対するような人間とは別れるべきだ。

自分の頭の中を聖めるべきだ。

733 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月10日(土) 午後10時38分

タイトル: 自分の次元を一つ上にあげるべきだ

「もう老人になって何も楽しみがない。死んだほうがましだ」

という人がTVに出ていた。

こういう姿が自分の姿だとしたら悲惨である。

ノンクリスチャンは、神がないから、自分の状態によって「生きがい」ができたり、できなかったりする。

クリスチャンにとって、老人になることは、「栄光に近づいている」ということであり、「永遠の安息」の世界に入ることができるということの意味しているので、若い時よりも喜ぶべきだ。

今の文化は、若者中心である。

だから、禿げが忌避される。

TVの宣伝でできるだけ禿げを隠そうとする。

しかし、聖書では、禿げや白髪は「栄光」である。

髪の毛は、「保護」を象徴するので、髪の毛が薄くなるということは、「それだけ自立している」ことを象徴している。

男性の中年以上が髪の毛が薄くなるのは、神が「おまえたちは、保護される立場から保護する立場に変わったのだから、他の人々を守ってあげなさい」と示すためである。

さらに、TVで「寝たきりになって、もう人様に迷惑をかけるばかりで、他人に役に立つことはできなくなりました」という老人がいた。

「寝たきり」になっても祈ることはできる。

祈りによって世界は変わるのである。

世界のすべてのものの上におられる神に直接お願いすることができるのだから、一日中祈って神に求めるべきだ。

一人の人が一日中熱心に祈ってくれたらどれだけ助かるか。

私にはそういう人が一人でもいれば非常に助かる。

サタンの妨害を封じ込めることができれば物事がスムーズに行くからだ。

祈りも含めて、寝ていてもできる仕事があればするべきだ。

人生が終わった後に、神の御前に出たときに、「与えられたチャンスをどのように利用したか」について問われる。

たとえ、寝たきりになったとしても、時間は与えられていたのであるから、その時間に何をしたのかについて責任を問われる。

現象の世界だけだと誤解したままだと、絶望の種はつきない。

聖書の世界を知って、自分の次元を一つ上にあげるべきだ。

投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月11日(日) 午前6時35分

タイトル: 神を試す者は、逆に神に試される

「祈った結果を追跡調査して、祈りに効果があるかどうか調べた」などという研究がある。

このような研究は無駄である。

なぜならば、祈りは、自然秩序を超えた領域だから。

自然秩序の範囲内のことであれば、科学的調査は適用できるが、自然を超えた事柄については適用できない。

たとえばこう考えるとわかりやすい。

ゲームにおいて、コンピュータを操作して、コンピュータ内の様々な人物（アバター）を動かすとする。この人物を通じてコンピュータ内の環境を操作できると。

しかし、この人物は、操作者であるわれわれを動かすことはできない。

われわれは、このアバターにとっては、超越者である。

われわれは、コンピュータ内の環境に支配されない。

われわれは都合によって、このコンピュータ内のある環境をゴミ箱に捨てて、全部真っ白にすることができる。

これと同じように、神はわれわれの世界の法則にはまったく支配されない。

われわれが祈るときに、われわれの祈りは、この世界の法則を超越している神に届き、神が、その祈りに応えて、この世界の法則を超越して、様々な事物に働きかけられる。

だから、祈りに関して何らかの法則を発見したり、適用することは不可能なのである。

「神を証明する」などということも不可能である。

神は法則に左右されないので、「Aという条件があれば、必ずBという結果が出る」というようなシステムの中では生きておられない。

われわれにとって、神の働きは、「常に」なぞである。

たとえ聖書が記している因果律があったとしても。

「善を行えば、祝福が、悪を行えば、呪いが」という法則があったとしても、それが、必ず 100%、一定の規則にしたがって一定の時期に成就するとは限らない。

神は主権者であり、超越者なので、人間の思惑の一切を超越しておられるので、

「御霊は思いのままに吹く」とあるとおりである。

われわれが生活するこの自然世界は、空間と時間を基本軸として成立している。

しかし、神はそれを超越しておられるので、その自然法則に支配されず、それゆえわれわれにとっては「気まぐれ」に見える。

この気まぐれこそが、超越者の証拠である。

だから、研究者が試験管の中に神を入れても、そこには、神は入られない。

人間が神を試すなどということは絶対に不可能である。

オーディションの会場に神が来るのを待っていても、現れない。

「私の会場におまえが来い」と言われる。

どちらが主なのか？

創造者なる神が主である。

だから、神をオーディションで評価しようとしても、無駄である。

神を知る唯一の方法は、「へりくだる」ことである。

神を主権者として認めない限り、神を知ることは不可能である。

神をオーディションの会場に呼び出して踊ったり歌ったりさせようとしても絶対にできない。逆に、自分が無理やり、オーディションの会場に引っ張り出されて踊ったり歌ったりさせられるだろう。

神を試す者は、逆に神に試されるのである。

735 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月11日(日) 午前10時37分

タイトル: 反日から親日に覚醒した中国人の手記

<http://www.youtube.com/watch?v=waoAw2RXX5A&feature=related>

736 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月12日(月) 午前7時28分

タイトル: KONY 2012

<http://www.kony2012.com/>

KONY 2012 というキャンペーンがある。Invisible Children という団体が開始したものだ。

KONY 2012 はウガンダの反政府勢力神の抵抗軍 (LRA) の指導者、Joseph Kony を 2012 年の間に逮捕しようというプロジェクト。

彼はウガンダ北部を中心として 1987 年以降残虐行為を伴い、また少年兵を使ってゲリラ闘争を続けている世界的な犯罪者だ。

http://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=Y4MnpzG5Sqc#!

<http://www.youtube.com/watch?v=BwN-WZjgrSQ&feature=relmfu>

まず、違和感を感じるのは、このような犯罪者は、アフリカに普通にいる。政情不安の国では、どこにでもいる。

なぜ Kony 一人なのか？

国際戦争犯罪人のトップリストに上がっているが、以前ここには、ビン・ラディンやフセイン、カダフィが載っていた。

世界政府のこれまでの常套手段：

1. 犯罪者をつくり出す。
2. プロパガンダで有名にする。
3. 国際社会の名を借りた米国が征伐に乗り出す。
4. その犯罪者の国を乗っ取る。

日本もこの手でやられたからわかるだろう。

突然軍閥が力を持ち出して、勝手に大陸に侵略。

南方に移動して英米の権益をおかす。

英米と対決。

占領。

犯罪者は、彼らに作られたのだ。

満州国建設とか、731部隊とか、バターン死の行進とか、南京大虐殺とか。

石原、石井、辻、なんか得体の知れない人間を使って暴れさせた。

「西にヒトラーがいれば、東に日本がいる」という構図を作りたかったのだろう。

われわれ、普通の日本人から見て、異常な人間がどんどん勝手なことをやり始めたならば、そういうことだと理解したらいい。

当時、政治家も暗殺につぐ暗殺で、軍人には手が出なくなっていた。

今、世界政府は、アフリカを取ろうとしている。

そこで Kony なる人物が選ばれたというわけだ。

オバマ大統領は、議会の承認を経ないで、エジプト、リビア、シリアに戦力を投入している。

このようなアフリカへの侵略は、すでに3年半前に Webster Tarpley 博士が予言していた。

http://www.youtube.com/watch?v=H3Z0Z33ODD4&feature=BFa&list=HL1331504412&lf=mh_lolz

しかし、米国にも、どこにも資金がない現在、こんな侵略を続けても結局破滅するしかないだろう。

バベルの塔は完成直前で崩壊する。

いや、われわれが祈りによって崩壊させる。

737 投稿者: kusakabemanai

Date: 2012年3月13日(火) 午後2時10分

タイトル: 絶望的な抵抗をするロックフェラーの生き残りたち

政治評論家板垣英憲氏の本日付のニュースレターによると、

米原子力規制委員会（NRC）の日本政府に派遣していたアドバイザーの一部が、任務終了後も残って野田佳彦政権に干渉し、様々な要求をしているという。閣僚人事にも口を挟んでいる。

IAEAのナンバー3、ディビッド・B・ウォーラー副事務総長（副専務理事、事務局長）、ランス・ガトリング（軍人、核戦争の専門家）のほか、駐日米大使館内「日本管理委員会」所属の米CIA要員たちが中心となった総勢約20人だ。

福島第1原発大事故（2011年3月11日）直後に「アドバイザー」として首相官邸内に派遣していた専門家チームであったが、ディビッド・B・ウォーラー副事務総長、ランス・ガトリングらは、日本に居残りし続けている。

これらのメンバーのリーダーは、「日本管理委員会」の主であるマイケル・ジョナサン・グリーンCSIS日本部長である。

どうして、ここまで干渉するかというと、一つは、日本が核兵器を所有しているのではないかという疑念だ。

日本は、「潜在的核保有国」と言われている科学技術大国だ。

米英仏中ソ核保有国は日本の核開発技術を恐れている。

ヒラリーは、事故直後から菅に「核兵器を爆破せよ」と命令していたそうだ。

日本はすでに「核保有大国」であり、その拠点の1つが、福島第1原発であるという説もある。

もう一つの理由は、彼らは「日本乗っ取りグループ」であり、これから世界を救えるのは「日本だ」と見抜いているからだ。

「最終的に世界のイニシアティブを取るのは、日本だ。この流れは変えられない」と直感しており、日本が世界を救える力の源泉は、「天皇家の財宝」にあると知っている。

なんとかそれを利用して生き延びようとしているということらしい。

しかし、デイビッド・ロックフェラーが完全失脚したため、彼らの土台はすでに崩壊している。

これまで日本に対して振るってきた拳を見せつけることしかできない。

私から見れば、もはやアメリカは張子の虎であり、裁かれる運命にある。

地震を起こして、原発事故を起こしたのも、日本を恐れ、日本に天下を取られることを恐れているからにほかならない。

しかし、文明の進展は、明らかに東から西に移り、もともとエデンの園があった土地に一周して戻ってきた以上、日本がこれからの中心になることはすでに決定された運命であるように思える。

われわれは、70年にも及ぶ奴隷から解放されようとしている。

これからは、自由に地下資源を掘って、エネルギーを自給でき、わが国の産業は比類なき発展を見せることであろう。

どうか、マイケル・グリーンはじめ、ハイジャッカーのチンピラどもが、あきらめて自国におとなしく帰るよう祈ってください。